

科目名	人間らしさとは何か			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	溝田 順子	関連する資格		

授業概要

人類の誕生から人間社会の形成に至るまでの過程を学び、人間の「いのち」がどのように育まれてきたか、人間らしさとは何かを学ぶ。
 それぞれの発達段階における心身機能の変化や多発する疾患、老化に伴う機能低下が及ぼす生活について理解する。
 また、人の生涯を「生老病死」の思想からとらえ、医療が人々の生涯を通じて人間形成にどのように関わるべきかを学習する。

到達目標

ナンバリング(A2101)

- ・人の誕生を説明できる
- ・人の成長・発達について理解できる
- ・老化に伴う生活の変化と、高齢者に多い疾患について説明できる
- ・人間らしさについて自分の考えをまとめることができ、人間をめぐる課題を討議できる

成績評価方法

授業時随時行う小レポート・小テストおよび期末試験の総合評価

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○	○			20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 成長発達とは何か 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
2) 人間とは何か 人間らしさとは 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
3) 人間の体の構造と機能 - 1 【予習】配付資料を見ておく（60分） 【復習】小テスト（30分）	小テスト
4) 人間の体の構造と機能 - 2 【予習】配付資料を見ておく（60分） 【復習】小テスト（30分）	小テスト
5) 人間の健康・病気・発達 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
6) 乳幼児期の発達と機能 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク 乳児期を取り巻く環境
7) 学童期の発達と心身機能、多い疾患 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク 学童期を取り巻く環境と支援
8) 思春期・青年期の発達と心身機能 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
9) 思春期・青年期に多発する疾患 【予習】各自作成したレポートを見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
10) 成人期の発達と心身機能 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
11) 成人期に多発する疾患 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク 成人期における環境
12) 老年期の心身機能と特徴 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
13) 老化に伴う生活上の変化と対応 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク 老年期における環境
14) 老年期に多い疾患 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
15) 人の発達と課題 【予習】各自作成したレポートを見ておく（30分） 【復習】レポート作成（60分）	レポート
授業外学習	
6)7)9)11)13)では、各発達段階における課題とは何か、授業内容を基に自分の意見を小レポートにまとめ提出する。 3)4)では、授業で講義した内容を小テストをする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
配付資料 参考図書 新看護学15（精神看護） 医学書院 発達と老化の理解 中央法規	人体の構造と機能（看護）

課題に対するフィードバック

小テストは解答と説明を行う。レポートについては翌週コメント記載し返却する。またグループワークに活用する。

備考

科目名	日本文化論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	白石 義孝		関連する資格				
授業概要 「倭は 国のまほろば たたなづく 青垣 山隠れる 倭しうるはし」 現存するわが国最古の書物（歴史書）である古事記（ふることふみ）は、天武天皇の命により編纂され、8世紀初頭（飛鳥時代から奈良時代）のわが国における天皇中心の社会と世界観を形成するための思想的背景となった。 本授業では、現代でいうところの「美しい国 日本」および「クール ジャパン」の思想の原点ともいえる古事記を、難解な原典ではなく、2015年に完結するまでの32年間でコミックス全23巻にわたる大作「天上の虹」（持統天皇物語）の作者である、里中満智子氏のコミック版を読み解いて理解を深めていくこととする。 なお、授業中のプレゼンテーションの一環として、古事記がアニメ化された場合のアフレコを想定した音読を実施する。							
到達目標 A3101 1．現存するわが国最古の書物（歴史書）である古事記を読み解くことにより、古代日本（飛鳥時代）の社会と世界観について理解を深める。 2．神話に登場する神々の物語を読み、伝統的な皇室祭祀の意味、および全国各地の神社に祀られている神々との関係を理解する。 3．クールジャパンとして世界に誇るわが国のコミック文化において、巨匠と位置づけられる作家の作品のうち、歴史を扱った大作に親しむ。			成績評価方法 定期試験または期末レポート（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験（中間・期末）	○	○		○			40
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		
演習		○	○		○		
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) 古事記（上巻）この世の始まり・天の石屋戸 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 八俣大蛇・大穴牟遲 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 根之堅州国・大国主神 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 少名毘古那・国譲り 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 天孫降臨・木花之佐久夜毘売と石長毘売 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) 山幸彦と海幸彦・豊玉毘売と玉依毘売 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 古事記（中巻）神武東征・天皇誕生・欠史八代 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 三輪山の大神主神・沙本毘売・本牟智和氣御子 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) 小碓命・出雲建・倭建命 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 草薙剣・弟橘比売・倭建命の帰還 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) 息長帯比売・大雀命 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 古事記（下巻）皇后石之日売・皇位継承 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) 歴史への道 予習：テキストの指定したページを読む（45分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 予習：テキストの指定したページを読む（120分） 復習：最終課題を作成する（180分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト ・マンガ古典文学『古事記』（上）・（下）（里中満智子、小学館文庫） 参考書・参考資料等 ・古事記（西宮一民校注、新潮日本古典集成 新装版、新潮社） その他講義中において適宜紹介する。	現代社会の教育、ボランティアと社会

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

- ・各地の神社仏閣を訪問する際に、その歴史的背景や祀られている神仏について調べてみましょう。
- ・皇室で行われている宮中祭祀の歴史的背景と目的について調べてみましょう。

文庫版の文字が小さく、吹き出しのセリフが読みづらい場合は、文字の大きいワイド版（全2巻）をすすめる。

- ・古事記 壹(マンガ古典文学シリーズ)、小学館、ISBN: 4093621918
- ・古事記 弐(マンガ古典文学シリーズ)、小学館、ISBN: 4093621926

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、我々を取り巻く健康問題（担当：上田真寿美） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
2) 現代生活における健康と運動 - これからの健康づくりと運動（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
3) 現代生活における健康と運動 - 疾病予防のための運動とは（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
4) 現代生活における健康と運動 - 運動不足と健康障害（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	グループワーク
5) 運動と身体健康 - ヒトの発育・発達 ヒトにおける形態や機能の変化（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
6) 運動と身体健康 - 乳児～青少年の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
7) 運動と身体健康 - 成人～高齢者の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
8) 運動と身体健康 - 女性の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 中間総括（特に運動と健康領域） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	小テスト
9) 健康づくりと食生活（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
10) 食生活の変遷と栄養の問題点（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
11) 生活習慣病の予防（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	グループワーク
12) 食生活改善への施策(1)（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
13) 食生活改善への施策(2)（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
14) 食の安全性と表示（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	小テスト
15) 総括（担当：田坂克子） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
授業外学習	
当該授業の前週に、次週の授業の資料配布と参考文献を提示する。それについて予習を行い授業に参加すること。授業内容について毎回まとめておく。それらを参考に課題レポート（授業内・宿題）を作成し提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用せず、適宜、書き込み式資料を毎回配布する。	

課題に対するフィードバック

提出された課題レポートについては翌週コメントを付けて返す。

備考

科目名	自然災害			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

集中豪雨、地震、津波など、大災害が毎年のように襲ってくる時代、自然の変動が我々の生活に直接に影響を与えている。こんな時代には、自然現象を科学的に見る能力が必要。
この授業では「流れ」をキーワードとして、自然現象、特に海と大気に関することを学ぶ。また、エルニーニョ、北極振動、PM2.5などの具体的な現象について理解を深めます。さらに、東日本大震災、御嶽山噴火被害、広島土砂災害、熊本地震、最近の自然災害についても詳しく解説。
グループ討議を設定しています。この討議では自分の意見を主張して積極的に参加する。

到達目標

A1115
自然現象・自然災害を科学的にみる。
災害時には、避難行動を的確に行う。

成績評価方法

質問・感想カード、レポート、グループ討議の態度と定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 水の性質（密度、比熱、気化熱など） 予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；水の基本的な性質を確認する（30分）。復習；	
2) 海の流れと観測（海流、潮汐、黒潮など） 予習；海洋の流れについて概観する（30分）。復習；流れの特徴について整理する（30分）。	
3) 風 予習；風の起こり方について概観する（30分）。復習；特に、偏西風について確認する（30分）。復習；	
4) 雲・雨・雪 予習；該当分を概観する（30分）。復習；雲の種類を確認する（30分）。	
5) 海流・大気の周期的変動 予習；海流と大気の流れの関連について概観する（30分）。復習；地球規模の変動について確認する（30分）。	
6) 波 予習；波の部分について確認する（30分）。復習；波と流れの関連について確認する（30分）。	
7) 災害の基本的な知識とグループ討議 予習；災害の部分の全体を概観する（30分）。復習；基本的な事項を再確認する（30分）。	ここまでの要点をまとめて、レポート作成する。
8) 災害の記録1 予習；災害の記録1の部分の概観する（30分）。復習；災害の記録1を再確認する（30分）。	レポート提出
9) 災害の記録2 予習；災害の記録2の部分の概観する（30分）。復習；災害の記録2を再確認する（30分）。	
10) 災害の記録3 予習；災害の記録3の部分の概観する（30分）。復習；災害の記録3を再確認する（30分）。	
11) 災害の記録4 予習；災害の記録4の部分の概観する（30分）。復習；災害の記録4を再確認する（30分）。	
12) 災害の記録5 予習；災害の記録5の部分の概観する（30分）。復習；災害の記録5を再確認する（30分）。	
13) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議で生じた疑問点の解決に費やす（1時間）。	グループ討議と要点の確認
14) 最近の自然災害と避難方法 予習；最新の自然災害情報について調べておく（30分）。復習；最新の災害への対処について確認する（30分）。	
15) まとめと	
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。自分の住んでいる地域で自然災害が起こった時に避難するルート、避難の手順を確認しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使いません。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。	地球の現在・過去・未来

課題に対するフィードバック

毎回の授業後に提出する質問・感想カードの解答などを、次回の講義の始めに行う。レポートを提出後に間違い、問題点を指摘して、返却する。総評をする。

備考

科目名	現代教養研究（環境と生活A）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	松本 治彦、白石 義孝	関連する資格		

授業概要

地球規模の環境問題から身近な生活環境の問題まで多面的に考察する。取り上げるテーマとしては、自然災害、異常気象、大気汚染、放射性物質、太陽活動、海洋変動と気候変化などから受講者の興味関心に応じたテーマを選び、関係する文献を講読する。その後に、各自で資料を検索して自分自身の考えをまとめて、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。

到達目標

A1125
授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる。

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							50
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	
2) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
3) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
4) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
5) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
6) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
7) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
8) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
9) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
10) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
11) 文献講読および個人研究発表 予習、復習は文献読み込み、プレゼンテーションの準備、討議に対する準備に当てる（1時間）。	各自で発表する。
12) レポート作成指導 予習、復習はレポートの作成に当てる（1時間）。	
13) レポート作成指導 予習、復習はレポートの作成に当てる（1時間）。	
14) レポート作成指導 予習、復習はレポートの作成に当てる（1時間）。	
15) 総括	
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読。 講義資料を復習。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業内で紹介。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

レポート提出後に、問題点などを指摘して、返却する。総評する。

備考

科目名	現代教養研究（文化と歴史B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	白石 義孝	関連する資格		

授業概要

社会人学生（教養履修学生）を対象として、国内外の歴史や文化に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。

到達目標

A2302

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること	個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	グループワーク プレゼンテーション
12) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	個人ワーク プレゼンテーション
13) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	個人ワーク プレゼンテーション
14) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（150分）	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括 予習：資料収集、プレゼン準備（180分） 復習：レポート作成（300分）	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること テーマに関して、郷土資料館や博物館などの訪問調査を行って報告すること 予習および復習の時間には学外での取材時間を含む	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業内で紹介する。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

質問のうち、即答可能なものは口頭で回答、補足が必要なものは資料を配布する

備考

教養履修学生対象の授業のため、開講しない場合がある
市民公開講座として開講する場合がある
一般学生が受講する場合は高校「日本史B」の既修得を条件とする
(高校「日本史B」レベルの知識がない場合は受講を認めない)
卒業予定の4年生の受講は認めない(卒業研究と両立できないため)

科目名	現代教養研究（健康と生活B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格		

授業概要

社会人学生（教養履修学生）をおもな対象として、現代の健康づくりや生きがい、生活設計（ライフプランニングや終活を含む）などに関する文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。2020年度は「ファイナンシャルプランナー3級」を目指した授業を行う。

到達目標

A3103
 国家試験「ファイナンシャルプランニング技能士3級」に合格する。
 授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる。

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 国家試験の説明をするので必ず出席すること	個人ワーク
2) ライフプランニングと資金計画 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
3) ライフプランニングと資金計画 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
4) リスク管理 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
5) リスク管理 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
6) 金融資産運用 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
7) 金融資産運用 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
8) タックスプランニング 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
9) タックスプランニング 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
10) 不動産の知識 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
11) 不動産の知識 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
12) 相続・事業承継 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
13) 相続・事業承継 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
14) 総括（国家試験直前対策） 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括（国家試験の振り返り、レポート作成） 予習：国家試験の自己採点（45分） 復習：レポート作成（180分）	個人ワーク プレゼンテーション
授業外学習	
9月13日（日）または1月24日（日）に実施される国家試験「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」を必ず受験すること （国家試験の申し込みを7月28日（火）21時または12月1日（火）21時までに各自で済ませておくこと） 発表する課題に関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・うかる！FP3級 速攻テキスト 2020-2021年版（日本経済新聞出版社） ・うかる！FP3級 速攻問題集 2020-2021年版（日本経済新聞出版社） 	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

質問のうち、即答可能なものは口頭で回答、補足が必要なものは資料を配布する

備考

COVID-19の感染拡大の状況によって開講しない場合がある
夜間の市民公開講座として開講する
電卓を持参すること
単位認定は国家試験の結果通知書を提出した者についてのみ行う
(万一、9月の試験が不合格の場合は1月試験に再チャレンジできる)

科目名	現代教養研究（環境と生活B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	白石 義孝、松本 治彦	関連する資格		

授業概要

教養履修学生を対象として、環境とビジネスとの関係について、地球レベルから地域レベルの問題にいたるまで多面的に考察する。
 取り上げるテーマとしては、地球温暖化予測の現状と世論の動向、石油等の化石燃料に替わる新しい天然資源の開発コスト、再生可能エネルギーに関するビジネス、燃料電池と水素などから受講者の興味関心に応じてテーマを決定し、関係する文献を講読する。その後、各自で資料を検索し、自分自身の考えをまとめて、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行ってもらおう。

到達目標

A3104
 授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる。

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							50	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション							20	
グループワーク							10	
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること	個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（180分）	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業内で紹介する。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

質問のうち、即答可能なものは口頭で回答、補足が必要なものは資料を配布する

備考

教養履修学生対象の授業のため、開講しない場合がある
市民公開講座として開講する場合がある
卒業予定の4年生の受講は認めない(卒業研究と両立できないため)

科目名	現代教養研究（総合研究A）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

教養履修学生を対象として、歴史や文化、健康と生活あるいは環境と生活に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。

到達目標

ナンバリング(A4102)

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							50	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション							20	
グループワーク							10	
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること		個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
授業内で紹介する。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目	

課題に対するフィードバック

備考

市民公開講座として開講する場合がある
今年度は開講しない

科目名	現代教養研究（総合研究B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

教養履修学生のみを対象として、歴史や文化、健康と生活あるいは環境と生活に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。（一般学生は受講できません）

到達目標

ナンバリング(A4103)

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること		個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
授業内で紹介する。		現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

備考

履修条件：現代教養研究の ~ のうち3科目以上と を履修済みであること

科目名	日本語表現法演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	武市 眞弘	関連する資格		

授業概要

論説文の力をつけることをめざす。文の要約と推敲の練習をする。文章力を身につけ、大学生活における学習に必要なレポート作成の要領をつかむことを目的とする。(キーワード:文章語,文章構成)

到達目標

ナンバリング(A2201)

- 1.文章語,特に学術用語・専門用語としての漢語および漢字についての知識が修得できる。
- 2.事実を記す文と意見表明の文との違いについての理解が深まる。
- 3.文における文節相互の承節関係を正しく把握できるようになる。
- 4.文章構成における段落の役割,および段落の配列・展開の仕方についての理解が深まる。
- 5.レポート・論文を作成するうえで必要とされる文章構成法についての知識・技術が修得できる。

成績評価方法

宿題や授業・演習等における意欲・態度等の評価点に期末試験・小テストの得点を加算。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) レポートの要件と参考例（p9-21），事実/意見の文（p25-48） 【予習】教科書p49-71を読んでおく（40分） 【復習】p43-45の「問題2.1-3」の宿題を解いておく（30分）	
2) 宿題の解答確認。レポート作成の手順（p49-71） 【予習】教科書p72-79，p80-97，p101-7を読んでおく（40分） 【復習】p9-71の漢字を確認しておく（30分）*次回テストする。	
3) 材料集め、図書館の利用p72-100，レポートの分量p101-107 【予習】教科書p108-121を読んでおく（40分） 【復習】この日までに学習した教科書を開いて読み返す（20分）	*漢字テスト1
4) レポートの構成（標準的な構成など），構成案の作り方 【予習】教科書（4.1） p131-9，（4.2） p140-153の理解（40分） 【復習】漢字テストの解答を見直す。誤りがあれば正す（20分）	
5) レポートの文章（4.1），および叙述の順序（4.2） 【予習】教科書p154-165、（「問題4.2」宿題）の学習（50分） 【復習】p72-153の漢字の確認（30分）*次回テストする。	
6) 事実/意見・感想の文との書き分け。宿題の確認（p154-165） 【予習】教科書p166-179（「問題4.3」宿題）の学習（40分） 【復習】この日までに学習した教科書を読み返す（20分）	*漢字テスト2
7) レポートの文章の書き方。宿題の確認（p166-179） 【予習】教科書p180-192を読んでおく（40分） 【復習】漢字テストの解答を確認する。その他（20分）	
8) 文章のまとめ方，段落・パラグラフについて（p180-192） 【予習】教科書p193-206を読んでおく（40分） 【復習】この日までに学習した教科書を読み返す（20分）	
9) 難読文の修正1：各文節の承接関係の調整法（p193-206） 【予習】教科書p206-215（「問題4.5」宿題）の学習（50分） 【復習】この日までに修得した学習内容を確認する（20分）	
10) 難読文の修正2：ねじれた文の直し方。宿題の確認（p206-215） 【予習】教科書p216-224を読んでおく（40分） 【復習】前回の学習事項と合わせて教科書を読み返す（30分）	
11) 受動態と能動態，辞書等について（p216-224） 【予習】教科書p225-234を読んでおく（30分） 【復習】教科書p217の受動態を能動態に書き換える（30分）	
12) レポートの文章の評価，執筆メモの心得（p225-234） 【予習】教科書p234-249を読んでおく（30分） 【復習】p226の図4.6で自分の望む評価多辺形を作れ（30分）	
13) 区切りの記号，出典の示し方，校正，文献，索引（p234-249） 【予習・復習】下の教科書の文章問題を解答する。*次回テスト p161-5，p194-7，p199，p205-9（70分）	
14) 文・文章の復習（p161-209），教材の補講 【予習】次回の授業に向けて準備する（10分） 【復習】教材全般（70分）	*文章テスト
15) 演習・学習内容の総確認・復習，意見交換，その他 【復習】期末テストに備えて（80分）	
授業外学習	
予習・復習は，集中度等で異なるが目安の時間を目標に実行するものとする。宿題は教科書の【問題2.1-3】，【4.2】，【4.3】，p206-215（【4.5】を含む）。テストは漢字p9-71，漢字p72-153，文章p161-209。演習は期間中に一人最低3回は廻る予定である。質問も意見提言も自由で，議論する時間も用意されているので全員が十分な準備を整えて臨むよう，教科書主体の授業外学習に努めてほしい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫，1994） 本体価格780円+税	日本語表現法演習

課題に対するフィードバック

漢字テスト・文章テストは終了後学生同士で、宿題は翌週の授業で各自点検評価しあう。演習は予定のノルマが終了後ただちに意見・質問・疑問を積極的に出しあい、全員で理解・納得がゆくまで議論しあうものとする。

備考

科目名	中国語の基本						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	2年	前期			
担当者名	柊 軍		関連する資格				
授業概要 中国語の発音すなわち、ピンイン文字（中国語表音ローマ字）で表記された発音を習得することに力を注ぐ。本講義では最初に、自分で作ったピンイン発音ソフトを併用し、声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、グループ学習などを通して中国語の発音基礎能力を身に付けさせる。ついで、テキストの会話短文及び単語の発音の習熟を目指す。並行して基礎的文法も学ぶ。							
到達目標 A2202 中国語の発音基礎となるピンインを習得し、正しく発音することができる。 具体例で基本的な文法についての説明できる。 極簡単な日常会話ができる。			成績評価方法 定期試験、小テスト、授業への意欲・態度				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							35
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス：授業概要	
2) ピンインの発音：単母音、二重母音、三重母音 【予習】配布プリントP1～P2(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	
3) ピンインの発音：鼻母音 【予習】配布プリントP1～P2(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	
4) ピンインの発音：子音 【予習】配布プリントP2～P3(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	
5) ピンインの発音：声調 【予習】配布プリントP1～P3(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	第1回小テスト
6) 第1課：本文「?是中国人??」 【予習】教科書P13～P14(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
7) 第1課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P15～P16(15分)【復習】トレーニング1の完成(30分)	グループワーク
8) 第2課：本文「?是什??」 【予習】教科書P17～P18(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
9) 第2課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P19～P20(15分)【復習】トレーニング2の完成(30分)	グループワーク
10) 第3課：本文「?去?儿?」 【予習】教科書P21～P22(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
11) 第3課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P23～P24(15分)【復習】トレーニング3の完成(30分)	第2回小テスト
12) 第4課：本文「?个包多少??」 【予習】教科書P25～P26(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
13) 第4課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P27～P28(15分)【復習】トレーニング4の完成(30分)	グループワーク
14) 第5課：本文「??上有事??」 【予習】教科書P29～P30(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
15) 第5課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P31～P32(15分)【復習】トレーニング5の完成(30分)	第3回小テスト
授業外学習	
授業内容について復習、本文と単語の発音を繰り返し練習すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書： 『中国語 はじめの一步 最新2訂版』尹景春・竹島毅著、2013年、白水社、2,200円 参考書： 『よくわかる中国語入門』三野昭一著、2004年、同学社、1,985円	中国語の応用

課題に対するフィードバック

小テストペーパーは翌週添削をつけて返す

備考

科目名	中国語の応用			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	後期
担当者名	柊 軍	関連する資格		

授業概要

中国語の基本で学習したことに引き続いて、活用度の高いテキストの会話短文を学習するとともに中国語発音の基礎とするピンインの能力を高める。また、基礎的文法を学び、繰り返し発音練習、各種のトレーニング及びグループ学習などを通して、「読む・書く・聞く・話す」四つの能力のうち、特に「聞く・話す」に重点を置きながら、簡単な日常会話ができる語学力を習得させる。

到達目標

A2203

繰り返し発音練習により中国語を正しく発音することができる
中国語の文法基礎および語彙力をアップすることができる。
中国語基礎能力を習得し、簡単な自己紹介できるようになる。

成績評価方法

定期試験、小テスト、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							35
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 第6課：本文「?吃?了??」 【予習】教科書P33～P34(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
2) 第6課の各種のトレーニング 【予習】教科書P35～P36(15分)【復習】トレーニング6の完成(30分)	グループワーク
3) 第7課：本文「?家有几口人?」 【予習】教科書P37～P38(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
4) 第7課の各種のトレーニング 【予習】教科書P39～P40(15分)【復習】トレーニング7の完成(30分)	グループワーク
5) 第8課：本文「?从几点?始打工?」 【予習】教科書P41～P42(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
6) 第8課の各種のトレーニング 【予習】教科書P43～P44(15分)【復習】トレーニング8の完成(30分)	グループワーク
7) 第9課：本文「?去?美国??」 【予習】教科書P45～P46(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
8) 第9課の各種のトレーニング 【予習】教科書P47～P48(15分)【復習】トレーニング9の完成(30分)	第1回小テスト
9) 第10課：本文「?会唱歌??」 【予習】教科書P49～P50(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
10) 第10課の各種のトレーニング 【予習】教科書P49～P50(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	グループワーク
11) 第11課：本文「?在干什??」 【予習】教科書P53～P54(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
12) 第11課の各種のトレーニング 【予習】教科書P55～P56(15分)【復習】トレーニング11の完成(30分)	グループワーク
13) 第12課：本文「祝?旅途愉快!」 【予習】教科書P57～P58(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
14) 第12課の各種のトレーニング 【予習】教科書P59～P60(15分)【復習】トレーニング12の完成(30分)	グループワーク
15) 総括 【予習】第6課～第12課の単語・本文(60分)【復習】第6課～第12課の文法・トレーニング(90分)	第2回小テスト
授業外学習	
授業内容について復習、本文と単語の発音を繰り返し練習すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書： 『中国語 はじめの一步 最新2訂版』尹景春・竹島毅著、 2013年、白水社、2,200円 参考書： 『よくわかる中国語入門』三野昭一著、2004年、同学社、 1,985円	中国語の基本

課題に対するフィードバック

小テストペーパーは翌週添削をつけて返す

備考

科目名	英語リーディング			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	前期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

英文を速読するための知識・技術の向上を図る。一定量の英文の内容に関してポイントを解説した後、出来るだけ早くパラグラフ・リーディングを行ってゆく。毎回演習問題を宿題として課す。訳読も行うが、様々な種類の英語の文章を出来るだけ効率的に読むための訓練を行うことをあくまでもこの科目の主眼とする。

到達目標

A2204

- 1 基本的な英語長文の読解ができる。
- 2 英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。
- 3 英文を速読する能力を養う。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）、レポート、授業態度、発表で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：英文の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
2) パラグラフ・リーディングについて テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) インターネットの英文の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 論説文の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) 新聞記事の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) 随筆の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 物語の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) 手紙の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9) TOEICのパート7の文章の読み方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
10) パラグラフ・リーディング訓練1 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
11) パラグラフ・リーディング訓練2 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
12) パラグラフ・リーディング訓練3 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
13) パラグラフ・リーディング訓練4 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
14) 英語リーディング指導の仕上げ テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
15) 英語リーディング指導のまとめ テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『Reading Steps』Robert Hickling 著、金星堂	アカデミックイングリッシュ 英語ライティング

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	英語ライティング			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	後期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

基本的構文を使った英作文の知識・技術の向上を図る。英作文のパターンを解説した後、そのパターンを使って実際に特定のトピックに関する英作文ができるかどうか自らチェックしてもらう。演習問題は宿題とする。授業では構文その他の解説を主に行うが、各自が英作文を実際に行う学習時間帯も各授業において設ける。

到達目標

A2205

- 1 基本的な和文を英文に変換できる。
- 2 英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。
- 3 アカデミックなエッセイを書く能力を養う。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）、レポート、授業態度、発表で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：明瞭な文の書き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
2) 簡潔さと明瞭さについて テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) 接続詞と転換語の使い方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 英文の展開パターン1 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) 英文の展開パターン2 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) 英文の展開パターン3 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 英文の展開パターン4 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) 英文の展開パターン5 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9) トピック別作文1 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
10) トピック別作文2 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
11) トピック別作文3 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
12) トピック別作文4 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
13) トピック別作文5 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
14) 英作文指導の仕上げ テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
15) 英作文指導のまとめ テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
授業外学習	
課題英作文は毎時間指名後板書してもらい、その都度評価するので、予習は必ず行うこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『English Translation Using Basic English Formulas』金子光茂他著、南雲堂	英語リーディング

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

英作文では和英辞書を使うよう習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	アカデミックイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	後期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

英文を正確に和訳するための知識・技術の向上を図る。一定の量の英文の内容に関してポイントを解説した後、重要な構文を含む文章を中心に訳出してゆく。毎回演習問題を宿題として課す。大学院入試における過去の英語の問題を主な教材としながら、アカデミックな英語にできるだけ慣れるように多くの文章を読みこなしてゆく。

到達目標

A2206

- 1 英文を正確に和訳することができる。
- 2 基本的な英文読解の技術を身につける。
- 3 英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）、レポート、授業態度、発表で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：英語論文の読み方 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
2) 心理系の英語の特徴について 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) 心理系の英文の読み方 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 単語レベルの精読の仕方 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) センテンスレベルの読み方 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) パラグラフレベルの読み方 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 大学院入試問題演習 1 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) 大学院入試問題演習 2 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9) 大学院入試問題演習 3 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
10) 大学院入試問題演習 4 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
11) 大学院入試問題演習 5 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
12) 大学院入試問題演習 6 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
13) 大学院入試問題演習 7 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
14) 英語論文リーディング指導の仕上げ 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
15) 英語論文リーディング指導のまとめ 与えられたプリントの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
毎回プリント類を配布する 参考書 宇部フロンティア大学大学院等の過去の問題	英語リーディング

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	オーラルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	ドワード N. ナットン	関連する資格		

授業概要

日常的なコミュニケーションの場においては、リスニングの力が重要な役割を果たしている。ビデオやテープ等の視聴覚資料等の活用により、英語の音に興味を持たせ、リスニング力の向上を図り、英語による発話意欲を刺激する。リスニング力と発話意欲を向上させることにより、コミュニケーションを円滑にしていく能力を育成する。具体的には、オフィスや地域社会及び海外旅行等に必要とされる英会話力を身に付けさせる。さらに、海外からの旅行者に英語を用いた口頭による日本文化や生活習慣の説明、観光案内を行う発信型の英会話力を身に付けさせる。

到達目標

ナンバリング(A2207)

- 知識・理解の観点（具体的に説明できる。）
- 思考・判断の観点（内容を要約できる。）
- 関心・意欲の観点（考えを表現する。）
- 態度・価値観の観点（討議に参加できる。）
- 技能・表現の観点（相手に反応できる）

成績評価方法

STUDENTS ATTENDING THIS COURSE WILL BE EVALUATED ACCORDING TO THEIR CLASS PARTICIPATION, ATTENDANCE AND TEST RESULTS.
〔授業態度・出席と試験結果に従って評価する。〕

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ORIENTATION AND SELF-INTRODUCTIONS. [オリエンテーションと自己紹介] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	CLASS OUTLINE AND PAIR WORK.
2) GREETINGS. [挨拶] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)"	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
3) WHERE ARE YOU FROM? [どこから来ましたか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
4) WHAT TIME IS IT? [何時ですか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
5) WHAT'S YOUR JOB? [あなたの仕事は何ですか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
6) RENTING A FLAT. [アパートを借りる] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
7) SHOPPING. [買い物] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
8) CAN YOU HELP ME? [手伝ってもらえますか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
9) AN AMERICAN RESTAURANT. [アメリカンレストラン] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
10) AT CUSTOMS. [税関で] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
11) MEDICAL PROBLEMS. [医療の問題] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
12) TALKING ABOUT THE FAMILY. [家族について話す] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
13) WHAT CAN YOU DO? [何ができますか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
14) HOLIDAYS. [休日] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
15) AT THE POST OFFICE. [郵便局で] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
授業外学習	
授業の予習復習をする。授業前に分からない単語を調べてくる	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
STUDENTS WILL BE PROVIDED WITH HANDOUTS TO COVER ALL PLANNED TEACHING ACTIVITIES. STUDENTS ARE ASKED TO ENSURE THEY BRING ENGLISH / JAPANESE AND JAPANESE / ENGLISH DICTIONARIES TO CLASS. [学生はすべての計画された指導活動を学習するために教材(印刷物)を配布される。授業に英和・和英辞典を必ず持参することを求める。]	

課題に対するフィードバック

翌週の授業で質問応答。

備考

科目名	日本語（留学生対象）						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	2年	前期			
担当者名	小寺 紀美代		関連する資格				
授業概要 新聞記事や評論文を読み、日本社会について考え、論理的なレポートが書けるようにする。また、それを基にスピーチする。聞き手の印象や感情に配慮したコミュニケーション能力を身に付ける。 日本語能力試験N1合格に照準を合わせ、漢字・語彙・文法をより強化していく。							
到達目標 ナンバリング(A2208) 積極的に自分の考えを述べられる。 論説的なスピーチやレポートが書ける。 N1レベルの語彙や文法を習得する。			成績評価方法 定期試験、語彙確認テスト、レポート、スピーチ等。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション・レポート作成文章ルール 【自習】N1 語彙拡大1章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	
2) N1 文法形式の整理 ・レポート作成文章ルール 【自習】N1 語彙拡大1章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	
3) N1 文法形式の整理 ・レポート作成文章ルール 【自習】N1 語彙拡大1章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	
4) N1 文法形式の整理 ・読解1・ディスカッション 【自習】N1 語彙拡大2章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	語彙1章テスト
5) N1 文法形式の整理 ・読解1・ディスカッション・スピーチ作成 【自習】N1 語彙拡大2章 【復習】資料再読、スピーチ文推敲（60分）	ディスカッション
6) N1 文法形式の整理 ・読解1に関するスピーチ 【自習】N1 語彙拡大2章 【復習】課題（60分）	プレゼンテーション
7) N1 文法形式の整理 ・読解2・ディスカッション 【自習】N1 語彙拡大3章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	語彙2章テスト
8) N1 文法形式の整理 ・読解2・ディスカッション・スピーチ作成 【自習】N1 語彙拡大3章 【復習】資料再読、スピーチ文推敲（60分）	ディスカッション
9) N1 文法形式の整理 ・読解2に関するスピーチ 【自習】N1 語彙拡大3章 【復習】課題（60分）	プレゼンテーション
10) N1 文法形式の整理 ・読解3・ディスカッション 【自習】N1 語彙拡大4章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	語彙3章テスト
11) N1 文法形式の整理 ・読解3・ディスカッション・スピーチ作成 【自習】N1 語彙拡大4章 【復習】資料再読、スピーチ文推敲（60分）	ディスカッション
12) N1 文法形式の整理 ・読解3に関するスピーチ 【自習】N1 語彙拡大4章 【復習】課題（60分）	プレゼンテーション
13) N1 文法形式の整理 ・読解4・ディスカッション 【自習】N1 語彙拡大5章 【復習】資料再読、練習問題（60分）	語彙4章テスト
14) N1 文法形式の整理 ・読解4・ディスカッション・スピーチ作成 【自習】N1 語彙拡大5章 【復習】資料再読、スピーチ文推敲（60分）	ディスカッション
15) N1 文法形式の整理 ・読解4に関するスピーチ・総括 【自習】N1 語彙拡大5章	プレゼンテーション
授業外学習	
<p>自習用の語彙課題は計画的にきちんと覚えること。 授業で使う教材以外にも自主的に自習すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料や練習問題をを配布	日本語 、日本語 、日本語

課題に対するフィードバック

練習問題、スピーチ等は可能な限り、授業内でフィードバックする。課題文等は添削し、コメントを付け、翌週返す。

備考

科目名	日本語（留学生対象）						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	2年	後期			
担当者名	小寺 紀美代		関連する資格				
授業概要 テーマに沿って調査、考察、発表をする。母国語で書かれた新聞記事や随筆等を日本語に翻訳する練習をする。日本語能力試験N1合格に照準を合わせ、漢字・語彙・文法をより強化していく。							
到達目標 ナンバリング(A2209) テーマに沿って考察したことを発表できる。 母国語で書かれた新聞記事や随筆等を日本語に翻訳できる。 N1レベルの語彙や文法が使えるようになる。			成績評価方法 定期試験、語彙確認テスト、レポート、スピーチ等。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							30
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) オリエンテーション・N1文法・スピーキング	
2) N1文法・テーマ1に関する調査、考察 【自習】N1語彙拡大6章 【復習】資料再読(60分)	
3) N1文法・テーマ1に関する調査、考察 【自習】N1語彙拡大6章 【復習】資料再読(60分)	ディスカッション
4) N1文法・テーマ1に関するレポート作成 【自習】N1語彙拡大6章 【復習】レポート文推敲(60分)	
5) N1文法・テーマ1に関する発表 【自習】N1語彙拡大7章 【復習】課題(60分)	語彙テスト6章 プレゼンテーション
6) N1文法・テーマ2に関する調査、考察 【自習】N1語彙拡大7章 【復習】資料再読(60分)	
7) N1文法・テーマ2に関する調査、考察 【自習】N1語彙拡大7章 【復習】資料再読(60分)	ディスカッション
8) N1文法・テーマ2に関するレポート作成 【自習】N1語彙拡大8章 【復習】レポート文推敲(60分)	語彙テスト7章
9) N1文法・テーマ2に関する発表 【自習】N1語彙拡大8章 【復習】課題(60分)	プレゼンテーション
10) N1文法・翻訳練習1 【自習】N1語彙拡大8章 【復習】翻訳文推敲(60分)	
11) N1文法・翻訳練習1発表 【自習】N1語彙拡大1～8章復習 【復習】課題(60分)	語彙テスト8章 プレゼンテーション
12) N1文法・翻訳練習2 【自習】N1語彙拡大1～8章復習 【復習】翻訳文推敲(60分)	
13) N1文法・翻訳練習2発表 【自習】N1語彙拡大1～8章復習 【復習】課題(60分)	プレゼンテーション
14) N1文法・翻訳練習3 【自習】N1語彙拡大1～8章 【復習】翻訳文推敲(60分)	
15) N1文法・翻訳練習3発表・総括	語彙テスト プレゼンテーション
授業外学習	
<p>自習用の語彙課題は計画的にきちんと覚えること。 授業で使う教材以外にも自主的に自習すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料や練習問題を配布	日本語、日本語、日本語

課題に対するフィードバック

作成した文章が自ら推敲できるように適切な助言をしていく。

備考

科目名	情報処理演習 (データ処理)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

この科目はディプロマポリシーのうち、「人への関心と学問の理解」を達成するために「高校から大学への接続」をスムーズにするための授業。表計算ソフトExcelを活用したデータ処理の手法を習得する。様々な関数の使い方やグラフィックの作成、ピボットテーブルの作成、家計簿の作成などパソコンで演習を通じて習得する。具体的にデータを入力して1年次に修得した統計学の様々な方法を試すことによって統計学の理解が深まるように努力してください。グループで常にわからないところを教え合いながら、演習を進める。

到達目標

A1220

- * 応用的なExcelの操作を行う。
- * データ分析の基本的な作業を行う。
- * Excelによるデータ分析の利便性を評価する。

成績評価方法

日々の取り組み状況と演習で作成した資料（レポートおよびUSB上に保存したもの）の提出によって総合的評価をする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							30
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 平均値、標準偏差、偏差値をエクセルで計算 予習；統計学の授業を復習しておく復習；これからの予定表をみて全体を概観する（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
2) 度数分布表とヒストグラムの作成 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
3) 階級値の取り方とヒストグラム1 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
4) 階級値の取り方とヒストグラム2 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
5) 中央値、四分位数、パーセンタイル値 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
6) パーセンタイル値、箱ヒゲ図 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
7) 相関関数と回帰直線 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
8) t分布、区間推定、検定2 予習；統計学での該当範囲を復習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	前期受講の統計学を思い出しながら、計算する。
9) 今までの復習、質問タイム 復習、予習は各自の進捗状況に沿って、行う。	積極的に質問する。
10) ピボットテーブル1 予習；エクセルの最も便利なものなので、事前に学習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	特徴をつかみ、自分なりに応用してみる。
11) ピボットテーブル2 予習；エクセルの最も便利なものなので、事前に学習しておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）。	特徴をつかみ、自分なりに応用してみる。
12) 家計簿1 予習；実際に役立つアプリを作成するので、事前に家計簿の基本を考えておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）	
13) 家計簿2 予習；実際に役立つアプリを作成するので、事前に家計簿の基本を考えておく（30分）。復習；パソコンの操作手順がスムーズにいくように自主学習をする（30分）	自分に合った項目を設けてデータを入力してみる。
14) 今までの復習、質問タイム 復習、予習は13回までの演習でつまづいた部分、あやふやな部分に焦点をあてて、各自で行う。	積極的に質問する。
15) USBの提出とまとめ（USBの提出）	
授業外学習	
授業でできなかった部分は次回の授業までに完成させてください。それでもわからなかった箇所は、オフィスアワーに質問してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：使用しない。資料の配布をする。	統計学、情報処理演習

課題に対するフィードバック

演習の成果をUSBに保存し、それを評価する際に、問題点を指摘する。総評をする。

備考

科目名	プレゼンテーション技術						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	2年	後期			
担当者名	柊 軍		関連する資格				
授業概要 魅力的なプレゼンテーションを作成・実行する能力は、学習の上でも仕事の上でも大変重要である。本授業では、まずプレゼンテーションに関する基本的な理解を深め、その主要なツールのひとつである Microsoft Power Pointの基本操作方法について学習し、簡単なプレゼンテーション資料を作成する。次に、プレゼンテーションのテクニックについても学ぶ。最後に作成したプレゼンテーション資料に基づいて、発表を行う。							
到達目標 A2211 PowerPointの基本操作方法を習得できる。 効果的なプレゼンテーションコンテンツを制作できる。 プレゼンテーションによって、自分の意図を正確に相手に伝えることができる。				成績評価方法 プレゼンテーション資料の制作・発表、実習レポート、授業への意欲・態度			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							60
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス	
2) プレゼンテーション重要性・実際及び概要 【予習】教科書P1～P9 (30分)【復習】第1章のプレゼンテーション重要性、種類 (30分)	
3) プレゼンテーションのストーリー 【予習】教科書P10～P27 (30分)【復習】第1章のプレゼンテーションの準備、ストーリー (30分)	
4) 視覚資料準備及び事例 【予習】教科書P28～P43(30分)【復習】指定する実習課題の完成(30分)	
5) PowerPointの操作基礎 【予習】教科書P44～P65 (30分)【復習】エクセル入力の練習(30分)	
6) プレゼンテーション資料を作ってみよう 【予習】教科書P66～P87(30分)【復習】例題の完成(30分)	
7) プレゼンテーション資料を印刷してみよう、実習課題 【予習】教科書P88～P105(30分)【復習】指定する実習課題の完成(30分)	グループワーク
8) プレゼンテーション資料をブラッシュアップ、グラフの挿入 【予習】教科書P106～P125(30分)【復習】例題の完成(30分)	
9) 図形の挿入、Smart組織図 【予習】教科書P126～P140(30分)【復習】例題の完成(30分)	
10) プレゼンテーション本番に向けて、音・ビデオ・linkの挿入 【予習】教科書P141～P156(30分)【復習】例題の完成(30分)	
11) 実習課題 【予習】教科書P157～P161 (30分)【復習】指定する実習課題の完成(30分)	グループワーク
12) プレゼンテーションの実施、反省、評価と改善 【予習】教科書第4章(30分)【復習】第4章の表現力をつける部分(30分)	
13) プレゼンテーションの資料を作成 【予習】教科書第1～3章(30分)【復習】教科書第4章(30分)	個人ワーク
14) プレゼンテーションの資料を作成 【予習】教科書第1～3章(30分)【復習】教科書第4章(30分)	個人ワーク
15) プレゼンテーションの発表 【予習】教科書第4章	プレゼンテーション
授業外学習	
テキストを予習、授業外レポート・宿題を積極的に完成すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書： 『プレゼンテーション+ PowerPoint』2013年、実教出版、900円	情報処理演習 HPコンピューティング演習

課題に対するフィードバック

実習課題などの共通なことについて授業で説明する

備考

科目名	HPコンピューティング演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	前期
担当者名	柊 軍	関連する資格		

授業概要

高度情報化社会においてコミュニケーションのツールとして日常生活や今後のビジネス現場でもHP(Home Page)は不可欠である。本講義は、情報化社会に生きるための今後必要となる基本的な情報処理能力の育成を目的としたもので、HPの作成やそのメンテナンスなどの能力を身に付けさせる。まず、HPの基礎となるHTML言語を学習する。次には画像・アニメ・音声などを含むHPの作成方法を習得する。最後にHPの公開・更新・管理などについて学ぶ。さらに総合演習を通して学習された知識を活用する。

到達目標

A3201
HP作成及びHP管理の基礎を習得できる。
より高度なHP作成及びHP管理することができる。

成績評価方法

総合演習レポート、ミニレポート、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							15	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							65	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス	
2) HPに関する基本知識を学習し、HPを作成する道具準備(無料ソフトの配布と紹介) 【予習】HTMLについて調べる(30分)【復習】第1章内容(20分)	
3) アニメの制作 【予習】Giamソフト基本機能(30分)【復習】文字・画像アニメの製作(60分)	
4) アニメの制作実習(ミニレポート) 【予習】Giamソフト基本操作(30分)【復習】文字アニメの製作(60分)	レポート、グループワーク
5) HPの基本タグ、HP言語・背景・罫線タグ 【予習】プリントP2～P4(30分)【復習】例題の完成(60分)	
6) HPの改行・表示位置・グループ化・スタイルシートタグ 【予習】プリントP4～P5(30分)【復習】例題の完成(60分)	グループワーク
7) HPの文字サイズ・装飾タグ 【予習】プリントP5～P6(30分)【復習】例題の完成(60分)	
8) HPのリスト・イメージタグ 【予習】プリントP6～P7(30分)【復習】例題の完成(60分)	
9) HPのリンク・テーブルタグ 【予習】プリントP7～P8(30分)【復習】例題の完成(60分)	
10) HPのサウンド・ムービータグ 【予習】プリントP8～P9(30分)【復習】例題の完成(60分)	
11) HPのフレームタグ 【予習】プリントP9～P10(30分)【復習】例題の完成(60分)	グループワーク
12) 総合演習 【予習】プリントP11～P14(30分)【復習】指定する実習の完成(60分)	
13) 総合演習 【予習】プリントP15～P19(30分)【復習】指定する実習の完成(60分)	
14) 総合演習 【予習】プリントP15～P19(30分)【復習】指定する実習の完成(60分)	
15) インターネットに公開・更新・管理 【予習】プリントP22～P31(30分)【復習】HPの修正・公開(90分)	総合演習レポート
授業外学習	
レポートを積極的に完成すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。プリントを配布する。	インターネットの使い方

課題に対するフィードバック

レポートなどの共通なことについて授業で説明する

備考

科目名	人間関係論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	前期			
担当者名	松田 憲		関連する資格	認定心理士			
授業概要 社会に生きる人間にとって不可欠な要素である対人関係について、認知心理学、社会心理学、発達心理学の立場から概観する。 社会的動物としての人間の行動的基礎について学ぶことを通して、生活の質の向上のために配慮すべきことについての洞察を深める。							
到達目標 ナンバリング(A2212b) 1. 人間関係の基本的概念の理解 2. 人間関係に影響する諸要因の理解 3. 対人、対集団の相互間家庭のメカニズムの理解			成績評価方法 小レポート(60点)と小テスト(40点)による総合評価。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							100
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】配布資料の予習（3分）【復習】配布資料の復習（3分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
2) 動機と感覚遮断実験1：生物的動機 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
3) 動機と感覚遮断実験2：内発的動機 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
4) 動機と感覚遮断実験3：社会的動機 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
5) 対人接触の古典的研究1：アタッチメント形成 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
6) 対人接触の古典的研究2：社会的隔離 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
7) 対人接触の古典的研究3：母子関係剥奪 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
8) 対人接触の古典的研究4：野生児問題 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
9) 人間関係の発達1：乳幼児期 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
10) 人間関係の発達2：児童期 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
11) 人間関係の発達3：青年期 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
12) 人間関係の発達4：成人・老年期 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
13) 人間関係の病理1：対人不安 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
14) 人間関係の病理2：自閉症 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
15) まとめ 【予習】配布資料の復習（10分）【復習】小テスト（30分）	
授業外学習	
授業内容の復習は講義日のうちに必ず行うこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	人間関係論

課題に対するフィードバック

小レポートに記載された疑問点については講義中に回答を行う。

備考

本講義は全3日間の日程で行う集中講義である。
小テストは各日程の最後に行う（計3回）。

科目名	人間関係論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	松田 憲		関連する資格	認定心理士			
授業概要 社会に生きる人間にとって不可欠な要素である対人関係について、認知心理学、社会心理学、発達心理学の立場から概観する。 社会的動物としての人間の行動的基礎について学ぶことを通して、生活の質の向上のために配慮すべきことについての洞察を深める。							
到達目標 ナンバリング(A2213b) 1. 人間関係の基本的概念の理解 2. 人間関係に影響する諸要因の理解 3. 対人、対集団の相互間家庭のメカニズムの理解			成績評価方法 小レポート(60点)と小テスト(40点)による総合評価。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							100
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】配布資料の予習（3分）【復習】配布資料の復習（3分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
2) 対人認知1：特徴と構造 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
3) 対人認知2：対人情報処理 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
4) 対人認知3：帰属 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
5) 対人認知4：自己概念 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
6) 対人認知5：社会的態度 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
7) 対人関係1：対人関係の動機 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
8) 対人関係2：対人関係の形成 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
9) 対人関係3：対人関係の維持 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
10) 対人関係4：コミュニケーション 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
11) 対人関係5：攻撃と援助 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
12) 集団における人間関係1：集団と個人 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
13) 集団における人間関係2：集団内関係 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
14) 集団における人間関係3：集団間関係 【予習】配布資料の予習（10分）【復習】配布資料の復習（10分）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
15) まとめ 【予習】配布資料の復習（10分）【復習】小テスト（30分）	
授業外学習	
授業内容の復習は講義日のうちに必ず行うこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	人間関係論

課題に対するフィードバック

小レポートに記載された疑問点については講義中に回答を行う。

備考

本講義は全3日間の日程で行う集中講義である。
小テストは各日程の最後に行う（計3回）。

科目名	福祉社会学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

この授業では、現代社会の各福祉領域に潜む問題の構造を、さまざまなトピック（生活保護、年金、育児、男女の働き方、児童・高齢者・障害者福祉の課題、ユニバーサルデザインなど）を通じて、“個人と社会”の関係性を軸に概観していきたい。社会学的手法を用いて考察する力を養うことが目的なので、“積極的に考え、思考する態度”で臨んでほしい。生活支援に関わる資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格）を志望する学生には、受講を薦める。

到達目標

ナンバリング(A2214)

「福祉」を、家族や地域、全体社会の変容と結びつけて理解する。
現代社会における社会福祉の課題について、社会学の視点から考察する。

成績評価方法

（レポートの評価基準）
講義中のレポート、最終レポートで評価する。
期末レポート提出の必要要件は、欠席4回未満であること。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 福祉社会学とは？	授業内レポート
2) 福祉社会学の考察の視点	小テスト
3) 生活保護：戦後の生活保護制度の展開	小テスト
4) 生活保護：最近の動向と現代の貧困問題	授業内レポート
5) こどもの福祉：少子化と子育て支援対策	小テスト
6) こどもの福祉：児童虐待と社会的養護	授業内レポート
7) 高齢者の福祉：高齢者世帯の現状と在宅・施設福祉	小テスト
8) 高齢者の福祉：老親扶養と地域生活問題	授業内レポート
9) 障害者の福祉：障害児者の生活実態	小テスト
10) 障害者の福祉：障害児者に対する生活・就労支援	授業内レポート
11) 地域の福祉：過疎化と限界集落	小テスト
12) 地域の福祉：地域福祉に関わる福祉機関	授業内レポート
13) その他の福祉課題：D 問題	授業内レポート
14) その他の福祉課題：エスニシティ問題	授業内レポート
15) まとめ	小テスト
授業外学習	
<p>この講義は、「講義編」と「考察編」の2部構成です。2週で1つの内容になっています。 最終課題として、レポート課題を課します。 15回の講義中、内容に応じ、授業外レポートを課します。 「講義編」では、そのテーマに関する現状・課題について学びます。「考察編」では、講義内容に関するDVDを視聴します。視聴票（視聴レポート）を課します。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
使用しない。必要に応じてプリント・資料を配布する。	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	社会福祉学概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	山根 千絵	関連する資格	社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本講義では、社会福祉の対象と援助の形態及び方法、社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要、社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容、福祉政策の構成要素、福祉政策と関連政策などの内容について学習する。

到達目標

- ・現代社会における社会福祉の意義を説明できる。
- ・福祉制度の発達過程について説明できる。
- ・福祉政策の課題について説明できる。

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に、授業時間の課題を勘案して評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							70	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	社会福祉学概論 とは：社会福祉学概論 の目標、授業計画などについて講義 【予習】テキストp.2～p.10を読んでおく（20分） 【復習】用語の整理をする（20分）	授業内レポート
2)	社会の変化と福祉（1）：市民権の確立、福祉国家の成立と変容 【予習】テキストp.12～p.21を読んでおく（30分） 【復習】社会の変化についてまとめる（30分）	小テスト
3)	社会の変化と福祉（2）：現代社会の変化と福祉、福祉政策の現代的課題 【予習】テキストp.22～p.30を読んでおく（30分） 【復習】社会の変化と福祉政策の関係を整理する（30分）	小テスト
4)	福祉と福祉政策（1）：価値規範としての福祉、社会福祉の拡大と限定 【予習】テキストp.31～p.42を読んでおく（30分） 【復習】福祉や福祉政策の意義・性格をまとめる（30分）	小テスト
5)	福祉と福祉政策（2）：施策コラボレーションとしての福祉政策 【予習】テキストp.43～p.53を読んでおく（30分） 【復習】社会福祉とさまざまな施策の態様を整理する（30分）	小テスト
6)	福祉の思想と哲学（1）：福祉の思想 【予習】テキストp.55～p.61を読んでおく（30分） 【復習】規範意識と福祉の思想の関係をまとめる（30分）	小テスト
7)	福祉の思想と哲学（2）：市場の論理と倫理 【予習】テキストp.62～p.70を読んでおく（30分） 【復習】市場の論理・倫理と福祉の思想の関係をまとめる（30分）	小テスト
8)	福祉の思想と哲学（3）：ロールズとセン 【予習】テキストp.71～p.76を読んでおく（30分） 【復習】ロールズとセンの理論を整理する（30分）	小テスト
9)	社会政策と福祉政策 【予習】テキストp.77～p.96を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策と福祉政策の違いについてまとめる（30分）	小テスト
10)	福祉政策の発展過程（1）：近代化と福祉政策 【予習】テキストp.97～p.106を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策に関する歴史的特性を整理する（30分）	小テスト
11)	福祉政策の発展過程（2）：戦後改革と高度経済成長期の福祉政策 【予習】テキストp.107～p.119を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策に関する歴史的特性を整理する（30分）	小テスト
12)	少子高齢化時代の福祉政策（1）：福祉政策の調整と進展 【予習】テキストp.121～p.128を読んでおく（30分） 【復習】福祉システムについて整理する（30分）	小テスト
13)	少子高齢化時代の福祉政策（2）：1990年代および2000年代以降の福祉政策 【予習】テキストp.129～p.155を読んでおく（30分） 【復習】福祉システムの変化をまとめる（30分）	小テスト
14)	少子高齢化時代の福祉政策（2）：1990年代および2000年代以降の福祉政策 【予習】テキストp.129～p.155を読んでおく（30分） 【復習】戦後の福祉政策について整理する（30分）	小テスト、グループワーク
15)	福祉政策における必要と資源：必要と福祉政策、福祉政策の資源 【予習】テキストp.157～p.178を読んでおく（30分） 【復習】必要と資源の関係についてまとめる（30分）	授業内レポート
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：新・社会福祉士養成講座4『現代社会と福祉』中央法規 教材：配布プリント		社会福祉士、精神保健福祉国家試験受験資格に関する科目、社会福祉史

課題に対するフィードバック

小テストおよび授業内レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	社会福祉学概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	山根 千絵	関連する資格	社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本講義では、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、社会福祉サービス体系と社会福祉の専門性と倫理、相談援助活動と福祉政策との関係、社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向などの内容について学習する。

到達目標

- ・福祉政策のシステムや福祉制度について説明できる。
- ・福祉政策の課題について説明できる。
- ・海外の福祉政策について説明できる。
- ・ソーシャルワークの役割について説明できる。

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に、授業時間の課題を勘案して評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							70	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会福祉学概論 とは：授業の目標、授業計画、社会福祉学概論 の復習 【予習】社会福祉学概論 の内容をふりかえる：テキストp.178まで（120分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク、小レポート
2) 福祉政策の理念・主体・手法 【予習】テキストp.181～p.202を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策の理念・主体・手法についてまとめる（30分）	小テスト
3) 福祉政策の関連領域（1）：人権擁護・保健医療・所得保障と福祉政策 【予習】テキストp.203～p.217を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策に関連する領域について整理する（30分）	小テスト
4) 福祉政策の関連領域（2）：雇用・教育・住宅・震災と福祉政策 【予習】テキストp.218～p.241を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策に関連する領域について整理する（30分）	小テスト
5) 社会福祉制度の体系（1）：社会福祉制度の構造 【予習】テキストp.243～p.251を読んでおく（30分） 【復習】社会福祉制度の構造についてまとめる（30分）	小テスト
6) 社会福祉制度の体系（2）：社会福祉制度と福祉サービス 【予習】テキストp.252～p.263を読んでおく（30分） 【復習】福祉サービスの役割や機能、利用方法についてまとめる（30分）	小テスト
7) 福祉サービスの提供（1）：利用過程 【予習】テキストp.266～p.273を読んでおく（30分） 【復習】サービス提供過程とサービス利用過程について整理する（30分）	小テスト
8) 福祉サービスの提供（2）：運営管理部門 【予習】テキストp.274～p.282を読んでおく（30分） 【復習】運営管理部門の役割や機能についてまとめる（30分）	小テスト
9) 福祉サービスと援助活動（1）：相談援助の原則・視点・考え方と方法 【予習】テキストp.283～p.296を読んでおく（30分） 【復習】相談援助に関する原理・原則を整理する（30分）	小テスト
10) 福祉サービスと援助活動（2）：地域福祉への展開 【予習】テキストp.297～p.300を読んでおく（30分） 【復習】相談援助に関する原則を活用した地域へのはたらきかけを考える（30分）	小テスト
11) 福祉政策の国際比較（1）：欧米の福祉政策 【予習】テキストp.301～p.319を読んでおく（30分） 【復習】諸外国の福祉政策の特徴について整理する（30分）	小テスト
12) 福祉政策の国際比較（2）：東南アジア諸国の福祉政策 【予習】テキストp.320～p.340を読んでおく（30分） 【復習】諸外国の福祉政策の特徴について整理する（30分）	小テスト
13) 福祉政策の課題と展望（1）：社会不安と福祉政策、社会福祉の政策と解決過程 【予習】テキストp.341～p.351を読んでおく（30分） 【復習】生活不安や社会不安と政策課題の関係について整理する（30分）	小テスト
14) 福祉政策の課題と展望（2）：包括的福祉政策への展開 【予習】テキストp.352～p.359を読んでおく（30分） 【復習】福祉政策の新たな展開についてまとめる（30分）	小テスト
15) 総括：まとめ 【予習】これまでの学習内容をふりかえておく（60分） 【復習】教科書や配布プリントを活用して内容をふりかえる（120分）	授業内レポート
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・社会福祉士養成講座4『現代社会と福祉』中央法規 教材：配布プリント	社会福祉士、精神保健福祉国家試験受験資格に関する科目、社会福祉史

課題に対するフィードバック

小テストおよび授業内レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	医療福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	溝田 順子、岡村 真紀	関連する資格	社会福祉士国家試験受験資格 精神保健福祉士国家試験受験資格	

授業概要

病気、障害、介護を要する患者や高齢者およびその家族等にとって医療福祉を取り巻く現状や課題とは、どのような事があるのかグループ討議を通して学び、医療サービスとの連携に関する援助内容について知識を習得する。

到達目標

ナンバリング(A2217cd)

- 1) 保健、医療を受けている患者や家族に対して、経済的、社会的、心理的問題や課題について理解する。
- 2) 現代医療においては、医学、看護のみでは解決しがたい課題がある。そのような中で、社会福祉学的知識を活用し、適確に説明できる能力を涵養する。
- 3) インフォームドコンセントの意義と必要性、現状での問題点をまとめることができる。
- 4) 医療ソーシャルワーカーの業務を理解し、様々な事例における対応について、個々に考えあるいはグループ討議を行い、主体的に解決に向けて提案し行動できる能力が身につく。

成績評価方法

授業時・授業外随時行うレポート・小テストおよび期末試験の総合評価

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							80	
小テスト、授業内レポート							10	
宿題、授業外レポート							5	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク							5	
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 医療福祉とは何か(溝田順子) 【予習】テキストP 1 を読んでおく(30分) 【復習】小レポート作成(30分)	レポート
2) 保健医療サービスの变化と課題(1)(溝田順子) 【予習】テキストP 2 - P 12を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
3) 保健医療サービスの变化と課題(2)(溝田順子) 【予習】テキストP 13 - P 29を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
4) 保健医療サービスの提供と経済的保障(1)(岡村真紀) 【予習】テキストP 164 - P 184を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
5) 保健医療サービスの提供と経済的保障(2)(岡村真紀) 【予習】テキストP 185 - P 195を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
6) 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割(1)(岡村真紀) 【予習】テキストP 92 - P 96を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	グループワーク MSWの役割
7) 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割(2)(岡村真紀) 【予習】テキストP 97 - P 102を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
8) 保健医療サービスの連携の理論と実践(1)(溝田順子・特別講師) 【予習】テキストP 103 - P 122を読んでおく(30分) 【復習】小テスト 小レポート(60分)	グループワーク 各機関や専門職種との連携
9) 保健医療サービスの連携の理論と実践(2)(溝田順子・特別講師) 【予習】テキストP 123 - P 130を読んでおく(30分) 【復習】小テスト 小レポート(60分)	グループワーク 各機関や専門職種との連携
10) 保健医療サービスを提供する施設とシステム(1)(溝田順子・特別講師) 【予習】テキストP 63 - P 73を読んでおく 【復習】小テスト	
11) 保健医療サービスを提供する施設とシステム(2)(溝田順子) 【予習】テキストP 74 - P 80を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
12) 保健医療サービスを提供する施設とシステム(3)(溝田順子) 【予習】テキストP 80 - P 90を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
13) 保健医療サービスの専門職の役割(溝田順子) 【予習】テキストP 131 - P 140を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
14) 医療ソーシャルワーカーの役割(1)(岡村真紀) 【予習】テキストP 144 - P 152を読んでおく(30分) 【復習】小テスト(30分)	小テスト
15) 医療ソーシャルワーカーの役割(2)(溝田順子) 【予習】P 152 - P 154を読んでおく 【復習】レポート作成(60分)	レポート 宿題
授業外学習	
1)2)3)4)5)第5章を熟読して授業にのぞみ、後に意見をまとめ、6)グループワークで討議する。 8)9)第3章を熟読して授業にのぞみ、個々の意見をレポートにまとめ提出しグループワークに臨む。 15)では、医療福祉の現場の方に特別講義をして頂いた後レポートにまとめ提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
新社会福祉士養成講座17 『保健医療サービス』 中央法規 授業時随時資料配布	相談援助総論 相談援助各論

課題に対するフィードバック

備考

科目名	地域福祉論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	前期			
担当者名	中島 嘉哉		関連する資格	c. 社会福祉士受験資格 d. 精神保健福祉士受験資格			
授業概要 福祉問題を生活の場で横断的・総合的に捉える地域福祉は、特に、その重要性が社会福祉基礎構造改革以降の社会福祉法の改正や地域における「新たな支え合い」等でも強調されるようになった。そうした状況を背景に地域福祉の理念、歴史、体系、推進方法等を系統的に理解する。同時に地域の要援護者の自立支援、地域ケア、支援ネットワークの構築などを目指した住民主体の活動のあり方、展開方法について視聴覚資料や事例を交えながら学ぶ。 ・地域福祉の民間組織の展開は、社会福祉協議会職員の実務経験をもとに、活動等の実際について授業を行う。							
到達目標 ナンバリング(A2218cd) 1、地域福祉についての基本的な考え方を踏まえ、自分の考えが述べられる。 2、地域福祉の主体と対象について説明できる。 3、地域福祉サービスについて、具体的なサービス名と内容が説明できる。			成績評価方法 各回講義でのコメントカード、適宜の小テスト・小レポート、そして期末レポートで総合的に理解度を評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 地域福祉の歴史的発展と基本的な考え方 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
2) (1) 社会福祉の発展と地域福祉の実態 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
3) (2) 現代社会における地域社会の変容 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
4) (3) 地域福祉とコミュニティ 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
5) (4) 住民参加と福祉コミュニティの形成 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分） 【宿題】1. (1)～(2)に関する小レポート作成（60分）	小テスト
6) 地域福祉の理念とその展開 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
7) (1) 地域福祉の概念と範囲 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
8) (2) 地域福祉理念の展開 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
9) (3) 地域福祉の役割 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分） 【宿題】 . (1)～(3)に関する小レポート作成（60分）	小テスト
10) 地域福祉のサービス体系 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
11) (1) 地域福祉サービスの種類と方法 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
12) (2) 地域福祉サービスとネットワーク 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分） 【宿題】 . (1)～(2)に関する小レポート作成（60分）	小テスト
13) 社会福祉協議会の機能と役割 (1) 社会福祉協議会の機能と実際 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分）	小テスト
14) (2) 社会福祉協議会の課題と展望 【予習】翌週講義のテキスト箇所を通読（30分） 【宿題】前期全般に関する小レポートの作成（60分）	小テスト
15) (3) 地域福祉のマンパワー 【復習】前期内容の振り返り（30分）	小テスト
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト： 社会福祉士養成講座『地域福祉論 / 地域福祉の理論と方法』中央法規 視聴覚資料については、講義において紹介する。	地域と生活 社会福祉学概論 ・ 社会福祉行財政論

課題に対するフィードバック

- ・ 前回講義の振り返り解説で理解を深めるとともに、小テストによる理解評価を行う。
- ・ 映像等を提供し、地域福祉の推進を自らの課題として理解を深める。
- ・ 授業計画の節目に小レポートの作成を行うことで、体系的な習得に努める。

備考

科目名	地域福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	中島 嘉哉	関連する資格	c. 社会福祉士受験資格 d. 精神保健福祉士受験資格	

授業概要

地域福祉論 につづき、具体的な地域福祉の展開方法・推進方法について、視聴覚資料や事例を交えながら理解を深める。特に、「住民主体・住民参加とは何か」「福祉コミュニティ」という点について考察を深める。
また、社会福祉協議会や地方自治体、NPO法人等による地域福祉サービスの提供や機能について理解し、それら地域福祉に係る組織・団体の連携を学び、地域福祉についての自分の考えが述べられるようになることを目指す。

- ・地域福祉の民間組織の展開は、社会福祉協議会職員の実務経験をもとに、活動等の実際について授業を行う。

到達目標

ナンバリング(A2219cd)

- 1、地域福祉に係る行政組織と民間組織について理解する。
- 2、住民主体の形成について理解する。
- 3、地域福祉における連携の意義と方法が説明できる。
- 4、地域福祉に係る専門職とCSWの役割と実際を理解し、役割を考察することができる。
- 5、社会資源の活用と開発の視点を理解する。

成績評価方法

各回講義のコメントカード、適宜の小テスト、そして期末レポートで総合的に理解度を評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 地域福祉の考え方、推進方法 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
2) ニーズの把握方法 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
3) 住民主体と災害支援 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
4) 住民参加の意義 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
5) 行政組織と民間組織（1） 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
6) 行政組織と民間組織（2） 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
7) 社会福祉法人と社会福祉協議会 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
8) 専門職とCSWの役割 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
9) 福祉教育とボランティア活動（1） 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
10) 福祉教育とボランティア活動（2） 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
11) 地域福祉計画の意義と内容 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
12) 生活困窮者支援の対応（1） 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
13) 生活困窮者支援の対応（2） 【予習】翌週講義のテキストを通読（30分）	小テスト
14) 社会資源の活用と開発 【宿題】後期全般に関する小レポート作成（60分）	小テスト
15) まとめ 【復習】後期内容の振り返り（各受講者）	小テスト
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト： 社会福祉士養成講座『地域福祉論 / 地域福祉の理論と方法』中央法規 視聴覚資料については、講義において紹介する。	社会福祉行財政論 障害者福祉論 社会福祉協議会論

課題に対するフィードバック

- ・ 前回講義の振り返り解説で理解を深めるとともに、小テストによる理解評価を行う。
- ・ 映像等を提供し、地域福祉の推進を自らの課題として理解を深める。
- ・ 授業計画の節目に小レポートの作成を行うことで、体系的な習得に努める。

備考

科目名	社会保障論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	西田 隆	関連する資格	社会福祉士受験資格 精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本講義では、社会保障制度の概要、歴史について学習し、社会保障制度のうち、公的医療保険と介護保険について学習する。

到達目標

ナンバリング(A2220cd)

社会保障の基本的知識を習得する。公的医療保険、介護保険について、制度を理解する。

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 社会保障制度の概要 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
2) 社会保障制度の概要 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
3) 社会保障の概要 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
4) 社会保障の歴史 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
5) 社会保障の歴史 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
6) 医療保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
7) 医療保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
8) 医療保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
9) 医療保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト レポート
10) 介護保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
11) 介護保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
12) 介護保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
13) 年金保険の概要と学生納付特例制度 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
14) 演習 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト グループワーク
15) 演習 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト グループワーク
授業外学習		
新聞やニュースなどをチェックし、関連する事案があれば、分析・考察してください。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
授業時間の配布資料		社会福祉士、精神保健福祉、介護福祉士国家試験受験資格に関する科目、社会福祉史

課題に対するフィードバック

レポートは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	社会保障論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	西田 隆	関連する資格	社会福祉士受験資格 精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本講義では、社会保障制度のうち、年金保険、雇用保険、労働災害補償保険、公的扶助、社会福祉について学習します。

到達目標

ナンバリング(A2221cd)

社会保障の各制度について、理解する。

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 年金保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
2) 年金保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
3) 年金保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
4) 年金保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
5) 年金保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
6) 雇用保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
7) 労働災害補償保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
8) 社会保険の総括・社会保険と民間保健 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト レポート
9) 公的扶助 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
10) 社会福祉 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
11) 社会福祉 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
12) 社会福祉 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
13) 社会福祉の総括 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
14) 諸外国における社会保障制度 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
15) 演習 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト グループワーク
授業外学習		
新聞、ニュースなどをチェックし、関連する事案について分析・考察してください。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
授業時間の配布資料	社会福祉士、精神保健福祉、介護福祉士国家試験受験資格に関する科目、社会福祉史	

課題に対するフィードバック

レポートは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	障害者福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	近藤 鉄浩	関連する資格	社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格、介護福祉士受験資格、高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

障害者福祉論 で学んだ基礎的な知識をもとに、現行の障害者福祉施策(特に障害者総合支援法に関連する制度・サービス)の目的や対象、制度・サービスの内容、実施上の課題について学んでいく。
 全国身体障害者総合福祉センターでの実務経験をもとに、障害理解、障害者福祉の歴史と理念、障害者支援の要点について授業を行う。

到達目標

- A2222cd
 1. 障害者福祉に関連する法制度・サービスの概要を理解し、説明することができる。
 2. 障害者の生活を支える様々な施策とその目的について理解し、説明することができる。

成績評価方法

講義中の小テスト、期末試験で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							90
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、障害者福祉を学ぶ上で心にとめておきたいこと 【予習】障害者福祉論 の学習内容を振り返る（30分） 【復習】授業時に配布されたプリントを見直し整理する（30分）	小テスト
2) 障害者を取りまく社会情勢 【予習】教科書p2～p15にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページを見直し整理する（30分）	小テスト
3) 障害者の生活実態 【予習】教科書p16～26にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト
4) 障害の概念 【予習】教科書p27～31にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト グループワーク
5) 障害者にかかわる法体系 障害者基本法 【予習】教科書p34～47にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト グループワーク
6) 障害者にかかわる法体系 身体障害者福祉法から障害者虐待防止法まで 【予習】教科書p48～68にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト
7) 障害者にかかわる法体系 医療観察法、バリアフリー新法 【予習】教科書p69～73にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページを見直し整理する（30分）	小テスト
8) 障害者にかかわる法体系 障害者差別解消法 【予習】教科書p74～75にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト グループワーク
9) 障害者にかかわる法体系 障害者雇用促進法 【予習】教科書p76～78にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト
10) 障害者総合支援法 骨格提言の意義、理念、しくみの理解 【予習】教科書p106～110にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト
11) 障害者総合支援法 各種給付と支給決定のプロセス、地域生活支援事業 【予習】教科書p111～145にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページを見直し整理する（30分）	小テスト
12) 障害者総合支援法 障害福祉計画、苦情解決、その他 【予習】教科書p146～162にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページ、配布プリントを見直し整理する（30分）	小テスト グループワーク
13) 障害児に対する支援、組織・機関の役割 【予習】教科書p164～210にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページを見直し整理する（30分）	小テスト
14) 専門職の役割と実際、多職種連携、ネットワークング 【予習】教科書p212～267にあらかじめ目を通し内容の理解に努める（30分） 【復習】教科書の該当ページを見直し整理する（30分）	小テスト
15) まとめ 【予習】これまで学習してきた内容を振り返る（30分） 【復習】教科書、配布プリントを見直し整理する（30分）	
授業外学習	
この講義では、現在の障害者福祉に関する法律・制度を学びます。 社会福祉士・精神福祉士国家試験に出題される科目でもあるので、日々の復習・予習を欠かさず行い、法律・制度の理解を深めてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 社会福祉士養成講座編集委員会編集、 新・社会福祉士養成講座14 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、中央法規	障害者福祉論

課題に対するフィードバック

小テストは採点の上、次の回に返却する。必要に応じてコメントを付す。

備考

科目名	心理学概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	梶本 知子	関連する資格	公認心理師・認定心理士・社会福祉士・精神保健福祉士	

授業概要

心理学は「基礎心理学」と「応用心理学」の2領域に大別される。基礎心理学の領域では、こころのメカニズムの法則や理論を探究する。それらを実際の問題解決に役立てたり、広く社会への応用を図るのが応用心理学である。本講義では、教育、臨床、医療、福祉、司法などの領域で、基礎心理学がどのように応用されているかを理解することを目的とする。

到達目標

A2223abcd

授業で取り上げた概念と専門用語の定義を述べることができる。
 授業で紹介した理論やモデルを説明できる。
 基礎心理学が教育、産業、臨床、医療、福祉、司法の各領域でどのように応用され、役立っているのかについて説明できる。
 基礎心理学の知識や理論を用いて、自分自身の問題解決を図ることができる。

成績評価方法

定期試験 55%、授業内ミニレポート（ミニツツペーパー） 15%、宿題（小課題） 30%で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							55
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理学の成り立ち：科学としての心理学の始まりと展開，現在とこれから 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
2) 人の心の基本的な仕組み及び働き：心を理解するための代表的なモデル 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
3) 心の生理学的基盤：神経系のつながり，脳の構造と進化過程，脳の機能 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
4) 感覚・知覚：感覚の種類と特性，知覚の特性，形の知覚，奥行き知覚，運動知覚 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
5) 学習：学習とは，古典的・オペラント条件づけ，条件づけに基づいた心理療法 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
6) 記憶：記憶のメカニズム，忘却のメカニズム，記憶の変容と偽りの記憶 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
7) 言語・思考：ことばの働きと発達，思考と問題解決，推論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
8) 動機づけ：動機・誘因と動機づけ，マズローの欲求階層説，コンフリクト 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
9) 感情：感情・情動・気分，感情の3成分，感情の理論，感情の種類と発達 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
10) 心の発達 自己の発達：自他の分化と自己意識，自己像の形成，自己の確立 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
11) 知能：知能の定義と構造，知能検査と知的障害，創造性とは 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
12) パーソナリティ：環境への適応の仕方，気質・性格・パーソナリティと捉え方 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
13) 社会と個人：社会的認知，社会的影響 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
14) 心の健康と適応：自己理論における適応，適応の2側面，適応を助けるもの 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
15) ストレス：ストレスの直線的モデル，心理社会的ストレスモデル 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（60分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
授業外学習	
<p>【予習】 各回の授業の最後に、次回授業で扱う概念や専門用語、理論を提示するので、心理学事典等を用いてあらかじめ調べておくこと。</p> <p>【復習】 疑問に思ったことや興味・関心を惹かれたことについて、心理学事典や参考書、インターネット等を用いて調べる。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。参考文献は授業内で紹介する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

- ・ ミニツッペーパー（授業内ミニレポート）に書かれた質問について，次回の授業始めに口頭で解答し説明する。
- ・ 宿題の小課題は，次回の授業で答え合わせを行う。
- ・ 期末試験の結果については，平均点と標準偏差を掲示する。

備考

科目名	臨床心理学概論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	前期			
担当者名	西村 秀明		関連する資格				
授業概要 臨床心理学の基礎について、講義する。 まず、臨床心理学の歴史を取り上げ、臨床心理学の成り立ちについて学習する。また、精神疾患、臨床心理査定、心理療法、臨床心理面接、臨床心理学的地域支援の主に4点について概説する。具体的には、心の健康の回復や増進に向けて、どのような臨床領域があるのか、臨床心理学はどのような学問的性格があるのか、臨床心理学の独自性は何なのか、どのような方法論があるのかなど、臨床心理学における代表的な理論を取り上げながら事例や研究を交えて解説する。							
到達目標 1) 臨床心理学の成り立ちを学習するとともに、基本的な考え方を理解する。 2) また、臨床心理学の代表的な理論を、事例や研究視点の講義を通して学修する。			成績評価方法 定期試験、及びレポート等で総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)		○					50
小テスト、授業内レポート		○					20
宿題、授業外レポート		○					20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○	○	○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 臨床心理学の歴史 【予習】心理学に関する概論書を読んでおくこと。【復習】臨床心理学がどのように発展してきたか理解する（60分）。	
2) 心の働き 【予習】歴史的に「こころ」というものがどのように捉えられてきたか把握しておく（90分）。【復習】「心」の理解を深める（60分）。	
3) ストレス 心と体 【予習】ストレスとは何か、また身体的にどう作用するか確認しておく（90分）。【復習】ストレスの社会的背景、及び生理的作用についての理解（60分）。	
4) 脳器質性障害 【予習】脳の働きについて理解しておく（90分）。【復習】脳の損傷によって起こる精神疾患について理解する（90分）。	
5) 精神障害 【予習】精神病の分類について調べておく（90分）。【復習】症状性精神障害、内因性精神障害について理解する（60分）。	
6) 心因性精神障害（神経症性障害） 【予習】いわゆる神経症についてどのようなものがあるか調べておく（90分）。【復習】各種神経症の理解、及びストレスとの関連を習得する（90分）。	
7) 発達障害 【予習】発達障害の分類について調べておく（90分）。【復習】生理的作用によるもの、平均からの逸脱によるもの、発達について理解を深める（60分）。	1)～7)の小テスト
8) 心理査定（1） 【予習】人間の性格について学習しておく（120分）。【復習】質問紙法による心理検査の種類と目的について理解する（60分）。	
9) 心理査定（2） 【予習】人間の性格について学習しておく（30分）。【復習】投影法による心理検査の種類と目的について理解する（60分）。	
10) 心理療法（1） 【予習】心理療法の種類について学習しておく（90分）。【復習】各種心理療法と適応症について理解する（90分）。	
11) 心理療法（2） 【予習】【予習】心理療法の種類について学習しておく（60分）。【復習】各種心理療法と適応症、及び技法について理解する（120分）。	8)～11)の小テスト
12) 面接技法（1） 【予習】受理面接について調べておく（60分）。【復習】生活史等の把握の仕方から問題の主訴・ニーズまでの進め方、及び援助契約について理解する（60分）	
13) 面接技法（2） 【予習】カウンセリングについてその概要を学んでおくこと（120分）。【復習】カウンセリングを機能させる技法について理解を深める（90分）。	
14) 臨床心理学的地域援助 【予習】精神障害者等の地域支援について学習しておくこと（90分）。【復習】心を病む人たちへの地域援助システムについて理解を深める（60分）。	
15) ケース・マネージメント 【予習】精神保健にかかわる他職種の役割について学習しておくこと（90分）。【復習】心の支援にかかわる他職種連携について理解を深める（60分）。	グループワーク/レポート
授業外学習	
臨床心理学全般の図書で学習を積んでいくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 適宜プリントを配布する。 参考書 ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会	臨床心理学概論、カウンセリング論

課題に対するフィードバック

小テスト等授業において解説し、心理専門職としての知識の深化を図る。

備考

科目名	臨床心理学概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

臨床心理学概論 で学んだ心理学の成り立ち（歴史や理論的背景）など基礎的なことを更に発展させ、実際の臨床領域において扱われる代表的な心理療法の理論と技法について説明する。
また、それらの技法をとおしてさまざまな心理的な問題行動や症状について、どのように診断と治療がすすめられていくのか事例を通して理解を促す。

実務経験

公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどの臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行う。

到達目標

A2225ab
代表的な心理療法について、その理論的背景を理解する。
代表的な心理療法について、その技法について理解する。
さまざまな問題行動や症状の背景にある心性を理解する。

成績評価方法

毎回提出するレポート（質問や感想など）で授業への参加度を評価
筆記試験

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理療法の流れ （インタビュー・アセスメント・契約・本面接） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
2) 精神分析的な治療 1（フロイト・無意識） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
3) 精神分析的な治療 2（フロイトの後継者たち） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
4) 来談者中心療法 1（ロジャーズ・傾聴） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
5) 来談者中心療法 2（来談者中心療法の実際） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
6) 芸術療法（表現することの意味・さまざまな表現活動） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
7) 箱庭療法 1（芸術療法としての箱庭療法） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
8) 箱庭療法 2（箱庭療法の実際・箱庭の解釈） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
9) 家族療法 1（家族療法の誕生と歴史） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
10) 家族療法 2（さまざまな学派とその理論） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
11) 催眠療法（催眠療法の実際・自律訓練法） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
12) 物語療法（ナラティブ・セラピー） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
13) 行動療法（さまざまな行動療法） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
14) 認知療法（認知療法の基礎理論） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
15) 認知行動療法（認知行動療法の実際） 【予習】事前に配布した資料を熟読して授業に臨む（30分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内レポート
授業外学習	
授業終了時に配布する次回参考資料を次の授業までに熟読し、疑問点等を明確にして授業に臨む。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを配布する。	臨床心理学概論Ⅰ

課題に対するフィードバック

備考

オフィスパワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	簿記論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

簿記とは、一定の簿記のきまり(正規の簿記の原則)に従って企業の経営活動から生じる全ての取引を記録・計算・整理する技術である。企業経営の全貌を明らかにするために、日々の全ての取引を伝票で表現をし、帳簿に記録・集計して貸借対照表・損益計算書を作成する基礎的な知識と技術を学習する。

到達目標

ナンバリング(A2226)

一般企業の経理が行う計算書類(貸借対照表・損益計算書)の作成ができる能力、また計算書類を基に簡易な分析ができる能力を身に付ける。

成績評価方法

試験等の結果で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 簿記の重要性	
2) 勘定科目説明 1	
3) 勘定科目説明 2	
4) 勘定科目説明 3	
5) 仕訳練習 1	
6) 仕訳練習 2	
7) 仕訳練習 3	
8) 実務演習 1 (起票・転記・試算表・損益計算書)	
9) 実務演習 2 (起票・転記・試算表・損益計算書)	
10) 実務演習 3 (起票・転記・試算表・損益計算書)	
11) 実務演習 4 (起票・転記・試算表・損益計算書)	
12) 実務演習 5 (起票・転記・試算表・損益計算書)	
13) 決算手続	
14) 決算書の読み方・経営分析	
15) 総括	
授業外学習	
<p>単元ごとの内容を、自分で調べてから授業にのぞむこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
配布プリントと販売する教材一式	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	福祉住環境論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	福祉住環境コーディネーター 2級	

授業概要

高齢者や障害者の住生活をサポートしていくためには、住環境に関する理解が不可欠である。本講義では、東京商工会議所が主催する福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格を目的として、建築や福祉用具といった住環境整備に関する事項についての共通理解を形成した上で、住宅改修や福祉のまちづくりの手法や考え方について、毎回の問題演習を通じて習得することをねらいとする。

到達目標

A4201
7月に実施予定の福祉住環境コーディネーター検定試験2級に合格する。
万一合格できなかった場合は、再履修登録の上、11月の試験にチャレンジすること。

成績評価方法

福祉住環境コーディネーター検定試験2級の得点を中心に評価する。
2017年以降の検定試験2級合格者は、合格証と成績表の原本と提示し、それらのコピーを提出することで単位認定を受けることができる。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
2) 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
3) 障害のとらえ方と自立支援のあり方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
4) 障害のとらえ方と自立支援のあり方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
5) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
6) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
7) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
8) 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
9) 福祉住環境整備の共通基本技術 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
10) 福祉住環境整備の共通基本技術 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
11) 生活行為別福祉住環境整備の手法 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
12) 生活行為別福祉住環境整備の手法 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
13) 在宅生活における福祉用具の活用 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
14) 在宅生活における福祉用具の活用 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
15) 総括・検定試験対策 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（120分）	個人ワーク
授業外学習	
毎回、事前にテキストの該当ページを読んでおくこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂5版』、2019年、東京商工会議所 参考書としては「福祉住環境コーディネーター」に関連する書籍を講義内で適宜紹介する	人体の構造と機能及び疾病 ・ 、社会保障論 ・ 、高齢者福祉論 ・ 、障害者福祉論 ・ 、介護概論

課題に対するフィードバック

質問は個別に対応する

備考

前期の開講期間は4月～7月（COVID-19の感染拡大状況によっては開講しない場合もある）
授業時間は18：30～20：40
後期は再履修登録のみ受け付ける
家庭の事情等で夜間に受講できない者は、個別に課題を出して指導するので事前に相談に来ること

科目名	ビジネス情報			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

世界は今、まさに「地下資源」から「地上資源」への転換が始まっている。太陽光やバイオマス、地熱など地上に見えていて、使用されない資源は多くある。それらは不安定ですべてを賄えないという難点があるが、スマートグリッドなどを用いて安定供給することは可能。授業では、環境に配慮した新技術、新エネルギーなどについて現状と将来性に分けて言及。グループ討議を設定。自分の考えを主張して積極的に参加する。

到達目標

A2126
現在のビジネスの現状を把握し、将来企業でビジネスに関する新しいアイデアを生み出す。

成績評価方法

毎回配布する質問・感想カードの内容、レポート、グループ討議の態度、定期試験から総合評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ビジネス情報の概論 予習；ビジネス情報資料の全般を概観する（30分）。復習；これから取り上げる項目について確認する（30分）。	
2) 地下資源の現状と将来？ 予習；地下資源の現状について調べておく（30分）。復習；地下資源の将来について考えてみる（30分）。	
3) 新エネルギーの現状と将来性？ 予習；新エネルギーの現状について調べておく（30分）。復習；新エネルギーの将来について考えてみる（30分）。	
4) 蓄電池、特にリチウムイオン電池とその将来性 予習；蓄電池、特にリチウムイオン電池の現状について調べておく（30分）。復習；蓄電池、特にリチウムイオン電池の将来について考えてみる（30分）。	
5) レアメタルの確保は？ 予習；レアメタルの現状について調べておく（30分）。復習；レアメタルの将来について考えてみる（30分）。	
6) 水ビジネスの将来性 予習；水ビジネスの現状について調べておく（30分）。復習；水ビジネスの将来について考えてみる（30分）。	
7) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議の中で生じた疑問点を解決して、レポート作成の時間として有効に活用する（1時間）。	グループ討議と要点の確認とレポート作成。
8) 燃料電池と水素社会の実現はいつ？ 予習；燃料電池と水素社会について調べておく（30分）。復習；燃料電池と水素社会の将来について考えてみる（30分）。	レポート提出
9) 炭素繊維の現状と将来性？ 予習；炭素繊維の現状について調べておく（30分）。復習；炭素繊維の将来について考えてみる（30分）。	
10) 宇宙産業の将来性？ 予習；宇宙産業の現状について調べておく（30分）。復習；宇宙産業の将来について考えてみる（30分）。	
11) 農業の将来性？ 予習；農業の現状について調べておく（30分）。復習；農業の将来について考えてみる（30分）。	
12) AI・ロボット・自動運転の将来性？ 予習；AI・ロボット・自動運転の現状について調べておく（30分）。復習；AI・ロボット・自動運転の将来について考えてみる（30分）。	
13) GPS、位置情報、5Gとは 予習；GPS、位置情報、5Gの現状について調べておく（30分）。復習；GPS、位置情報、5Gの将来について考えてみる（30分）。	
14) Society5.0、量子コンピューターとは 予習；Society5.0、量子コンピューターの現状について調べておく（30分）。復習；Society5.0、量子コンピューターの将来について考えてみる（30分）。	
15) まとめ	
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読する。 講義資料を復習する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。	地球の現在・過去・未来、自然災害

課題に対するフィードバック

毎回、授業後に提出する質問・感想カードの解答をなどを、次回の講義の始めに行う。レポート提出後、問題点を指摘して、返却する。総評をする。

備考

科目名	ベンチャービジネス論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	未定		関連する資格				
授業概要 人々の生活が多様化していく中で、新しいビジネスチャンスが広がっています。しかし、ひとくちにビジネスといっても様々なビジネスモデルがあり、新しい価値の創造、社会の中での存在意義、企業として果たす役割など検討しなければならない課題がたくさんあります。また、個人に目を向けると夢の実現や起業家としての考え方や責任なども学ばなくてはなりません。この授業では、起業するための考え方や社会での役割、ビジネスモデルの作り方から企業の成長において考えなければならない点など、起業における基本的な考え方からビジネスの成長に必要な基本的な知識と考え方を習得してください。							
到達目標 ナンバリング(A3203) ・会社が存在する意味について理解する。 ・会社を設立する上での手続きについて理解する。 ・自分の夢を語ることができ、実践するために夢の道筋を作成することができる。			成績評価方法 出席日数、ディスカッションでの発言、期末のレポートにより評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							40
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 起業における考え方、企業の存在意義と社会的責任、市場について学びます。	
2) 起業における考え方、企業の存在意義と社会的責任、市場について学びます。	
3) 起業における考え方、企業の存在意義と社会的責任、市場について学びます。	
4) 企業理念や組織について学びます。	
5) ビジネスプランについて学習し、ビジネスプラン作成時に必要な知識について学びます。	
6) ビジネスプランについて学習し、ビジネスプラン作成時に必要な知識について学びます。	
7) ビジネスプランについて学習し、ビジネスプラン作成時に必要な知識について学びます。	
8) ケーススタディ	
9) 実際の事業を進めていく上でのマネジメントについて学びます。	
10) 実際の事業を進めていく上でのマネジメントについて学びます。	
11) ビジネスプランの作成	
12) ビジネスプランの作成	
13) ビジネスプランの作成	
14) ビジネスプランの作成	
15) レポート課題発表	
授業外学習	
ベンチャービジネスについて、インターネット等で調べてから授業に臨むこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストはなし。参考書については授業中にその時々で授業内容に適した書籍を紹介する。	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	インターンシップ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	2年	前期
担当者名	角光 通子	関連する資格		

授業概要

インターンシップとは、「学生が企業や行政機関などの職場において、就業体験を通じて勤労観や職業観を高めるための制度」である。インターンシップでは、学校にはない実際の現場を教育の場をして利用し、教室で学習したさまざまな知識を実際に応用するための機会を提供する。本学のインターンシップでは、学生自身に将来の職業適性を考える機会を与え、社会人として必要な責任感や自立心など将来の職業人としての心構えを養う。

到達目標

A2501
 自分自身で考え、自分の言葉で表現できる。
 初対面の人とコミュニケーションをとることができ、人間関係が構築できる
 社会人としての基本的マナーを習得し、実行できる

成績評価方法

インターンシップ先による評価、実習レポートと実習日誌、報告会での報告内容を総合して評価する

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度			○		○		10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習							70	

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>4月 インターンシップの概要 インターンシップと就職活動の関わり</p> <p>5月 インターンシップ受け入れ先の選択 希望先について調査し、レポートを作成 必要書類の準備</p> <p>6月 インターンシップ受け入れ先の決定（最終） 必要書類の準備（最終）</p> <p>7月上旬（集中）ビジネスの基礎 ビジネスマナーの習得その1 ビジネスマナーの習得その2</p> <p>8月～9月 希望先でインターンシップ（夏季休暇期間中）</p> <p>10月 インターンシップ報告書の作成提出</p> <p>発表会</p> <p>発表振り返り</p> <p>まとめ</p>	<p>グループワーク</p> <p>授業外レポート</p> <p>発表会</p>
授業外学習	
<p>希望先について調査し、レポートを作成する。インターンシップを通じて、自分が習得したいことを事前準備で明確にする。インターンシップでの日々の振り返りを通して、次のインターンシップにおける行動に活かす。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>本学インターンシップ手引き書 その都度配布するプリント</p>	<p>キャリア支援 、 、</p>

課題に対するフィードバック

都度都度、提出物に対して、コメントを付けて返却する。

備考

科目名	コンピュータとシミュレーション技術						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	柘 軍		関連する資格				
授業概要 コンピュータ技術の進化は、シミュレーション技術を飛躍的に進めた。コンピュータシミュレーション技術は機械、設計分野のみならず、環境、医療、福祉など、あらゆる分野で活躍する技術である。本講義では、まず、コンピュータの歴史・発展及びコンピュータ技術の発展とシミュレーション技術の関係について紹介する。次に、有限要素法によるシミュレーション技術の導入・基礎・手法・汎用ソフト・応用領域などについて講義する。							
到達目標 A3401 コンピュータによるシミュレーションに関する基本的知識を習得できる。 応用事例を通して有限要素法シミュレーション技術を深く理解することができる。			成績評価方法 定期試験、レポート、授業への意欲・態度				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス：授業概要	
2) コンピュータの出現 【予習】プリントP1～P3（20分）【復習】コンピュータの出現(30分)	
3) コンピュータの世代、歴史と世代のまとめ 【予習】プリントP4～P5(20分)【復習】コンピュータの世代、歴史(30分)	グループワーク
4) コンピュータ技術の発展 【予習】プリントP4～P5(20分)【復習】コンピュータの世代、歴史(30分)	
5) 各分野におけるコンピュータ技術の応用 【予習】プリントP8～P9（20分）【復習】各分野におけるコンピュータ技術の応用(30分)	
6) コンピュータによるシミュレーション技術 【予習】プリントP10～P12（20分）【復習】第6章のシミュレーションの考え方、シミュレーションの重要性(30分)	
7) 設計シミュレーション技術の展開 【予習】プリントP12～P16（20分）【復習】第6章のシミュレーションの種類と手法、第7章(30分)	グループワーク
8) 有限要素法によるシミュレーション 【予習】プリントP16～P18（20分）【復習】第8章の有限要素法の考え方、特徴と基本概念（30分）	
9) 有限要素法によるシミュレーション 【予習】プリントP19～P22（20分）【復習】第8章の有限要素法の実際(30分)	
10) 有限要素法によるシミュレーション 【予習】プリントP22～P24（20分）【復習】第8章の有限要素法の実例、補足資料1(30分)	
11) 有限要素法シミュレーションソフト 【予習】プリントP25～P29（20分）【復習】第9章(30分)	
12) 配布する資料についてレポートを作成 【予習】補足資料2（30分）【復習】第6～9章(60分)	個人ワーク
13) 各分野における有限要素法シミュレーション応用 【予習】プリントP29～P33（20分）【復習】第10章の自動車工業における有限要素法シミュレーション応用(30分)	
14) 各分野における有限要素法シミュレーション応用 予習】プリントP34～P37（20分）【復習】第10章の塑性加工工業、電気製品工業、建築・土木工業等における有限要素法シミュレーション応用(30分)	
15) 各分野における有限要素法シミュレーション応用 予習】プリントP38～P43（20分）【復習】第10章の生体力学・医療、環境保全、宇宙開発分野における有限要素法シミュレーション応用(30分)	
授業外学習	
配布資料を熟読すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。プリントを配布する。	情報処理の基礎

課題に対するフィードバック

レポートなどの共通なことについて授業で説明する

備考

科目名	公認心理師の職責			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格	公認心理師 認定心理士	

授業概要

公認心理師は、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、(1)心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析 (2)心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助 (3)心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助 (4)心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供 という行為を行う。活動する領域としては、保健医療分野・福祉分野・教育分野・司法犯罪分野・産業労働分野等多義にわたる。それぞれの領域での活動について具体的に説明し理解を促していく。また、それらの活動を行う際に求められる守秘義務など倫理的配慮や多職種との連携協働等についても理解を深めていく。

実務経

公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどの臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行う。

到達目標

A2227a

公認心理師の主な活動である(1)心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析 (2)心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助 (3)心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助 (4)心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供 について正しく理解し、説明できる。

公認心理師の活動する保健医療分野・福祉分野・教育分野・司法犯罪分野・産業労働分野等それぞれの領域での具体的な活動について、理解し説明することができる。

各領域での活動を行う際に求められる守秘義務など倫理的配慮や多職種との連携協働等についてその重要性を理解できる。

成績評価方法

授業への参加態度(グループディスカッションへの意欲的な取組)、毎回の授業内レポート、全授業終了後提示するテーマへのレポート

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート		○	○		○		20
宿題、授業外レポート		○	○				30
授業態度・授業参加度		○	○		○		10
プレゼンテーション			○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 公認心理師の職責とは 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
2) 公認心理師の4つの役割 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
3) 公認心理師に求められる法的義務と倫理 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
4) 利用者（クライアント、患者や家族等）の安全の確保について 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
5) 情報の適切な取り扱いについて 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
6) 各領域における具体的な活動（保健医療分野） 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
7) 各領域における具体的な活動（福祉分野） 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
8) 各領域における具体的な活動（教育分野） 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
9) 各領域における具体的な活動（司法・犯罪分野） 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
10) 各領域における具体的な活動（産業・労働分野） 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
11) 心理的支援者としての自己課題発見・解決能力 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
12) 生涯学習としての取り組みと準備 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
13) 多職種連携・地域連携・協働 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
14) 公認心理士としてのアイデンティティについて 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専用後について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
15) 公認心理師の今後の課題 参考図書の該当する章を熟読しておく（30分） 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（30分）	授業内のグループディスカッションで自分の意見が言える。授業内レポートの作成。
授業外学習	
事前に配布資料を熟読し理解しておく。授業内のグループディスカッションで自分の意見が言えるように自分の考えをまとめておく。授業中理解できなかった専門語彙は、次の事業までに調理解しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
公認心理師の基礎と実践（第1巻） その都度必要な資料を配布する。	心理学概論 ・ 臨床心理学概論 ・

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスアワーの実施
希望者は事前に日時の調整をすること。

科目名	社会福祉調査法概論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	瀬崎 譲廣		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 社会調査は、「社会」を客観的に把握し、理解しようとするための方法です。私たちは社会の中で生活しているため、「社会」について、「なんとなく知っている」つもりでいたり、知らなくても生活に支障がないのでやり過ごしていたり、ということが普通にあります。私たちが普段曖昧にしている「社会」について、可能な限り明らかにすることが社会調査の目的です。 社会調査は学術的目的に限らず、行政サービスやビジネスなどの場面でも盛んに活用されています。社会福祉においても、サービスに対する利用者の満足度を調べたり、あらたなニーズを発掘する上でも有用なツールになります。 この授業では、社会調査の技法や、社会調査を行う上で必要なマナーやルール（倫理）について学習します。統計分析については、適宜実習を交えながら学習します。実習ではパソコンを用います。 なお、社会調査は社会福祉国家試験の受験科目でもあるので、社会福祉士を志望する方は受講することをお勧めします。							
到達目標 ナンバリング(A3402c) 社会調査の企画・設計、調査票の作成、データ分析を行う上で必要な概念や技法を理解する。 基本的な統計分析を理解し、自分で行えるようになる。			成績評価方法 定期考査でのレポートまたはテスト 授業で課す小レポート				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーリング 授業の説明、資格試験問題の解法など 復習：小レポート（10分程度）	
2) 科学観の変化と社会調査の意義 復習：小レポート（10分程度）	
3) 社会調査上の倫理 復習：小レポート（10分程度）	
4) 質的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
5) 質的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
6) 量的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
7) 量的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
8) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	
9) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
10) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
11) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
12) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
13) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
14) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
15) まとめ	
授業外学習	
授業の中で、学習内容の理解を深めるため宿題を課します。また、宿題について発表をしてもらうことがあります。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：特に用いない 参考書：授業の中で適宜紹介する	統計学、社会福祉援助技術演習

課題に対するフィードバック

小レポートには次回コメントを付けて返却。または、提出された小レポートをふまえた授業を行う。

備考

科目名	相談援助総論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	前期			
担当者名	三輪 直之		関連する資格	社会福祉士受験資格 精神保健福祉士受験資格			
授業概要 対人援助専門職として他者を援助することの意味と視点について理解する。次に社会福祉実践の基本的な知識と方法について理解する。さらに援助対象と援助のあり方の基本について理解する。 この授業は、教員の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助のあり方についての授業を展開する。							
到達目標 A2401cd 社会福祉実践の基盤となる概念・価値・倫理・原則・構造・体系について理解する。 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論とその実際について理解する。 相談援助の対象と援助のあり方について理解する。 社会福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する。			成績評価方法 定期試験、小テスト、宿題、授業態度により評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会福祉専門職（社会福祉士の役割と意義） 【復習】小レポート作成（30分）、小テスト準備（30分）	小レポート
2) 社会福祉専門職（精神保健福祉士の役割と意義） 【予習】テキストp100～124を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
3) 社会福祉専門職（その他の専門職） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
4) 社会福祉専門職と専門援助活動 【予習】テキストp14～22を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
5) わが国の社会福祉専門職の特徴 【予習】テキストp158～179を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
6) 社会福祉実践の概要（基本概念・構造・体系・沿革） 【予習】テキストp61～64、p33～53、p153～158を熟読する（60分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
7) 社会福祉実践を支える原理・原則 【予習】テキストp65～68を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
8) 社会福祉実践における価値 【予習】テキストp69～76を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
9) 社会福祉専門職の倫理（倫理概念と倫理綱領） 【予習】テキストp77～78、p140～147を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
10) 社会福祉専門職の倫理（倫理的葛藤） 【予習】テキストp135～147を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
11) 社会福祉援助の対象 【予習】テキストp203～206および事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
12) 援助契約とサービス利用契約 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
13) 社会福祉実践におけるニーズ 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
14) 社会福祉実践における社会資源 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
15) チームアプローチ、ネットワーク 【予習】テキストp191～200を熟読する（30分）	小テスト
授業外学習	
<p>毎回、宿題を出す（次回提出）。 次回の予告をするので、テキストや資料の該当範囲を読んでおくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：MINERVA社会福祉士養成テキストブック2、相談援助の基盤と専門職、ミネルヴァ書房	相談援助総論，相談援助各論・・・，社会福祉調査法概論

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。
小テストは、採点して次回返却する。15)のみ日時を設定し後日返却する。

備考

科目名	相談援助総論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	三輪 直之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 社会福祉実践の発展過程およびさまざまな実践モデルの概要について理解する。さらに社会福祉専門職をめぐる専門性・専門職性に関する議論について理解する。 この授業は、教員の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助専門職のあり方やその技法についての授業を展開する。							
到達目標 A2402c 社会福祉実践理論の発展過程について理解する 相談援助の様々な実践モデルについて理解する。 社会福祉専門職の専門性・専門職性をめぐる動向と課題について理解する。 相談援助活動の実際と事例分析の意義・方法について理解する。			成績評価方法 定期試験、小テスト、小レポート、授業態度により評価する				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会福祉実践の形成過程（萌芽期） 【復習】小レポート作成（30分）、小テスト準備（30分）	小レポート
2) 社会福祉実践の形成過程（基礎確立期） 【予習】テキストp 33～35、p 41～44を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
3) 社会福祉実践の形成過程（発展期） 【予習】テキストp 35～37を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
4) 社会福祉実践の形成過程（展開期） 【予習】テキストp 37～38を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
5) 社会福祉実践の形成過程（理論統合） 【予習】テキストp 38～39を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
6) 社会福祉実践の形成過程（ジェネラリスト・ソーシャルワーク） 【予習】テキストp 39～44を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
7) 社会福祉専門職の専門性・専門職性について（概念整理） 【予習】テキストp 61～65を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
8) 社会福祉専門職の専門性・専門職性について（議論の経緯と現状） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
9) 実践モデルとアプローチ（治療モデル、生活モデル） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
10) 実践モデルとアプローチ（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
11) 実践モデルとアプローチ（危機介入アプローチ、行動変容アプローチ） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
12) 実践モデルとアプローチ（エンパワメントアプローチ、ストレングスアプローチ） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
13) 実践モデルとアプローチ（ナラティブアプローチ） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
14) 実践モデルとアプローチ（ケースマネジメント） 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
15) スーパービジョン・コンサルテーション 【予習】事前配布資料を熟読する（30分）	小テスト
授業外学習	
<p>毎回、宿題を出す（次回提出）。 次回の予告をするので、テキストの該当範囲を読んでおくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：MINERVA社会福祉士養成テキストブック2、相談援助の基盤と専門職、ミネルヴァ書房	相談援助総論 ， 相談援助各論 . . . ， 社会福祉調査法概論

課題に対するフィードバック

小テストは、採点して次回返却する。ただし、15)のみ日時を設定し後日返却する。

備考

科目名	相談援助各論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	三輪 直之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 社会福祉援助活動と専門援助技術とのつながりの理解したうえで、専門援助技術の体系、個別援助技術の基本理論と展開過程を理解する。併せて、これらの援助に関連する技術を理解する。 この授業は、教員の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助の技術についての授業を展開する。							
到達目標 A2403c 社会福祉援助活動と専門援助技術とのつながりを理解する。 個別援助技術の基本理論と展開過程を理解する。 個別援助技術の援助方法を学び、臨床的な思考に慣れる。 対人援助の基本について理解を深め、併せて、実践的な技術を習得する。			成績評価方法 定期試験、小テスト、小レポート、授業態度により評価する				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会福祉における相談援助活動と専門援助技術 【復習】小レポート作成（30分）、小テスト準備（30分）	小レポート
2) 相談援助実践の基本的原則と基本姿勢 【予習】テキストp77～79を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
3) 相談援助における人と環境との相互作用 【予習】テキストp54～67を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
4) 相談援助におけるミクロ、メゾ、マクロの視点 【予習】テキストp70～76を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
5) 相談援助の過程（インテーク、援助契約） 【予習】テキストp96～111を熟読する（60分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
6) 相談援助の過程（アセスメント） 【予習】テキストp112～126を熟読する（60分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
7) 相談援助の過程（プランニング） 【予習】テキストp127～136を熟読する（60分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
8) 相談援助の過程（インターベンション、モニタリング、再アセスメント） 【予習】テキストp138～145、p206～221を熟読する（90分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
9) 相談援助の過程（評価・終結） 【予習】テキストp146～148を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
10) 相談援助のための面接技術（目的、形態、基本姿勢） 【予習】テキストp250～253を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
11) 相談援助のための面接技術（展開方法） 【予習】テキストp254～260を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
12) 相談援助のための面接技術（援助的コミュニケーション） 【予習】テキストp261～268を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
13) 記録と個人情報の保護 【予習】テキストp270～293を熟読する（90分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
14) 事例分析の方法とスーパービジョン 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト
15) 相談援助の方向と課題 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）	小テスト
授業外学習	
<p>毎回、宿題を出す（次回提出）。 次回の予告をするので、テキストの該当範囲を読んでおくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・社会福祉士養成講座7、相談援助の理論と方法、中央法規	相談援助総論、相談援助総論、相談援助各論、相談援助各論、相談援助各論

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。
小テストは、採点して次回返却する。ただし、15)のみ日時を設定し後日返却する。

備考

科目名	相談援助各論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	山根 千絵、蔵本 満敦	関連する資格		

授業概要

相談援助各論 で学んだ知識をさらに深め、そのうえで、集団を活用した相談援助の各過程に沿った形で各過程において必要となる知識を解説し、併せて実践にあたり必要となる知識について解説する。また、事例を検討することによりその実際について理解を深める。

到達目標

集団援助技術の過程とそれに係る知識と技術について理解する。
事例分析の意義と方法について理解する。
相談援助の実際について理解する。

成績評価方法

単元毎に実施するグループ討議と小レポートの評価と最終レポート（定期試験）との総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	グループワークとは何か 【予習】テキスト p.60～p.66を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	授業内レポート
2)	グループワークの原則と基本姿勢 【予習】テキストp.60～p.66を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
3)	グループワークの沿革 【予習】事前に配布する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
4)	グループワークの対象 【予習】事前に配布する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
5)	グループワークの形態 【予習】事前に配布する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
6)	グループワークの技術 【予習】事前に配布する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
7)	グループワークの過程（準備期） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク、小レポート
8)	グループワークの過程（開始期） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク、小レポート
9)	グループワークの過程（作業期） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク、小レポート
10)	グループワークの過程（評価） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク、小レポート
11)	グループワークの過程（終結、移行） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク、小レポート
12)	記録と個人情報の保護 【予習】事前に配布する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
13)	事例分析の方法とスーパービジョン 【予習】事前に配布する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
14)	グループワークの実際と事例分析 【予習】テキスト p.60～p.80を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
15)	グループワークの実際と事例分析 【予習】テキスト p.60～p.80を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
参考書：新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法 ・』中央法規 教材：配布プリント		相談援助総論 相談援助総論 相談援助各論 相談援助各論 相談援助各論

課題に対するフィードバック

授業内レポートおよび小レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	相談援助各論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	岩金 俊充		関連する資格	社会福祉士受験資格 高等学校教諭(福祉)一種免許状			
授業概要 相談援助におけるさまざまな理論や技法を基にして、実際の支援がどのように展開していくのかということ学ぶ。また、現在の社会問題を取り上げて、どのような支援やソーシャルアクションを行っていけば解決につながるのかについて、プレゼンテーションやディスカッションをしながら学ぶ。 ソーシャルワークの実践家として、どのような姿勢で支援に臨めばよいか学ぶ。 中学校教員、知的障害者施設支援員、スクールソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、相談援助の理論に基づいた支援と、現場での具体的展開方法について授業を行う。							
到達目標 ナンバリング(A3404c) ・相談援助活動の実際と事例の分析・方法について理解する。 ・相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 ・事例を理論やモデルに基づいて考察し、好転に向けた支援計画を立てることができる。			成績評価方法 出席率、授業への意欲、プレゼンテーションやグループディスカッション、定期試験等を総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 相談援助の対象：システム理論による全体的、包括的な対象理解 【予習】テキスト「第1章・相談援助～対象の理解」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	
2) ケースマネジメントの過程とソーシャルワークの関係 【予習】テキスト「第2章・ケースマネジメント」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション
3) グループを活用した相談援助 【予習】テキスト「第3章・グループ～相談援助」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション 小テスト
4) コーディネーションとネットワークング 【予習】テキスト「第4章・コーディネーション～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション 小テスト
5) 社会資源の活用：既存資源の再資源化、新規開発、組織の地域化 【予習】テキスト「第5章・相談援助～社会資源」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション
6) 実践モデルとアプローチ ・事例をもとに 【予習】テキスト「第6章・様々な実践モデル～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
7) 実践モデルとアプローチ ・事例をもとに 【予習】テキスト「第7章・様々な実践モデル～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
8) 実践モデルとアプローチ ・事例をもとに 【予習】テキスト「第8章・様々な実践モデル～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
9) スーパービジョンとコンサルテーション・グループワーク 【予習】テキスト「第9章・スーパービジョン～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
10) ケースカンファレンスの技術 【予習】テキスト「第10章・ケース～の技術」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
11) 相談援助と個人情報の保護・情報通信技術・社会福祉士の倫理綱領 【予習】テキスト「第11章・第12章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
12) 相談援助と個人情報の保護・情報通信技術・社会福祉士の倫理綱領 【予習】テキスト「第11章・第12章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループワーク
13) 事例研究・事例分析・相談援助の実際 ・事例から考察・演習 【予習】テキスト「第13章・事例研究～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（模擬ケース会議）
14) 事例研究・事例分析・相談援助の実際 ・事例から考察・演習 【予習】テキスト「第13章・事例研究～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（模擬ケース会議）
15) 総括・相談援助について・相談支援におけるアプローチと実際の展開 【予習】テキスト「第14章・相談援助の実際」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読む	
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読して来てください。 授業で配布した複数の新聞記事の中から一つを選び、考察を書き、次回提出します。 また、授業では、順番に担当者が発表し、ディスカッションを行います。 講義資料とテキストを復習し、関係する情報の収集と資料を作成して発表に臨んでください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『相談援助の理論と方法』中央法規 毎回レジュメと、参考資料を配布する。	相談援助総論 相談援助各論 地域福祉論

課題に対するフィードバック

例：小レポート（配布資料を読んだの考察）は翌週コメントをつけて返す。

備考

授業への意欲や態度を重視します。

科目名	相談援助各論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	吉島 豊録	関連する資格	社会福祉士受験資格 高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

ケアマネジメント技法の概念や機能について学び、サービス利用者を取り巻く支援体系を理解する。また、実践事例を通して、その技法を修得する。
さらに知識・技術の統合を目指し、相談援助職としての専門性について考える。
ソーシャルワーカー、介護支援専門員の実務経験をもとに、ケアマネジメント、アセスメントについて講義を行う。

到達目標

ナンバリング(A3405c)

- ・ 専門援助技術の目的と機能を理解したうえで、技法を身につける。
- ・ 専門援助技術における知識と技術の統合について考える。

成績評価方法

小テスト、レポートと演習の参加度から総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							30
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 岡村理論とケアマネジメント 【復習】岡村重夫の功績を調べる	ディスカッション、小レポート
2) ケアマネジメントの目的と機能 【予復習】ケアマネジメントとはどのようなものか、他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
3) ケアマネジメントの必要性 【復習】第1講、第2講、第3講についてのまとめレポート作成。（70分）	ディスカッション、小レポート
4) ケアマネジメントプロセスとアセスメント 【予復習】ケアマネジメントプロセスを暗記する。小レポートに続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
5) 事例による4)の理解（1） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（1）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
6) 事例による4)の理解（2） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（2）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
7) 事例による4)の理解（3） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（3）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
8) 事例による4)の理解（4） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（4）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
9) アンビバレントの見つけ方（1）事例による理解 【予復習】アンビバレントについて他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
10) アンビバレントの見つけ方（2）事例による理解 【予復習】身近なアンビバレントを探す。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
11) ストレンクス視点 事例による理解 【予復習】ストレンクス視点とは何かを他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
12) ニーズの構造 【予復習】ニーズの構造について他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
13) 長期目標、短期目標の考え方 【予復習】長期目標、短期目標について他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
14) 事例による11)12)の理解（1） 【予復習】長期目標、短期目標について他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
15) 事例による11)12)の理解（2） 【復習】ニーズの構造、長期目標、短期目標について他者に説明できるようにする。小レポートからの考察（120分）	ディスカッション、小レポート
授業外学習	
復習：小レポートを完成させる。学んだことを言語化できるようにすること。 予習：提供されたキーワードをもとに調べ学習をしておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適時配布する。 参考書 『社会福祉援助技術論(下)』 ミネルヴァ書房 『社会福祉援助技術論 (新版第4版)』 中央法規 『相談援助の理論と方法』 中央法規 『ケアマネジメント用語辞典』 ミネルヴァ書房	相談援助総論 , 相談援助各論 , ,

課題に対するフィードバック

小レポートについては、翌週の授業でシェアする。
そのうえで、講評・補足説明をする。

備考

科目名	社会福祉史			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

社会福祉の見方を確認するためには、西洋の社会福祉の歴史の流れをダイナミックに捉えることが重要である。日本の社会福祉は、現在、社会福祉関連の多様な問題が表面化するなかで、措置制度に代わって、契約制度が社会福祉の中核の制度になっている。以上を踏まえ、本講義において、西洋ではイギリスの歴史を中心に講義し、社会福祉の1つの視点を学ぶ端緒としたい。そして、日本の幕末から明治期以降の社会福祉史を概略史的に追い、日本の社会福祉の特徴を探る手がかりとしたい。

到達目標

ナンバリング(A3406)

- ・イギリスと日本の基本的な社会福祉の通史を理解する。
- ・イギリスと日本の思想史を理解する。
- ・イギリスと日本の制度・政策史を理解する。

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に、授業時間の課題を勘案して評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							85
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会福祉史とは：社会福祉士の目標と住居計画について講義 社会科学と社会福祉の歴史研究	授業内レポート
2) 貧困問題とエリザベス救貧法（イギリス）：貧困問題の発生原因、旧救貧法の成立、1597年法と1601年法	
3) 救貧法成立の背景にある社会思想（イギリス）：旧救貧法の展開、古典派経済学者と功利主義者の社会思想	
4) 新救貧法の成立 - 人道主義的救貧法成立を踏まえて - （イギリス）：救貧法の「人道主義化」、新救貧法	
5) 民間社会福祉の形成と展開 - 慈善組織協会とセツルメント - （イギリス）：慈善組織協会（Charity Organisation Society：COS）とセツルメント（Settlement）	
6) 社会主義の台頭（と貧困調査）（イギリス）：ユートピア社会主義、『進歩と貧困』とマルクス社会主義、フェビアン社会主義	
7) 「救貧法並びに貧困救済に関する王立委員会」の設立（イギリス）：王立委員会の設立の背景と目的、『多数派報告』と『少数派報告』	
8) 社会立法の動向 - 自由改良主義の意味 - （イギリス）：社会立法成立過程における国民保険法、失業問題と公的扶助の成立	
9) サッチャー政権時代の社会福祉と新自由主義（イギリス）：サッチャー政権の特徴、サッチャリズムの思想基盤	
10) コミュニティ・ケアを中心とした社会福祉改革（イギリス）：ソーシャルワークとコミュニティ・ケア、コミュニティ・ケアの展開	
11) ブレア政権の社会福祉（イギリス）：ニュー・レイバーの登場、ブレア首相の改革	授業内レポート
12) 社会事業前史（幕末以降を中心に）（日本）：慈善救済、明治初期の貧困救済	
13) 社会事業と厚生事業 - 民間活動を含めて - （日本）：社会事業の成立と厚生事業期、明治期の民間活動	
14) 戦後、社会福祉の成立と展開（日本）：占領期の社会福祉と福祉見直し、社会福祉の実践思想、社会福祉改革の動向	
15) イギリスと日本における社会福祉史の比較分析と今後の課題：イギリスの社会福祉史の概要と日本の社会福祉史の概要と比較分析	授業内レポート
授業外学習	
授業計画を確認して、各授業内容に該当するテキストの章を読んで、予習をしておいてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト ・『社会福祉のあゆみ』、金子光一著、有斐閣、2,000円＋税 ・授業時間の配布資料	社会福祉士、精神保健福祉、介護福祉士試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	社会福祉行財政論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	西田 隆		関連する資格	社会福祉士受験資格 精神保健福祉士受験資格			
授業概要 国及び地方自治体の福祉行財政と福祉計画について理解する。 社会福祉を担う行政機関としての国及び地方自治体、専門職、地域住民の役割等を考察することによって、社会福祉を支える制度枠組みである福祉行財政論と福祉計画の全体像を理解する。							
到達目標 ナンバリング(A3407cd) 1. 社会福祉行政の実施機関の役割と機能について理解する。 2. 社会福祉の財源について理解する。 3. 社会福祉計画の目的・法令について理解する。 4. 実際の計画を参考に、社会福祉計画の策定について理解する。			成績評価方法 授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験により、総合的に評価。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	社会福祉行財政の基礎知識 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
2)	社会福祉制度の歴史 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
3)	社会福祉法 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
4)	社会福祉法 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
5)	社会福祉行政 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
6)	社会福祉財政 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
7)	社会福祉行政の機関と専門職 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
8)	社会福祉行政のまとめ 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト レポート
9)	福祉計画の目的と意義 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
10)	福祉計画の技法 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
11)	高齢者福祉関係の計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
12)	障害者福祉関係の計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
13)	児童福祉関係の計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
14)	地域福祉計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
15)	演習 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト グループワーク
授業外学習		
新聞やニュースなどで、関連する報道がないかチェックして、それについて考察してください。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
配布資料		

課題に対するフィードバック

レポートは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	福祉施設運営論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	吉久 浩之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 福祉サービスにおける組織や団体について学んだうえで、その管理運営について理解を深める。また、関連する法制度や福祉サービスの動向と課題についても概説する。 社会福祉施設管理者・社会福祉法人理事及び特定非営利活動法人理事の実務経験をもとに、各法人形態・施設形態について運営・経営面での授業を行う。							
到達目標 ナンバリング(A3408c) 1. 福祉サービスに係る組織や団体について理解する。 2. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 3. 福祉サービス提供組織の経営と運営管理、またその方法と実際について理解する。			成績評価方法 福祉サービスの組織・団体について列挙し組織経営（P D C A等を含む）の基礎を解読するとともに、実践についても認識をすること。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 福祉サービスの特質 【予習】テキストP2～P11までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
2) 福祉サービスと制度 【予習】テキストP12～P17までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
3) 福祉サービスにかかわる組織・団体 【予習】テキストP20～P32までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
4) 社会福祉法人・特定非営利活動法人 【予習】テキストP33～P62までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
5) 医療法人・営利法人など 【予習】テキストP63～P75までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	小テスト
6) 経営戦略・事業計画 【予習】テキストP78～P92までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
7) 集団力学・リーダーシップ理論 【予習】テキストP93～P119までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	グループワーク
8) サービスの質について 【予習】テキストP122～P152までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
9) リスクマネジメント 【予習】テキストP153～P174までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	グループワーク
10) 人事・労務管理 【予習】テキストP176～P203までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
11) 人材育成 【予習】テキストP204～P222までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
12) 社会福祉法人の会計 【予習】テキストP224～P256までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	グループワーク
13) 情報管理と戦略的広報 【予習】テキストP258～P276までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
14) 総括・まとめ 【予習】全体を通じて重要指摘事項について再読（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
15) 総括・まとめ 【予習】全体を通じて重要指摘事項について再読（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『福祉サービスの組織と経営』中央法規	社会福祉関係各法に基づく科目 社会福祉援助技術現場実習指導 、 、 、

課題に対するフィードバック

小テストについては、翌週ポイント解説いたします。
尚、社会福祉士国家試験過去問について講義途中で解説いたします。

備考

科目名	高齢者福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	三輪 直之、溝田 順子	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

高齢者の相談援助活動において必要となる介護保険制度および介護について理解する。
この授業は、教員（三輪、溝田）の保健・福祉現場での実務経験をもとに、高齢者支援についての授業を展開する。

到達目標

A2404c
相談援助活動において必要となる介護保険制度について理解する。
介護の概念や対象及びその理念等について理解する。
介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。
終末期ケアのあり方（人間観や倫理を含む）について理解する。

成績評価方法

定期試験、小テスト、小レポート、授業態度により評価する

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 介護保険法（導入の背景）（三輪） 【復習】小レポート作成（30分）、小テスト準備（30分）	小レポート
2) 介護保険法（法・制度の概要）（三輪） 【予習】テキストp121～123を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
3) 介護保険法（組織及び団体の役割と実態）（三輪） 【予習】テキストp139～141を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
4) 介護保険法（要介護認定、要支援認定）（三輪） 【予習】テキストp123～127を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
5) 介護保険法（保険給付とサービス、介護報酬）（三輪） 【予習】テキストp127～137を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
6) 介護保険法（介護保険法における専門職の役割と実態）（三輪） 【予習】テキストp144～152を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
7) 介護保険法（高齢者介護施策の課題）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）	小テスト
8) 介護の目的論（介護の概念・対象・目的・機能・役割）（溝田） 【予習】テキストp86～91を熟読する（30分）【復習】小レポート作成（30分）、 小テスト準備（30分）	小レポート作成
9) 介護の歴史的発展過程と政策、連携に必要な福祉関連法規（溝田） 【予習】テキストp82～84を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
10) 介護の歴史的発展過程と政策、連携に必要な医療関連法規（溝田） 【予習】テキストp84～86を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
11) 介護の特質（生活支援・介護の原則・介護倫理）（溝田） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
12) 介護と住環境（介護対象者の生活の場）（溝田） 【予習】テキストp101～106を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
13) 介護過程（溝田） 【予習】テキストp91～98を熟読する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	小レポート作成 宿題
14) 認知症ケアと終末期ケア（認知症に関する制度とケア、終末期の心身の状況）（溝田） 【予習】テキストp106～117を熟読する（30分）【復習】小テスト準備（30分）	小テスト 宿題
15) 介護予防（健康づくり施策を含む）（溝田） 【予習】国民衛生の動向第3篇を読んでおく（30分）	小テスト
授業外学習	
<p>次回の予告をするので、テキストの該当範囲を読んでおくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：MINERVA社会福祉士養成テキストブック11、高齢者 に対する支援と介護保険制度、ミネルヴァ書房 ・参考書：国民衛生の動向、厚生労働統計協会 	高齢者福祉論

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。
小テストは、採点して次回返却する。ただし、7) 15) は、日時を設定し後日返却する。

備考

科目名	児童・家庭福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	水田 和江	関連する資格	社会福祉士受験資格 高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

「児童・家庭福祉論」で学習した知識をふまえて、児童とその家族が抱える問題について、現状の資料収集と分析を行い、問題解決に向けての提案ができるように、支援過程を修得する。また、問題を抱える児童・家庭の支援のあり方について事例を通して検討し、社会福祉士としての役割について知る。また、社会福祉士の専門性を理解したうえで、他の専門職との具体的な連携を構築できるようになる。

(この講義では、地域の保護者からの育児相談や教育相談、障害児への学習支援の実践をもとに、援助方法や地域連携の在り方について授業を行う)

到達目標

ナンバリング(A2405cr)

1. 児童・家庭福祉問題の現状とその背景、児童・家庭をとりまく社会環境等の状況、福祉サービスの支援体制の充実などについて理解を深める。
2. 公私のサービス、社会資源について理解し、それぞれの社会的役割とその現状、連携のあり方について理解する。
3. 問題を抱える児童・家庭の事例について分析し、支援方法を予測する。
4. 児童・家庭に対する相談援助活動のあり方について予測する。

成績評価方法

期末定期試験、レポート、授業中でのグループ学習とプレゼンテーションの総合評価とする。
定期試験については、2/3以上の出席を条件とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○			○		20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 「児童・家庭福祉」の振り返り-要保護児童の現状と課題- 【予習】教科書p.10～p.13を読む（10分）【復習】要養護児童が抱える問題について現状を知る（20分）	授業の振り返りとまとめ
2) 現代の児童・家庭福祉の課題（1）-児童家庭福祉に関わる専門職とその役割- 【予習】教科書p61～p.69を読む（10分）【復習】児童福祉施設の福祉・心理系の専門職員の役割とをまとめる（20分）	授業の振り返りとまとめ 個人ワーク
3) 現代の児童・家庭福祉の課題（2）-子どもの貧困と児童家庭福祉施策-ペアワークの課題設定 【予習】ペアの課題選択（10分）【復習】要養護児童の資料収集（30分）	授業の振り返りとまとめ ペアワーク
4) 現代の児童・家庭福祉の課題（3）-少年非行の現状と支援体制- 【予習】ペアワークの課題設定と資料収集（30分）【復習】資料の整理（30分）	授業の振り返りとまとめ ペアワーク
5) 課題に関する資料整理と要保護児童への支援体制の課題（まとめ） 【予習】課題について追加資料の収集（30分）【復習】各自の課題の資料の再整理（30分）	グループでの課題のとりまとめ プレゼン原稿作成
6) プレゼンテーション(1)発表と質疑応答 【予習】プレゼンテーション用資料作成（20分）【復習】発表に関するコメントを各自でまとめる（20分）	プレゼンテーション（グループで） 授業外小レポート
7) プレゼンテーション(2)発表と質疑応答 【予習】プレゼンテーション用資料作成（20分）【復習】発表を参考に各自レポートを作成（30分）	プレゼンテーション（グループで） 授業外小レポート
8) 児童・家庭の援助技術の基礎 - 社会的養護の支援原則の振り返り - 【予習】教科書p.70～p.81を読む（10分）【復習】社会的養護の展開過程のなかでの原則についてまとめる（20分）	授業の振り返りとまとめ
9) 児童・家庭の援助技術の基礎 - 社会的養護の展開：家族への支援 - 【予習】教科書p49～p.59を読む（10分）【復習】社会的養護の実施体制についてまとめる（20分）	授業の振り返りとまとめ
10) 児童・家庭の援助技術の基礎 - 福祉・教育・医療、一貫した支援の必要性 - 【予習】教科書p.89～p.91を読む（10分）【復習】継続的支援の現状と課題についてまとめる（20分）	授業の振り返りとまとめ
11) 児童・家庭への援助活動 - 要保護児童の事例検討 - 【予習】教科書p.120～p.127を読む（10分）【復習】教科書p.124の演習課題を各自でまとめる（20分）	ペアワーク 授業の振り返りとまとめ
12) 児童・家庭への援助活動 - 生活施設入所児の事例検討 - 【予習】教科書p.136～p.143を読む（10分）【復習】教科書p140の演習課題を各自でまとめる（20分）	ペアワーク 授業の振り返りとまとめ
13) 児童・家庭への援助活動 - 心理治療を必要とする児童の事例検討 - 【予習】教科書p.144～p.151を読む（10分）【復習】教科書p149の演習課題を各自でまとめる（20分）	プレゼンテーション 授業の振り返りとまとめ
14) 地域の専門機関の連携と支援環境の整備 【予習】教科書p.162～p.173を読む（10分）【復習】教科書p165の演習課題を各自でまとめる（20分）	プレゼンテーション 授業の振り返りとまとめ
15) 児童家庭福祉の今後の課題 【予習】児童福祉の関係専門職について整理する（10分）【復習】教科書p32～37を参考に、今後の課題についてレポートを作成する（30分）	授業の振り返りとまとめ 授業外レポート
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題の発見と適切な資料・文献の収集を行う。 ・グループ討議に参加できるように、自分の意見をまとめておく。 	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト；中野菜穂子他編『社会的養護の理念と実践 第2版』（株）みらい 参考書；保育福祉小六法編集委員会編、『保育福祉小六法』（株）みらい	児童・家庭福祉論 社会福祉援助技術演習

課題に対するフィードバック

- 各授業の終了時に、学生に「授業の振り返り」（授業内容のポイント、学習したこと、質問）を提出させ、それをもとに、理解の不十分な点を補足、質問への回答、参考資料の提示を行う。
- 提出された小レポートへはコメントを付けて返却し、復習の際の課題を明確にする。

備考

科目名	公的扶助論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	梅木 幹司	関連する資格	社会福祉士、精神保健福祉士	

授業概要

本講義では、わが国の公的扶助制度を中心的に担う生活保護制度について、その役割や仕組みを理解する。また、近年の貧困や低所得者についての現状を理解し、彼らへのソーシャルワーク実践に必要な知識を修得することを目的とする。

到達目標

ナンバリング(A3409cd)

公的扶助制度の概念および社会保障における位置づけを理解し説明することができる。
 公的扶助制度の現在に至るまでの歴史的変遷を理解し説明することができる。
 貧困問題について興味や関心を持ち、生活困窮者に対してストレングスや権利擁護の視点に基づいた支援を考えることができる。
 ソーシャルワーク実践に必要な公的扶助制度における知識を修得することができる。
 生活困窮者が存在する社会的背景を理解し、マクロの視点で考察することができる。

成績評価方法

毎回、前回の授業内容についての小テストを実施する。小テスト、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)				○			50
小テスト、授業内レポート			○				30
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○	○	○		5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 貧困問題とソーシャルワーク：初回ガイダンス。近年の貧困問題や、それに対するソーシャルワークの役割を概説する。【予習】新聞記事等から近年の貧困問題を調べる。(30分)【復習】本日の授業内容の復習(30分)	授業内レポート
2) 公的扶助制度の概念について：公的扶助制度の概念や社会保障制度におけるその位置づけを概説する。【予習】教科書のP1～15を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
3) 貧困・低所得者問題について：貧困・低所得者の定義やそれらを取り巻く社会情勢と生活課題を概説する。【予習】教科書のP18～33を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
4) 公的扶助の歴史的展開(海外編)：イギリスやアメリカの社会保障制度や貧困対策の歴史について概説する。【予習】教科書のP36～43を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
5) 公的扶助の歴史的展開(日本編)：わが国の社会保障制度の発展過程や貧困対策の歴史について概説する。【予習】教科書のP44～62を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
6) 生活保護制度：生活保護制度の基本原則について概説する。【予習】教科書のP64～74を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
7) 生活保護制度：保護の種類とその内容および生活保護基準について概説する。【予習】教科書のP75～91、P106～135を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
8) 生活保護制度：受給中の権利および義務について概説する。【予習】教科書のP92～104を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
9) 生活保護制度：実施体制と関係機関・団体の役割について概説する。【予習】教科書のP206～221を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
10) 生活保護制度：相談援助活動の実際について事例等を用いて概説する。【予習】教科書のP224～252を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
11) 生活保護制度：生活保護の動向と課題について統計資料等を通じて概説する。【予習】教科書のP138～162を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
12) 低所得者対策：生活困窮者自立支援法と社会手当制度などについて概説する。【予習】教科書のP164～186を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
13) 低所得者対策：ホームレス対策等について概説する。【予習】教科書のP187～203を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
14) 自立支援プログラム：自立支援プログラムの意義と実際について概説する。【予習】教科書のP254～272を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
15) 貧困問題におけるソーシャルワーカーの今後の役割：本講義の全体のまとめと専門職として貧困問題にどのように取り組むべきかを検討する。【復習】今回の講義内容を含む全体の内容についての復習(60分)	小テスト グループワーク
授業外学習	
<p>毎回授業内で小テストを実施するため、前回の授業についてはしっかりと復習をしてください。また、各回の授業については、教科書を一読することにより予習をしてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・『低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版』（新・社会福祉士養成講座16）、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、2,200円＋税 ・授業時間の配付資料 	社会福祉士、精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目、社会福祉史

課題に対するフィードバック

小テストは、授業を実施した日の翌週にその内容分を実施し、そのまた翌週に解説を行います。1つの单元について、講義、小テスト、解説を3週にわたって行うことで知識の定着を図ります。

備考

- ・講義内容によっては、視聴覚教材を用いる時があります。
- ・履修するにあたっては、専門職を目指す者としての態度と自覚をもって臨んでください。

科目名	就労支援サービス論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	梶谷 紀幸	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

労働施策の概要や労働法規を踏まえ、障害者の就労支援を中心としつつ、低所得者や高齢者の就労支援についても理解を深める。また、国家試験の傾向と対策を通じて、これらをより確実に身につける。それらをもって、学生が就労支援の職に就いた際、相手の立場になって話を聞き、辛さや困難さ、現実とのギャップを察することができ、効率良く相手が納得する支援が可能になることを目指す。講師の就労移行支援及び就労継続支援 B 型事業におけるサービス管理責任者及び管理者、障害者就業・生活支援センターにおける相談員としての活動の経験をもとに、就労支援について授業を行う。

到達目標

ナンバリング (A3410c)

- ・ 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
- ・ 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
- ・ 就労支援分野との連携について理解する。
- ・ 事例を通じて、相談者のニーズに充足する支援方法を想像できる能力を養う。

成績評価方法

試験結果及び授業態度（意欲、態度、復習の程度）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							5
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、労働を取り巻く状況 【復習】授業内容再確認 20分	
2) 福祉的就労の種類と現状 【復習】授業資料再確認 20分	
3) 障害者就業・生活支援センターの機能 【復習】授業資料再確認 20分	
4) 障害者職業センターとハローワーク 【復習】授業資料再確認 20分 【予習】事例に対する支援方法検討 60分	
5) モデルケースを用いた支援の演習 【復習】授業資料再確認 20分	プレゼンテーション ディスカッション
6) 就労支援制度の概要（関係法規とその他の支援制度） 【復習】授業資料再確認 20分 【予習】事例に対する支援方法検討 60分	
7) モデルケースを用いた支援の演習 【復習】授業資料再確認 20分 【予習】事例に対する支援方法検討 60分	プレゼンテーション ディスカッション
8) まとめ、国家試験の傾向	振り返り
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>似たような制度ばかり出てきます。何がどう違うのか、授業で配布する資料にしっかりと目を通し、それぞれの違いを理解するよう努めましょう。また、事例を通して支援方法を検討していきます。予習の段階で自分なりの考えをまとめておかないと授業になりません。自分なりの意見をもって授業に臨んでください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：適宜、プリントを配布する。 参考図書：「必携社会福祉士」筒井書房 「社会福祉士国家試験 模擬問題集2019」中央法規</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ・低所得者に対する支援と生活保護制度

課題に対するフィードバック

授業でのプレゼンテーション及びディスカッションの中で、補足及び助言をしていく。

備考

科目名	司法福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	朴 元奎	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

更生保護領域を中心に、司法領域における福祉の役割と制度、この制度に係る専門職・組織・団体、相談支援活動のあり方と実際について学ぶ。

到達目標

ナンバリング(A3411c)

1. 更生保護領域を中心に、司法福祉領域における制度とこれら制度を支える組織・団体・専門職についての知見を得ることができる。
2. 更生保護領域を中心に、司法福祉領域における相談援助活動を行うための知見を得ることができる。
3. 更生保護領域を中心に、司法領域にある関係機関や専門職等との連携のあり方を理解することができる。

成績評価方法

定期（期末）試験（70％）レポート（20％）及び受講態度（10％）で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート		○					10
宿題、授業外レポート		○					10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス 更生保護概説 「1 刑事司法のなかの更生保護」 【予習】教科書 第1章第1節 2-14頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答、レポート
2) 更生保護概説 「2 仮釈放等」 【予習】教科書 第1章第2節 15-22頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答
3) 更生保護概説 「3 保護観察」 【予習】教科書 第1章第3節 23-36頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答
4) 更生保護概説 「4 生活環境の調整」「5更生緊急保護」 【予習】教科書 第1章第4節、第5節 37-49頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答
5) 更生保護概説 「6 更生保護における犯罪被害者等施策」「7恩赦」「8 犯罪予防活動」 【予習】教科書 第1章第6節、第7節、第8節 50-60頁（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
6) 更生保護制度の担い手「1 保護観察官」 【予習】教科書 第2章第1節 62-63頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
7) 更生保護制度の担い手「2 保護司」 【予習】教科書 第2章第1節 65-67頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
8) 更生保護制度の担い手「3 更生保護施設」「4 民間協力者」 【予習】教科書 第2章第3節、第4節 68-76頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
9) 更生保護制度における関係機関・団体との連携（1） 【予習】教科書92-101頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
10) 更生保護制度における関係機関・団体との連携（2） 【予習】教科書 92-101頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
11) 医療観察制度の概要（1） 【予習】教科書 第4章 104-110頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、フィールド・スタディ
12) 医療観察制度の概要（2） 【予習】教科書 第4章第4節、第5節 111-115頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
13) 更生保護の実際と今後の展望 「1 保護観察官の業務の実際」 【予習】教科書 第5章第1節 118- 129 頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
14) 更生保護の実際と今後の展望「2 社会復帰調整官の業務の実際」 【予習】教科書 第5章第2節 130-135頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
15) 更生保護の実際と今後の展望「3 更生保護の今後の展望」 【予習】教科書 第5章第3節 136-144頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
授業外学習	
<p>毎回、授業内容に関連した教科書の指定された箇所を事前に読んでくること。授業後は授業の内容について重要なポイントになった点、疑問点などをノートなどを作成し、授業内容の知識の定着と、その理解を図ること。疑問点などについては必要に応じて担当教員に積極的に質問することが望ましい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】 『新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第4版』（中央法規、2017）。 【参考書】 藤本哲也その他編『よくわかる更生保護』（ミネルヴァ書房、2016）、松本勝編『更生保護入門【第4版】』（成文堂、2015）</p>	<p>法学、犯罪心理学</p>

課題に対するフィードバック

レポートは次回の授業時にコメントをつけて返す。

備考

オフィスアワー；非常勤講師による集中講義であるため、毎授業終了後に教員控室において質問・相談に応じます。

科目名	社会福祉援助技術演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	2	2年	後期
担当者名	三輪 直之、山根 千絵	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

相談援助に必要な各技法を、具体的な事例やロールプレイ等を活用し、個別・集団活動を通して修得する。
この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助の技法使用についての実践的授業を展開する。

到達目標

A2406c
学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

成績評価方法

レポート、個人・グループ学習、演習の振り返りシートによる総合評価を行う。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							60	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 相談援助における演習の意義・目的・方法 講義（三輪、山根）	
2) 相談援助における演習の意義・目的・方法 講義（三輪）	
3) 利用者理解（自己理解、自己覚知）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3)4)で1セット	個人ワーク
4) 利用者理解（自己理解、自己覚知）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3)4)で1セット	個人ワーク
5) 利用者理解（自己理解、自己覚知）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 5)6)で1セット	ペアワーク グループワーク
6) 利用者理解（自己理解、自己覚知）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 5)6)で1セット、小レポートの作成（30分）	ペアワーク グループワーク 小レポート
7) 利用者理解（他者理解）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7)8)で1セット	グループワーク
8) 利用者理解（他者理解）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7)8)で1セット	グループワーク
9) 利用者理解（他者理解）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 9)10)で1セット	グループワーク
10) 利用者理解（他者理解）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 9)10)で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
11) 対人コミュニケーションの基本（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11)～14)で1セット	ペアワーク
12) 対人コミュニケーションの基本（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11)～14)で1セット	ペアワーク
13) 対人コミュニケーションの基本（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11)～14)で1セット	グループワーク
14) 対人コミュニケーションの基本（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11)～14)で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
15) 人を取り巻く社会関係・構造（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15)～18)で1セット	グループワーク
16) 人を取り巻く社会関係・構造（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15)～18)で1セット	グループワーク
17) 人を取り巻く社会関係・構造（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15)～18)で1セット	グループワーク
18) 人を取り巻く社会関係・構造（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15)～18)で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
19) 個人への援助の基本（児童養護施設の例）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19)～22)で1セット	グループワーク
20) 個人への援助の基本（児童養護施設の例）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19)～22)で1セット	グループワーク

21) 個人への援助の基本(児童養護施設の例)(山根) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 19)~22)で1セット	グループワーク 小レポート
22) 個人への援助の基本(児童養護施設の例)(山根) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 19)~22)で1セット、小レポートの作成(30分)	グループワーク 小レポート
23) 個人への援助の基本(高齢者施設の例)(三輪) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 23)~26)で1セット	グループワーク
24) 個人への援助の基本(高齢者施設の例)(三輪) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 23)~26)で1セット	グループワーク
25) 個人への援助の基本(高齢者施設の例)(三輪) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 23)~26)で1セット	グループワーク 小レポート
26) 個人への援助の基本(高齢者施設の例)(三輪) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 23)~26)で1セット、小レポートの作成(30分)	グループワーク 小レポート
27) 個人への援助の基本(障害児・者施設の例)(山根) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 27)~30)で1セット	グループワーク
28) 個人への援助の基本(障害児・者施設の例)(山根) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 27)~30)で1セット	グループワーク
29) 個人への援助の基本(障害児・者施設の例)(山根) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 27)~30)で1セット	グループワーク 小レポート
30) 個人への援助の基本(障害児・者施設の例)(山根) 【予習】事前配布した資料を熟読する(30分)【復習】演習課題について検討する(30分) 27)~30)で1セット、小レポートの作成(30分)	グループワーク 小レポート

授業外学習

8)、16)、20)、24)、28)の後に、グループワークの課題について考え・意見をまとめ、次回のグループワークで発言できるようにしておいて下さい。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料を配布する。	社会福祉援助技術演習

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし、最終回分は、別途日時を設定して返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	2	3年	前期			
担当者名	三輪 直之、山根 千絵		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 技法の習得を具体的な事例やロールプレイ等を活用しつつ、個別・集団指導を通して演習を行う。 ケーススタディに関しては具体的な相談援助事例（社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレス、危機介入、権利擁護等）を活用し、ケースマネジメントの過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）及びアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発を含む演習を行う。 この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助の技法使用についての実践的授業を展開する。							
到達目標 A3412c 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。			成績評価方法 レポート、個人・グループ学習、演習の振り返りシートによる総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							60
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 面接と専門的援助的態度（方法と留意点）講義（三輪、山根）	
2) 面接と専門的援助的態度（方法と留意点）講義（三輪、山根）	
3) コミュニケーション・面接の実際（ロールプレイ）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット	ペアワーク
4) コミュニケーション・面接の実際（ロールプレイ、振り返り）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット	ペアワーク グループワーク
5) コミュニケーション・面接の実際（グループワーク）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット	グループワーク
6) コミュニケーション・面接の実際（グループワーク、振り返り）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
7) コミュニケーション・面接と対人関係（ロールプレイ）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット	ペアワーク
8) コミュニケーション・面接と対人関係（ロールプレイ、振り返り）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット	ペアワーク グループワーク
9) コミュニケーション・面接と対人関係（グループワーク）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット	グループワーク
10) コミュニケーション・面接と対人関係（グループワーク、振り返り）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
11) 児童・家庭福祉のケーススタディ（虐待、家庭内暴力を含む）（方法と留意点）（山根）【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット	グループワーク
12) 児童・家庭福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット	グループワーク
13) 児童・家庭福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット	ペアワーク グループワーク
14) 児童・家庭福祉のケーススタディ（発表と指導）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
15) 身体障害者福祉のケーススタディ（自立、社会参加を含む）（方法と留意点）（山根）【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット	グループワーク
16) 身体障害者福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット	グループワーク
17) 身体障害者福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット	ペアワーク グループワーク
18) 身体障害者福祉のケーススタディ（発表と指導）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク
19) 知的障害者福祉のケーススタディ（権利擁護、社会参加を含む）（方法と留意点）（山根）【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット	グループワーク
20) 知的障害者福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット	グループワーク

21)	知的障害者福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット	ペアワーク グループワーク
22)	知的障害者福祉のケーススタディ（発表と指導）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
23)	高齢者福祉のケーススタディ（虐待、権利擁護を含む）（方法と留意点）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット	グループワーク
24)	高齢者福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット	グループワーク
25)	高齢者福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット	ペアワーク グループワーク
26)	高齢者福祉のケーススタディ（発表と指導）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
27)	低所得者・ホームレスのケーススタディ（社会的排除問題を含む）（方法と留意点）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット	グループワーク
28)	低所得者・ホームレスのケーススタディ（事例発表と質疑応答）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット	グループワーク
29)	低所得者・ホームレスのケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット	ペアワーク グループワーク
30)	低所得者・ホームレスのケーススタディ（発表と指導）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート

授業外学習

4)、8)、12)、16)、20)24)、28)の後に、グループワークの課題について考え・意見をまとめ、次回のグループワークで発言できるようにしておく。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料を配布する。	社会福祉援助技術演習

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし、最終回のみ別途日時を設定して返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	三輪 直之、山根 千絵	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

具体的な事例等を活用しつつ、個別・集団指導を通して演習を行うことにより、相談援助に必要な各技法を修得する。この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助の技法使用についての実践的授業を展開する。

到達目標

A3413c

学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

成績評価方法

レポート、個人・グループ学習、演習の振り返りシートによる総合評価を行う。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							60
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) マッピング技法（ジェノグラム、ファミリーマップの概説と作成演習）（山根） 【復習】演習課題について検討する（30分） 1）～2）で1セット	個人ワーク
2) マッピング技法（エコマップの概説と作成演習）（山根） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
3) ロールプレイの技法（ ・ の復習と新たな方法）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～4）で1セット	ペアワーク
4) ロールプレイの技法（ ・ の復習と新たな方法）（山根） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	ペアワーク グループワーク 小レポート
5) 記録の技法（講義と個別作成演習）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 5）～6）で1セット	個人ワーク
6) 企画書の作成技法（講義と個別作成演習）（三輪） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
7) 社会福祉調査と地域診断（アウトリーチとニーズ把握）（ケーススタディ）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～8）で1セット	個人ワーク グループワーク
8) 社会福祉調査と地域診断（アウトリーチとニーズ把握）（ケーススタディ）（三輪） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
9) 地域福祉計画（課題のグループ作成）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
10) ネットワーキング（課題のグループ作成）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 10）～11）で1セット	グループワーク
11) ネットワーキング（課題のグループ作成）（山根） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
12) 社会資源の活用・調整・開発（課題のグループ作成）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 12）～13）で1セット	グループワーク
13) 社会資源の活用・調整・開発（課題のグループ作成）（山根） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
14) サービス評価（課題のグループ作成）（三輪） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 14）～15）で1セット	グループワーク
15) サービス評価（課題のグループ作成）（三輪） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
授業外学習	
課題について、通常の予復習とは別に、授業外で作成し、報告してもらうものがある（授業時に指示する）。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料を配布する。	社会福祉援助技術演習 ・

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし最終回分については日時を設定し返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	三輪 直之、山根 千絵	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

本科目は、「社会福祉援助技術現場実習」の最初の事前指導にあたる科目である。
 社会福祉施設・機関の職員の講演や、講演を聴講するにあたってのグループでの課題の下調べを通して、社会福祉施設・機関の基礎的な理解と相談援助実習の目的・意義を理解し、現場実習に向けた動機付けを行う。
 この授業は、教員（三輪、山根）および特別講師の社会福祉現場での実務経験をもとに、実習への動機づけについての授業を展開する。

到達目標

A2407c
 社会福祉施設の法的な目的と役割を理解する。
 社会福祉専門職の役割を理解する。
 社会福祉施設・機関の利用者を理解する。
 相談援助実習の目的・意義を理解し、現場実習への動機付けを行う。

成績評価方法

講演ごとのレポート提出、グループ学習（下調べ）による総合評価を行う。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習の目的・意義、授業の方針と概要（講義）（三輪、山根） 【復習】日程、内容の確認（30分）	
2) 社会福祉施設・機関の理解（講義）（山根） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】下調べ項目の確認（20分）	
3) グループワーク(下調べ)の方法（山根） 講演 の下調べの指示と準備 【予習】下調べ項目の確認（20分）【復習】グループでの下調べ（90分）	グループワーク
4) 講演 - 障害者施設の理解1（山根、特別講師） 【予習】下調べ内容を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
5) 講演 の振り返り（三輪、山根） 講演 の下調べの指示と準備 【予習】下調べ項目の確認（20分）【復習】グループでの下調べ（90分）	グループワーク
6) 講演 - 障害者施設の理解2（三輪、特別講師） 【予習】下調べ内容を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
7) 講演 の振り返り（三輪） 講演 の下調べの指示と準備 【予習】下調べ項目の確認（20分）【復習】グループでの下調べ（90分）	グループワーク
8) 講演 - 高齢者施設の理解（三輪、特別講師） 【予習】下調べ内容を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
9) 講演 の振り返り（三輪、山根） 講演 の下調べの指示と準備 【予習】下調べ項目の確認（20分）【復習】グループでの下調べ（90分）	グループワーク
10) 講演 - 児童福祉施設の理解（山根、特別講師） 【予習】下調べ内容を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
11) 講演 の振り返り（山根） 講演 の下調べの指示と準備 【予習】下調べ項目の確認（20分）【復習】グループでの下調べ（90分）	グループワーク
12) 講演 - 社会福祉機関(児童相談所)の理解（山根、特別講師） 【予習】下調べ内容を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
13) 講演 の振り返り（三輪、山根） 講演 の下調べの指示と準備 【予習】下調べ項目の確認（20分）【復習】グループでの下調べ（90分）	グループワーク
14) 講演 - 社会福祉機関(社会福祉協議会)の理解（三輪、特別講師） 【予習】下調べ内容を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
15) 講演 の振り返り、全体のまとめ（三輪、山根）	グループワーク
授業外学習	
各講演の前週末までにグループで指示した課題についての下調べをすること。 講演後、小レポートを各自作成のこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
社会福祉援助技術現場実習の手引き（本学刊） 参考書 厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向』（最新版）	社会福祉援助技術現場実習指導・・・、 社会福祉援助技術現場実習

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	2年	後期			
担当者名	三輪 直之、山根 千絵		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 本科目では、さらに「現場実習に向けた動機付け」を深化させる。社会福祉施設・機関における現場体験学習及び見学実習に参加することで、実習先で必要とされる相談援助に係る知識・技術を具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を習得する。また相談援助に関連する介護・保育等の関連業務に関する基本的な理解も深め、さらなる知識・理解の向上を目指す。この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験をもとに、実習理解と実習遂行方法に関する授業を展開する。							
到達目標 A2408c 社会福祉施設・機関の理解を深める。 相談援助専門職の専門性について理解を深める。 相談援助専門職の職業倫理について理解を深める。 相談援助専門職に必要とされる知識・技術を体験し、実践的に理解を深める。 相談援助に関連する介護・保育等の業務について理解を深める。			成績評価方法 施設見学レポート提出、グループ学習による総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション - 現場体験実習及び施設見学を行う意義 - (三輪、山根) 【復習】授業内容の振り返り(30分)	
2) 現場体験実習及び施設見学に臨む姿勢・態度、指導方法(三輪、山根) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】授業内容の振り返り(30分)	
3) 相談援助に関連する業務 - 保育(山根) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】授業内容の振り返り(30分)	グループワーク
4) 相談援助に関連する業務 - 介護(三輪) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】授業内容の振り返り(30分)	グループワーク
5) 実習施設を取り巻く環境(他施設・事業者・機関や地域社会)とのかかわり(山根) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】授業内容の振り返り(30分)	
6) 現場体験実習及び施設見学 の下調べと準備(山根) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】見学施設の下調べ(60分)	グループワーク
7) 現場体験実習および施設見学 - 児童福祉施設(山根) 【予習】下調べ内容の熟読(30分)【復習】見学内容の振り返り(60分)	施設見学
8) 現場体験実習および施設見学 の振り返りと体験実習(見学実習)報告会(三輪、山根) 【予習】プレゼンテーションの準備(90分)【復習】小レポート(30分)	グループワーク プレゼンテーション 小レポート
9) 現場体験実習及び施設見学 の下調べと準備(三輪) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】見学施設の下調べ(60分)	グループワーク
10) 現場体験実習および施設見学 - 高齢者施設(三輪) 【予習】下調べ内容の熟読(30分)【復習】見学内容の振り返り(60分)	施設見学
11) 現場体験実習および施設見学 の振り返りと体験実習(見学実習)報告会(三輪、山根) 【予習】プレゼンテーションの準備(90分)【復習】小レポート(30分)	グループワーク プレゼンテーション 小レポート
12) 現場体験実習及び施設見学 の下調べと準備(山根) 【予習】資料の熟読(30分)【復習】見学施設の下調べ(60分)	グループワーク
13) 現場体験実習および施設見学 - 障害児・者施設(山根) 【予習】下調べ内容の熟読(30分)【復習】見学内容の振り返り(60分)	施設見学
14) 現場体験実習および施設見学 の振り返りと体験実習(見学実習)報告会(三輪、山根) 【予習】プレゼンテーションの準備(90分)【復習】小レポート(30分)	グループワーク プレゼンテーション 小レポート
15) まとめ(三輪、山根) 【復習】小レポート(30分)	小レポート
授業外学習	
学外見学までにグループで指示した課題についての下調べをすること。 施設見学後、レポートを各自およびグループで作成のこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 社会福祉援助技術現場実習の手引き(本学刊) 参考書 厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向』(最新版)	社会福祉援助技術現場実習指導・・・、社会福祉援助技術現場実習 すべての社会福祉実習に必要な科目

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし、14) 15) は日時を設定して返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	前期			
担当者名	三輪 直之、山根 千絵		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 本科目は「社会福祉援助技術現場実習」の事前指導にあたる。現場実習直前の指導として 実習施設・機関の理解、福祉施設・機関の利用者の理解を中心として学習を深め、実習計画書を作成する。 また、「実習記録ノート」の記録内容及び記録方法についても学び、記録を取るの意味やより良い記録方法について学ぶ。さらに「個人のプライバシーの保護」や「守秘義務」等の実習生として求められる姿勢・価値観・心構えについても学ぶ。 この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験をもとに、実習理解と実習準備に関する授業を展開する。							
到達目標 A3414c 実習生としての姿勢・価値観・心構えを学び、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 「個人のプライバシーの保護」「守秘義務」「信用失墜行為の禁止」などの相談援助専門職として大切な価値観を習得する。 「実習記録ノートを書くこと」の意味を理解し、より良い記録をするための、記録内容及び記録方法について学ぶ。			成績評価方法 個人票、実習計画書の提出、グループ学習による総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	オリエンテーション - 社会福祉援助技術現場実習にむけてのイントロダクション（三輪） 【復習】実習および実習までのスケジュールの確認（20分）	
2)	社会福祉援助技術現場実習の目的と意義 - 実習の目的と達成課題、実習及び実習指導における個別指導と集団指導の意義（山根） 【予習】実習のてびき（コピー）の熟読（30分）【復習】各種書類の確認（30分）	
3)	実習生の義務と心得 - 相談援助専門職が培っていくべき態度（三輪） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	
4)	実習生の義務と心得 - プライバシーの保護と守秘義務（山根） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	
5)	記録 - 記録をする意味、より良い記録内容と記録方法（山根） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	個人ワーク
6)	配属告知、個人票等の書類作成 - 実習計画および実習指導計画書作成の概説（三輪） 【予習】各種書類の確認（30分）【復習】個人票の作成（90分）	個人ワーク
7)	実習計画および実習計画書作成 - 昨年度に現場実習を行った先輩方の実習体験を聴き、アドバイスを得る（質疑応答あり）（三輪、山根、実習を経験した上級生） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
8)	実習計画および実習計画書作成 - 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議、巡回指導の概説（三輪、山根、実習指導者） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	個人ワーク
9)	実習計画および実習計画書作成 個別指導（三輪、山根） 【予習】個人票、実習計画書の作成（90分）【復習】個人票、実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
10)	実習計画および実習計画書作成 個別指導（三輪、山根） 【予習】個人票、実習計画書の作成（90分）【復習】個人票、実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
11)	実習計画および実習計画書作成 個別指導（三輪、山根） 【予習】実習計画書の作成（90分）【復習】実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
12)	実習計画および実習計画書作成 個別指導（三輪、山根） 【予習】実習計画書の作成（90分）【復習】実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
13)	実習計画および実習計画書作成 個別指導（三輪、山根） 【予習】実習計画書の作成（90分）【復習】実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
14)	実習スーパービジョンの概説（三輪） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	
15)	現場実習指導者によるパネルディスカッション - 求められる社会福祉実習生像（現場実習指導者との懇談）（三輪、山根、特別講師） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
授業外学習		
実習の個人票、実習計画書については、各自、授業外時間に作成すること。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
		社会福祉援助技術現場実習指導 ・ ・ ・ 社会福祉援助技術現場実習 すべての社会福祉実習に必要な科目

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし、15)は日時を設定して返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	後期			
担当者名	三輪 直之、山根 千絵		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 本科目は「社会福祉援助技術現場実習」の事後指導とまとめにあたる。現場実習で学んだ「社会福祉援助技術現場実習」で取り上げた実習テーマ、社会福祉現場の実情、利用者の置かれている状況、相談援助専門職の業務内容、利用者への相談援助の姿勢・態度、相談援助の基盤となる倫理・価値・援助観などを、実習記録や実習体験を踏まえて深化させ、自己が抱える専門的な課題や自分自身の固有の課題を明確化し、「社会福祉援助技術現場実習」の総まとめを行う。実習報告書の作成と実習報告会での実習報告を行う。 この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験をもとに、実習の振り返りに関する授業を展開する。							
到達目標 A3415c 参加した現場実習を振り返ることで、自己覚知を行う。 参加した現場実習を振り返ることで、改めて社会福祉施設・機関の役割、相談援助専門職の役割・心構え、相談援助の知識・技術を理解する。 記録の仕方、プレゼンテーションの方法を学び、相手を意識した読み易い実習報告書の作成と分かりやすい実習報告を行う。			成績評価方法 実習習報告書、プレゼンテーション、個別学習、グループ学習による総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習の振り返り（個人別振り返りシートの作成）（三輪、山根） 【復習】個人別振り返りシートの作成（90分）	個人ワーク
2) 実習の振り返り（個人別振り返りシートの作成、発表準備）（三輪、山根） 【予習】個人別振り返りシートの作成（90分）【復習】個人別振り返りシートの修正（90分）	個人ワーク
3) 実習報告 個人による実習報告と討論（三輪、山根） 【予習】報告準備（60分）	プレゼンテーション グループワーク
4) 実習の振り返り（実習先種別振り返りシートの作成）（三輪、山根） 【予習】実習先種別振り返りシートの作成（90分）【復習】実習先種別振り返りシートの修正（90分）	グループワーク
5) 実習の振り返り（実習先種別振り返りシートの作成）と実習報告 - 実習報告会(実習の評価全体総括会)に向けてのプレ報告会 -（三輪、山根） 【予習】報告準備（60分）	プレゼンテーション
6) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】プレゼン案の作成（90分）【復習】プレゼン案の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
7) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】プレゼン案の修正（90分）【復習】プレゼン案の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
8) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】スライドの作成（90分）【復習】スライドの修正（90分）	個人ワーク グループワーク
9) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】スライドの修正（90分）【復習】スライドの修正（90分）	個人ワーク グループワーク
10) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】実習報告書の作成（120分）【復習】実習報告書の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
11) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】実習報告書の修正（90分）【復習】実習報告書の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
12) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】実習報告書の修正（90分）【復習】実習報告書の清書（90分）	個人ワーク グループワーク
13) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】スライドの修正（90分）【復習】スライドの修正（90分）	個人ワーク グループワーク
14) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク（三輪、山根） 【予習】スライドの修正（90分）【復習】報告練習（90分）	個人ワーク グループワーク
15) 実習報告会(実習の評価全体総括会)（三輪、山根） 【予習】報告練習（90分）	プレゼンテーション
授業外学習	
実習報告書の作成および実習報告会の準備については、授業外時間も活用して行うこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 社会福祉援助技術現場実習の手引き（本学刊） 参考書 厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向』（最新版）	社会福祉援助技術現場実習指導・・・、 社会福祉援助技術現場実習 すべての社会福祉実習に必要な科目

課題に対するフィードバック

実習報告書および実習報告会のスライドについては、毎回、作成内容を確認しつつ指導する。

備考

科目名		社会福祉援助技術現場実習					
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	4	3年	後期			
担当者名	三輪 直之、山根 千絵		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 本科目は社会福祉専門職養成に向けての実習科目である。 社会福祉士及び介護福祉士法に規定される施設・事業者・機関・団体等（以下施設等）で180時間以上の実習を行う。 実習期間が長期にわたるので、実習生は実習テーマを持って実習に臨む。また、実習前指導の科目である、社会福祉援助技術現場実習指導・・・を修了していること等を履修要件とする。 この授業は、教員（三輪、山根）の社会福祉現場での実務経験と、実習指導者の実務経験と実習指導者講習会の受講経験をもとに、実習を遂行する。							
到達目標 A3416c 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ 实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 実習における体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し、体系だてることができるようになる。			成績評価方法 実習施設等による評価、実習日誌、実習施設で求められた課題、実習事後総括などによる総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>（三輪、山根、実習指導者） 1）～15）原則夏季休暇中に、本学が指定する施設等において23日以上、総時間数180時間以上の実習を行う。なお、複数の施設等において実習を行う事も可能であるが、その場合、そのうちの1施設等の実習時間が120時間を越えることを要件とする。</p> <p>学生は、実習中実習指導者および教員の連携のもと、次に掲げる事項についての指導を得るものとする。</p> <p>利用者やその関係者、施設等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成。</p> <p>利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成。</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価。</p> <p>他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際。</p> <p>社会福祉士としての職業倫理、施設等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解。</p> <p>施設等の経営やサービスの管理運営の実際。</p> <p>当該実習先が地域社会の中の施設等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 実習に際して大学および担当教員により以下の事項を行う。</p> <p>実習に際して、必要な健康診断等を実施し、学生が良好な健康状態であることを確認する。</p> <p>実習先の決定に際して、事前に希望票の作成および個別面談を行い、実施および巡回指導可能な施設等を勧案する。</p> <p>実習日誌等の記録物の記入方法については、社会福祉援助技術現場実習指導 において指導する。</p> <p>【予習】日々の実習目標を立てて実習に臨む（30分）1）～15） 【復習】日々の実習を振り返り、実習日誌を作成する（120分）1）～15） 実習終盤に総括票を作成する（120分）</p>	
授業外学習	
<p>日々の実習日誌の作成は実習時間外に行い、翌朝必ず実習指導者に提出すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 社会福祉援助技術現場実習の手引き（本学刊）他、実習先で作成される資料等を使用する。</p>	<p>社会福祉援助技術現場実習指導 . . .</p>

課題に対するフィードバック

実習の進捗状況の確認と指導が、実習指導者により毎日行われる。
教員による巡回指導が、週1回行われる。
実習の遂行状況により、帰校指導を行うことがある。

備考

科目名	医療ソーシャルワーク論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	堂本 祐三子	関連する資格		

授業概要

実践力あるソーシャルワーカーになるための知識と技術、価値に基づく、社会福祉の専門家としてのスタンスを習得する。医療ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を学び、医療ソーシャルワーク実践の在り方を考察する。
 医療ソーシャルワーカーは様々な背景と困難をもつクライアントと向き合うが、ソーシャルワーカーにはその背景や困難を想像し、見抜く力量が求められる。その力を培うため、当講義では毎回現在の社会問題について問題意識や意見を発表する時間を確保する。
 また担当教員は、現在医療現場での実務を実践しており、現場の実際なども織り交ぜて講義を行う。

到達目標

ナンバリング(A3417m)

ソーシャルワーカーの視点や立ち位置を明確にし、地域や医療のチームの中での役割を理解する。

成績評価方法

総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 健康の社会的決定要因（１） （予習）社会的な問題について考察する。（20分） （復習）テキストを復習（30分）	プレゼンテーション
2) 健康の社会的決定要因（２） （予習）社会的な問題について考察する。（20分） （復習）テキストを復習（30分）	プレゼンテーション
3) 健康の社会的決定要因（３） （予習）社会的な問題について考察する。（20分） （復習）テキストを復習（30分）	プレゼンテーション
4) 健康の社会的決定要因（４） （予習）社会的な問題について考察する。（20分） （復習）テキストを復習（30分）	プレゼンテーション
5) 健康の社会的決定要因（５） （予習）社会的な問題について考察する。（20分） （復習）テキストを復習（30分）	プレゼンテーション
6) 保険医療をめぐる諸問題（1） （予習）社会的な問題について考察する（20分） （復習）まとめのプリント作成（10分）	プレゼンテーション
7) 保険医療をめぐる諸問題（２） （予習）社会的な問題について考察する（20分） （復習）まとめのプリント作成（10分）	プレゼンテーション
8) 医療と福祉（１） （予習）社会的な問題について考察する（20分） （復習）まとめのプリント作成（10分）	プレゼンテーション
9) 医療と福祉（２） （予習）社会的な問題について考察する（20分） （復習）まとめのプリント作成（10分）	プレゼンテーション
10) 価値と倫理（１） （予習）社会的な問題について考察する（20分） （復習）まとめのプリント作成[10分]	プレゼンテーション
11) 保健医療をめぐる社会保障(1) （予習）社会的な問題について考察する(20分） （復習）まとめのプリント作成（10分）	プレゼンテーション
12) 保健医療をめぐる社会保障(2) （予習）社会的な問題について考察する(20分） （復習）まとめのプリント作成（10分）	プレゼンテーション
13) 社会資源の活用 （予習）社会的な問題について考察する(20分） （復習）まとめのプリント作成[10分]	プレゼンテーション
14) 医療ソーシャルワークの実際 （予習）社会的な問題について考察する(20分） （復習）これまで学んできたことについてレポート作成（60分）	プレゼンテーション
15) 医療ソーシャルワーク論のまとめ - 総括 -	プレゼンテーション グループワーク
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
マイケルモーマット健康格差 不平等な世界への挑戦 日本評論社	社会福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

レポートはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	スクールソーシャルワーク論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	岩金 俊充		関連する資格	宇部フロンティア大学 スクールソーシャルワーカー教育課程修了認定証			
授業概要 現代の学校現場は、不登校、いじめ、非行などの問題行動や保護者とのトラブル等を抱え、一方、家庭では、貧困、虐待、家庭内暴力、DV、地域社会からの孤立等を抱えている。これら多様化・複雑化・高度化した問題は、子どもの健全な成長を妨げ、子どもの未来や可能性を失わせる大きな要因となっている。 本講義では、具体的実践事例を踏まえて、学校現場や家庭における子どもたちの現状や問題を把握し、スクールソーシャルワーカーとしてどのような価値観と具体的支援技術をもってすれば、子どもの最善の利益と生活の質の向上が実現できるのかについて学ぶ。 中学校教員、知的障害者施設での支援員、スクールソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、スクールソーシャルワークの価値と理論、具体的支援についての授業を行う。							
到達目標 ナンバリング(A3418sr) ・スクールソーシャルワークの歴史・動向、理論を理解する。 ・スクールソーシャルワークの意義と役割を説明できる。 ・スクールソーシャルワーカーと教職員、他の専門職との連携について説明できる。 ・スクールソーシャルワーカーが、多問題を抱える家庭へどのような価値とスキルを持って支援していくかを理解する。 ・ペアレントトレーニングの技法を学ぶことで、課題を抱える子どもや保護者に対して、どのような「言葉がけ」「ほめ方」「叱り方」「接し方」が効果的であるかを知る。			成績評価方法 出席率、授業への意欲、プレゼンテーション、定期試験等を総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) スクールソーシャルワーカーの価値・歴史・定義 【予習】テキスト「第1章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	
2) スクールソーシャルワーカー活用事業と展望、役割と責任 【予習】テキスト「第2章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション
3) スクールソーシャルワークと環境の相互作用・エコマップ 【予習】テキスト「第3章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション
4) スクールソーシャルワークの相談援助技術 ・マクロ・メゾ・ミクロ 【予習】テキスト「第4章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション
5) スクールソーシャルワークの相談援助技術 ・介入技術 【予習】テキスト「第5章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	プレゼンテーション
6) スクールソーシャルワークの相談援助技術 ・SV、事業評価、マニュアル 【予習】テキスト「第6章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
7) 子ども支援に関わる専門職との連携・教育・心理・行政・施設・司法・他 【予習】テキスト「第7章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
8) スクールソーシャルワークに関わる法律・制度と諸問題・権利擁護、倫理 【予習】テキスト「第10章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
9) スクールソーシャルワークの具体的実践 ・支援者や機関との連携 【予習】テキスト「第11章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
10) スクールソーシャルワークの具体的実践 ・いじめ問題と修復定期対話 【予習】テキスト「第5章第2節5」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（ロールプレイ）
11) スクールソーシャルワークの具体的実践 ・学校と保護者間のトラブル 【予習】「モンスターペアレント」について調べる（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（ロールプレイ）
12) スクールソーシャルワークの具体的実践 ・子どもの様々な問題行動 【予習】「非行」「ひきこもり」について調べる（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	グループディスカッション
13) スクールソーシャルワークの具体的実践 ・ペアレント・トレーニング 【予習】「ペアレントトレーニング」について調べる（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（ロールプレイ）
14) スクールソーシャルワークの具体的実践 ・ペアレントトレーニング・演習 【予習】テーマ別の「子どもへの声掛け場面」をイメージする（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（ロールプレイ）
15) スクールソーシャルワーク・事例から考察・演習 【予習】テキスト「第5章2節4」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて次回提出（30分）	演習（模擬ケース会議）
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読して来てください。</p> <p>授業で配布した子どもに関する複数の新聞記事から各自が一つテーマを選択して、翌週の授業でプレゼンテーション及びディスカッションを行います。講義資料とテキストを復習し、関係する情報の収集と資料を作成して発表に臨んでください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『スクールソーシャルワーク実践技術』北大路書房 毎回資料を配布し講義する。	社会福祉士国家試験受験資格に関する科目、 精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

例：小レポート（配布資料を読んだの考察）は翌週コメントをつけて返す

備考

授業への意欲や態度を重視します。

科目名	医療福祉実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

医療ソーシャルワーク分野の実習として、一般総合病院・リハビリテーション病院などの現場における利用者や実習指導者との関わりのなかで、医療ソーシャルワーカーとしての視点や価値、ソーシャルワークについて学習することを目的としている。

到達目標

ナンバリング(A4401m)

- ・医療ソーシャルワーカーとしての視点や価値を理解する。
- ・医療現場におけるソーシャルワークを理解する。
- ・医療ソーシャルワーカーの全体像を理解する。

成績評価方法

レポート及び演習、医療福祉実習の評価などで総合的に評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習							90	

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1)	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>実習事前の準備として、医療機関における利用者、病のプロセスとソーシャルワーカーの役割、医療機関の現場について学習しておいてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、指示する。	医療ソーシャルワーク論、 社会福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	精神疾患とその治療						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	4	2年	後期			
担当者名	稲野 靖枝		関連する資格	精神保健福祉士受験資格 公認心理師受験資格			
授業概要 日本における精神科医療の歴史を踏まえ、代表的な精神疾患とその治療及びリハビリテーションについて理解を深める。また、支援のあり方、連携について、各専門職の立場から事例などを通し、臨床的理解を進めるとともに各役割について理解する。							
到達目標 ナンバリング(A2409ad) ・代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 ・精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 ・各専門職が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 ・精神医療・福祉との連携の重要性と、各専門職がその際に担うべき役割について理解する。			成績評価方法 課題レポート、試験				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							5
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) はじめに 精神医学と精神医学、精神医学の歴史	
2) 精神医学の概念、精神疾患の原因と分類	ロールプレイ、グループワーク
3) 精神疾患の診断の手順と方法	グループワーク
4) 精神症状と状態像	
5) 精神症状と状態像 【予習】6)～10)について(60分)	
6) 精神疾患における検査 精神現象の生物学的基礎と身体的検査 【復習】1)～5)について(30分)	
7) 精神疾患における検査 心理検査	
8) 精神疾患の治療 -身体療法(電気けいれん療法、経頭蓋磁気刺激療法)	
9) 精神疾患の治療 -精神科薬物療法(薬剤による心身の変化)	DVD
10) 精神疾患の治療 -精神療法 【予習】11)～15)について(60分)	
11) 精神疾患の治療 -精神療法 【復習】6)～10)について(30分)	
12) 精神疾患の治療 -精神科リハビリテーション(精神科デイケア、SST、心理教育、家族への支援)	DVD、ロールプレイ
13) 脳の構造、代表的な精神疾患-症状性および器質性精神疾患(認知症)	
14) 代表的な精神疾患 症状性および器質性精神疾患(症状性精神障害)	
15) 代表的な精神疾患-物質関連障害および嗜癖性障害 【予習】16)～20)について(60分)	
16) 代表的な精神疾患 統合失調症 【復習】11)～15)について(30分)	
17) 代表的な精神疾患 統合失調症	ロールプレイ
18) 代表的な精神疾患 気分障害	DVD、グループワーク
19) 代表的な精神疾患 気分障害	
20) 代表的な精神疾患 神経症性障害およびストレス関連障害 【予習】21)～25)について(60分)	

21) 代表的な精神疾患 摂食障害など 【復習】16)～20)について(30分)	
22) 代表的な精神疾患-人格障害など	
23) 代表的な精神疾患-知的発達症	
24) 代表的な精神疾患-心理発達の障害(自閉症スペクトラム症など)	
25) 代表的な精神疾患-注意欠陥多動性障害、てんかんなど 【予習】26)～30)について(60分)	DVD、グループワーク
26) 精神科医療機関の治療構造 入院医療、外来診療、在宅医療 【復習】21)～25)について(30分)	
27) 精神科治療における人権擁護 (日本における精神医療の歴史、関連する法律と制度を踏まえて)精神科治療と入院形態、インフォームドコンセント、隔離、拘束のあり方、精神科救急医療システムとその対象、移送制度による入院など	
28) 精神医療におけるチーム医療と専門職の役割 報告、連絡、相談、カンファレンス等	
29) 精神医療と福祉及び関係機関との間における連携の重要性 治療への導入に向けた支援、再発予防のための支援、退院促進の支援(ACTなど)、医療観察法対象患者の支援	DVDなど
30) まとめ 【復習】26)～29)について(30分)	

授業外学習

テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：精神保健福祉士養成セミナー 『精神医学 精神疾患とその治療 第6版』へるす出版	人体の構造と機能および疾病 ・ 精神保健の課題と支援 精神保健福祉援助実習指導 ・ ・ 精神保健福祉援助実習 ・ ・

課題に対するフィードバック

備考

科目名		精神保健の課題と支援					
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	4	2年	前期			
担当者名	蔵本 満敦、宮崎 博子		関連する資格	精神保健福祉士受験資格 スクールソーシャルワーカー教育課程 修了認定（社会福祉士養成課程）			
授業概要 <p>近年、精神保健をめぐる課題はさまざまな方面へ広がりを見せている。本科目では、心の健康についての基本的考え方と精神保健学、精神保健の諸課題と精神保健福祉士の役割について学ぶ。さらには、関係機関や関係職種との連携について学ぶ。また、諸外国の精神保健活動だけでなく、山口県や宇部市の取組みについても理解する。</p> <p>宮崎は、保健師及び精神保健福祉士としての実務経験をもとに、アルコール・ギャンブル等の依存に関する問題、発達障害者の支援、災害被災者・犯罪被害者の精神保健についての授業を行う。</p> <p>蔵本は、児童福祉司や精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、上記以外の授業を担当する。</p>							
到達目標 A2410ds ・心の健康についての基本的考え方を理解する。 ・精神保健の視点からみた家族の課題、学校教育の課題、勤労者の課題、現代社会の新たな課題について説明できる。 ・それらの課題に係る対策と精神保健福祉士の役割について説明できる。 ・地域精神保健の諸活動や関係職種との連携について理解する。			成績評価方法 レポート、試験の結果により総合的に判断する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神保健の概要と歴史（蔵本）	
2) 社会構造の変化と新しい健康観（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
3) ライフサイクルと精神保健（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
4) ライフサイクルと精神保健（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
5) ストレスや生活習慣と精神保健（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
6) 危機のプロセスと予防の概念（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
7) 国・自治体・団体等の役割と連携、専門職種と多職種連携（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
8) 家族の課題とアプローチ - 現代日本の家族の特徴（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
9) 家族の課題とアプローチ - 出産・育児、介護をめぐる精神保健（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
10) 家族の課題とアプローチ - 相談機関と精神保健福祉士の役割（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
11) 家族の課題とアプローチ - 社会的ひきこもりをめぐる精神保健（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
12) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - 社会的ひきこもり（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
13) 学校教育の課題とアプローチ - 現代日本の学校教育の特徴（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
14) 学校教育の課題とアプローチ - 教員および児童生徒の精神保健（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
15) 学校教育の課題とアプローチ - 関係法規、精神保健福祉士の役割（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
16) 勤労者の課題とアプローチ - 日本の労働環境、労働者のメンタルヘルス（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
17) 勤労者の課題とアプローチ - うつ病と過労自殺、心身症と生活習慣病（蔵本） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
18) 勤労者の課題とアプローチ - 問題解決のための機関と関係法規（蔵本） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
19) 勤労者の課題とアプローチ - アルコール・ギャンブル・ネット依存（宮崎） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
20) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - アルコール・薬物等の依存（宮崎） 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート

21) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - 発達障害 (宮崎) 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
22) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - 発達障害 (宮崎) 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
23) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - うつ病と自殺防止 (蔵本) 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
24) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - 認知症高齢者 (蔵本) 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
25) 精神保健対策と精神保健福祉士の役割 - 災害時の精神保健 (宮崎) 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
26) 現代社会の課題とアプローチ - 災害被災者、犯罪被害者の精神保健 (宮崎) 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
27) 現代社会の課題とアプローチ - 性別違和、他文化、緩和ケアと精神保健 (蔵本) 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
28) 諸外国の精神保健活動の現状および対策 (蔵本) 【復習】指示したテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
29) 地域精神保健に関する諸活動 (宮崎) 【予習】配付する資料を読んでおく(20分)	グループワーク
30) 地域精神保健に関する諸活動 (宮崎)	グループワーク

授業外学習

予習は、テキストの該当ページを読んでおくとともに、日頃から精神保健に関連する出来事に関心を持ち、新聞切り抜きなどをしておくこと。
復習は、当日の授業内容に関して教員が指示するテーマについてレポートをA4 1枚程度にまとめ、翌週授業の前日までに提出すること。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援』中央法規 適宜、プリントを配布する。 参考図書：『厚生労働白書』 ぎょうせい、『国民の福祉の動向』厚生統計協会、『国民の衛生の動向』厚生統計協会、『我が国の精神保健福祉』精神保健福祉研究監修)	医学概論 ・ 精神疾患とその治療 精神保健福祉援助実習 ・ ・

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、翌週授業の冒頭で発表する機会をもうけ、発表内容について担当教員がコメントする。

備考

--

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉士が行う相談援助活動の基盤となる理念や倫理、専門職としての役割などについて学ぶとともに、権利擁護の意義と実際について理解する。さらには、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 精神科ソーシャルワーカーや社会福祉士としての実務経験をもとに、精神保健福祉士が行う相談援助活動の基盤及び近年の動向について授業を行う。							
到達目標 A3419d ・精神保健福祉士が行う相談援助の基本的考え方（対象、定義、価値と理念など）を説明できる。 ・精神保健福祉領域で働く専門職とその役割について説明できる。 ・権利擁護の意義と方法について説明できる。 ・精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携について説明できる。			成績評価方法 試験、レポート、授業参加度の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神保健福祉士制度化の歩み 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
2) 精神保健福祉士と社会福祉士 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
3) 相談援助の基本的考え方（1） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
4) 相談援助の基本的考え方（2） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
5) 面接・訪問記録の意義と方法 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
6) 相談援助の価値と理念（1） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
7) 相談援助の価値と理念（2） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
8) 相談援助の形成過程 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
9) 精神保健福祉分野における相談援助 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
10) 精神保健福祉分野における専門職 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
11) 精神障害者の相談援助における権利擁護 【予習】権利擁護にかかわる出来事を調べておく（60分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
12) 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
13) 専門職としての倫理 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
14) 総合的かつ包括的な援助の意義と概要 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート、プレゼンテーション
15) 多職種連携の意義と精神保健福祉士の役割 【予習】テキストの該当ページを読んでおく230分） 【復習】全体を振り返り、理解不十分な箇所を確認しておく（60分）	プレゼンテーション
授業外学習	
<p>予習は、テキストの該当ページに目を通しておくこと。その際、気になったキーワードについて調べたり、質問内容を考えておくことが望ましい。</p> <p>復習は、当日の授業内容に関連して教員が示すテーマについて、レポートをA4で1枚程度にまとめ、翌週の授業の前日までに提出すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉相談援助の基盤』中央法規</p> <p>参考図書：『厚生労働白書』ぎょうせい</p> <p>『国民の福祉の動向』厚生統計協会</p>	<p>相談援助総論</p> <p>精神保健福祉の理論と相談援助の展開 . . .</p> <p>精神保健福祉援助演習 . . .</p> <p>精神保健福祉援助実習 . . .</p>

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、翌週授業の冒頭で発表する機会をもうけ、発表内容について教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	赤瀬 洋介	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本講義では、精神保健福祉学の理論を背景にした具体的な援助に関する方法論を学ぶ。
 特に、精神障害者のおかれている社会的状況をはじめ、人間のこころの理解や援助の視点、精神保健福祉士という専門職として業務遂行にかかわる基礎知識の習得を旨とする。
 相談技術では、グループ学習などを通して、基礎技術の習得を旨とする。

到達目標

ナンバリング(A3420d)

- ・精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について理解する。
- ・精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。

成績評価方法

グループ学習の参加度、小レポート、定期試験などにより評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							25
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 相談援助活動の内容と方法 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
2) 個別支援の実際と事例分析 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
3) 集団を活用した支援の実際と事例分析 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
4) 事例による相談援助活動の検討 「危機介入」 「居住支援」 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	グループ学習
5) 事例による相談援助活動の検討 「就労支援」 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	グループ学習
6) 事例による相談援助活動の検討 「権利擁護」 「医療観察法に基づく支援」 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	グループ学習
7) 精神保健福祉における精神障害者と家族の関係 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
8) 家族支援の方法 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
9) 事例による家族調整・支援の検討 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	グループ学習
10) 地域移行支援の対象と地域移行の体制 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
11) 精神保健福祉士の役割と多職種との連携 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
12) 精神科入院患者の地域移行支援・地域定着支援 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
13) 地域移行にかかわる機関と組織 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	
14) 事例による地域移行支援の検討 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	グループ学習
15) 総括 【予習】これまでとったノートを見返しておくこと（30分）	小レポート
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規 参考図書：適時紹介する。	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神疾患とその治療、精神保健学 臨床心理学

課題に対するフィードバック

小レポートはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	赤瀬 洋介		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本講義では、精神保健福祉学の理論を背景とした具体的な援助に関する方法論を学ぶ。 現在実施されている精神障害者に対する支援体系を理解するとともに、精神障害者援助にかかわる諸技術の習得をめざす。諸技術の習得は、グループ学習などを通して学生が能動的に参加できるようにする。							
到達目標 ナンバリング(A3421d) ・地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。 ・地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。			成績評価方法 ミニレポート、小テスト、グループ学習、定期試験などにより総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							25
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	【
2) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討 「相談支援事業における展開」「居住支援」 教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	【予習】グループ学習
3) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討 「雇用・就労支援の総合的展開」「災害時の支援」 教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	【予習】グループ学習
4) 地域ネットワークとアウトリーチ 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
5) 地域生活支援と訪問援助 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
6) セルフヘルプグループおよび家族会、ボランティアの育成と活用 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
7) 精神障害者のケアマネジメント 教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	【予習】
8) 精神障害者のケアマネジメント 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
9) 事例による精神障害者ケアマネジメントの検討 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	【予習】グループ学習
10) 地域を基盤にした支援とネットワーキング 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
11) 地域を基盤にした支援とネットワーキング 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
12) 事例による地域を基盤にした支援の検討 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	グループ学習
13) 包括的な支援の意義と展開 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
14) 事例による地域生活を支援する包括的な取組みの検討 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	
15) 総括 【予習】これまでとったノートを見返しておくこと（30分）	【予習】小レポート
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規 参考図書：適時紹介する。	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神疾患とその治療、精神保健学 臨床心理学

課題に対するフィードバック

小レポートはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	山本 悟	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神科医療については入院中心のケアから地域ケアへの流れとなり、障害者総合支援法上では、他障害と同様のサービスが受けられるようになった。こうした社会変革を受けて、精神障害を持った人々が、地域で継続して安心して生活を営むことができるように、リハビリテーションの具体的役割と意義について、病院での作業療法実践及び地域での精神保健福祉士としての実務経験を基に実例を通して学び、またその課題について考える。

到達目標

ナンバリング(A3422d)

- ・精神科リハビリテーションの概念を理解し、課題について考察する。
- ・精神科リハビリテーションの対象や方法について説明できる。

成績評価方法

出席を要件とし、レポートおよび期末試験の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	・精神科リハビリテーションの概念 (1)リハビリテーションの歴史	
2)	(2)リハビリテーションの理念、意義と基本原則 【復習】本を読み返す（30分）	
3)	(3)精神科リハビリテーションの概念 【復習】本を読み返す（30分）	
4)	(4)精神科リハビリテーションの理念と意義 【復習】本を読み返す（30分）	
5)	(5)精神科リハビリテーションの基本原則と技法 【復習】本を読み返す（30分）	個人ワーク
6)	・精神科リハビリテーションの構成 (1)精神科リハビリテーションの対象 【復習】本を読み返す（30分）	
7)	(2)精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 【復習】本を読み返す（30分）	
8)	(3)精神科リハビリテーションに関わる専門職との連携 【復習】本を読み返す（30分）	
9)	(4)精神科リハビリテーションの施設 【復習】本を読み返す（30分）	
10)	(5)精神科リハビリテーションの関連領域 【復習】本を読み返す（30分）	
11)	・精神科リハビリテーションのプロセス (1)リハビリテーション計画 【復習】本を読み返す（30分）	
12)	(2)リハビリテーション評価 【復習】本を読み返す（30分）	グループ討議
13)	(3)アプローチの方法 ～医療機関～ 【復習】本を読み返す（30分）	グループ討議
14)	(4)アプローチの方法 ～施設、地域～ 【復習】本を読み返す（30分）	グループ討議
15)	ライフサイクルと精神科リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規		精神保健福祉の理論と相談援助の展開・・・ 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

レポートを出した時は翌週コメントを付けて返す。

備考

小テスト、授業内レポートを実施した場合は成績評価の対象とする。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	4年	前期			
担当者名	山本 悟	関連する資格	精神保健福祉士受験資格				
授業概要 本講義は、リハビリテーションの技法（SST、家族教育プログラム等）やリハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割と関連専門職との連携について学び、実践上の必要事項をより明確なものとし、臨床実地に役立てることを目標とする。特に、精神科リハビリテーションが医療機関・施設・地域で展開されている中で、病院での作業療法実践と地域での精神保健福祉士としての実務経験を基に、精神保健福祉士に求められる役割や視点について学ぶ。							
到達目標 ナンバリング(A4402d) ・精神保健福祉士の現場に対する認識と理解を深め、精神保健福祉士ないし関連職に就職する場合の実際的な諸問題から研修する。 ・精神障害者が地域で安定した生活が送れるよう、役立つすべての関連知識を吸収する。			成績評価方法 出席を要件とし、レポートおよび期末試験の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	・医療機関におけるリハビリテーション (1) 作業療法及びレクリエーション療法	演習
2)	(2) 集団精神療法 【復習】本を読み返す（30分）	
3)	(3) 行動療法 【復習】本を読み返す（30分）	
4)	(4) 認知行動療法と社会技能訓練 【復習】本を読み返す（30分）	
5)	(5) 家族教育プログラム 【復習】本を読み返す（30分）	
6)	(6) デイケア及びナイトケア 【復習】本を読み返す（30分）	
7)	(7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護 【復習】本を読み返す（30分）	
8)	(8) 退院・地域移行支援	
9)	・精神保健福祉士が行うリハビリテーション (1) 集団精神療法、SST、デイケア・ナイトケア、訪問看護、リワーク支援 【復習】本を読み返す（30分）	グループワーク
10)	(2) 地域ネットワーク、ケアマネジメント、自助グループ、家族会、ボランティア養成	
11)	・精神科リハビリテーションの統合化 (1) 地域リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	個人ワーク
12)	(2) 職業リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	
13)	・精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション (1) 精神保健福祉法、障害者基本法 【復習】本を読み返す（30分）	
14)	(2) 障害者プラン、障害者総合支援法 【復習】本を読み返す（30分）	
15)	まとめ	
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規		精神保健福祉の理論と相談援助の展開・・・ 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

レポートを出した時は翌週コメントを付けて返す。

備考

小テスト、授業内レポートを実施した場合は成績評価の対象とする。

科目名	精神障害者の生活支援システム						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉分野では、「入院医療中心から地域生活中心」へと施策の舵が切られて久しい。本科目では、そうした歴史・動向を踏まえながら、精神障害者の特性や地域で生活していく上での課題、また、居住支援・就労支援に関する制度や施策、相談支援活動、精神保健福祉士の役割などについて理解する。 精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、地域における精神障害者の生活支援のあり方について授業を行う。							
到達目標 A2411d ・精神障害の特性を学び、生活のしづらさについて説明できる。 ・精神障害者の居住支援、就労支援に関する各種の制度や施策と相談援助活動について説明できるとともに、相互に関係づけることができる。 ・行政機関の精神保健福祉士の相談援助活動について説明できる。			成績評価方法 試験、レポート、授業参加度の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神障害者の概念 - 法律における障害の定義 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート
2) 精神障害者の概念 - 精神障害者の特性 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
3) 精神障害者の生活の実際 - 生活・就労の状況 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
4) 精神障害者の生活の実際 - 家族の状況 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
5) 精神障害者の生活の実際 - 地域社会と理解促進 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
6) 精神障害者の生活と人権 - 生活支援の概念 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
7) 精神障害者の生活と人権 - 制約、虐待防止 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
8) 精神障害者の居住支援 - 歴史的展開と居住支援制度 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
9) 精神障害者の居住支援 - 居住支援の実際 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
10) 精神障害者の就労支援 - 就労支援制度 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
11) 精神障害者の就労支援 - 就労支援の実際 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
12) 行政における相談援助 - 市町村 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
13) 行政における相談援助 - 都道府県 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
14) 精神障害者の地域生活支援システム - ソーシャルサポートネットワーク 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（40分）	レポート、プレゼンテーション
15) 精神障害者の地域生活支援システム - クライシスケアシステム 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】全体を振り返り、理解不十分な箇所について確認しておく（60分）	プレゼンテーション

授業外学習

予習は、テキストの該当ページに目を通しておくこと。その際、気になったキーワードについて調べたり、質問内容を考えておいたりすることが望ましい。

復習は、当日の授業内容に関連して教員が示すテーマについて、レポートをA4で1枚程度にまとめ、翌週授業の前日までに提出すること。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神障害者の生活支援システム』中央法規 参考図書：『精神保健福祉法詳解』中央法規、『我が国の精神保健福祉』精神保健福祉研究会監修、『これからの精神保健福祉（精神保健福祉士ガイドブック）』へるす出版、『国民の福祉の動向』厚生統計協会、『国民の衛生の動向』厚生統計協会	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、翌週授業の冒頭で発表する機会をもうけ、発表内容について教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	4	3年	前期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士			
授業概要 精神障害者に対する相談援助活動の根拠となる精神保健福祉法、障害者総合支援法の内容を学ぶとともに、関連する更生保護制度や医療観察法における精神保健福祉士の役割、精神障害者の支援にかかわる団体、社会調査の基礎的な知識についても理解する。 精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、精神保健福祉に関する制度や諸活動、精神保健福祉士の役割について授業を行う。							
到達目標 A3423d ・精神障害者の支援に関連する制度、福祉サービスについて説明できる ・精神障害者の支援にかかわる関係機関、施設、団体について説明できる ・更生保護制度と医療観察法における精神保健福祉士の役割について説明できる ・社会資源の開発にかかわる社会調査の概要と活用について説明できる			成績評価方法 試験、レポート、授業参加度の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 最初に - この科目の概要と他の科目との関連について	
2) 最初に - 精神障害者に関する制度とサービスの枠組み 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
3) 精神保健福祉法（１） - 精神病患者監護法から精神衛生法へ 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
4) 精神保健福祉法（２） - 精神衛生法から精神保健法を経て精神保健福祉法へ 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
5) 精神保健福祉法（３） - 法成立の意義とその後の変遷 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
6) 精神保健福祉法（４） - 目的および対象 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
7) 精神保健福祉法（５） - 医療および保護、保健および福祉 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
8) 精神保健福祉法（６） - 精神保健福祉士の役割 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
9) 精神保健福祉の動向 【予習】テキストの該当ページを読むとともに、近年の精神保健福祉にかかわる出来事を調べる（60分）	プレゼンテーション
10) 精神保健福祉にかかわる出来事 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（30分）	レポート
11) 障害者総合支援法（１） - 法成立の背景、障害者基本法との関わり 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
12) 障害者総合支援法（２） - 福祉サービスの概要 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
13) 障害者総合支援法（３） - 福祉サービスの概要 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
14) 障害者総合支援法（４） - 国、都道府県、市町村の制度や事業 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
15) 障害者総合支援法（５） - 個別施策 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
16) 障害者総合支援法（６） - 動向 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
17) 精神障害者に関連する社会保障制度（１） - 医療保険制度の意義と内容 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
18) 精神障害者に関連する社会保障制度（２） - 医療保険制度の意義と内容 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
19) 精神障害者に関連する社会保障制度（３） - 介護保険制度の意義と内容 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	プレゼンテーション
20) 精神障害者に関連する社会保障制度（４） - 経済的支援に関する制度 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート

21) 精神障害者の支援にかかわる社会資源(1) - 行政組織と民間組織 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
22) 精神障害者の支援にかかわる社会資源(2) - インフォーマルサポート 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
23) 更生保護制度と精神保健福祉士(1) - 更生保護制度とその担い手 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
24) 更生保護制度と精神保健福祉士(2) - 司法・医療・福祉の連携 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
25) 医療観察法と精神保健福祉士(1) - 医療観察法の概要 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(20分)	プレゼンテーション
26) 医療観察法と精神保健福祉士(2) - 社会復帰調整官、精神保健参与員の役割 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
27) 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査(1) - 社会調査の意義と方法 【予習】テキストの該当ページを読んでおく(30分)	プレゼンテーション
28) 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査(2) - 社会調査における倫理 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する(60分)	レポート
29) 総括 - 専門職との連携	プレゼンテーション
30) 総括 - 地域住民との協働	

授業外学習

予習は、テキストの該当ページに目を通しておくこと。その際、気になったキーワードについて調べたり、質問内容を考えたりしておくことが望ましい。
復習は、当日の授業内容に関連して教員が示すテーマについて、レポートをA4で1枚程度にまとめて、翌週授業の前日までに提出すること。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規 参考図書は、精神障害者の生活支援システムと同様とする。	精神障害者の生活支援システム 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、翌週授業の冒頭で発表する機会をもうけ、発表内容について教員がコメントする。

備考

--

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉援助演習では、他科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる個別援助技術、集団援助技術、また、地域福祉の基盤整備と開発について、実技や事例を通じて実践的に学ぶ。さらには、そうした技術を専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 演習 ではその基礎的な内容を学ぶ。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士としての実務経験をもとに、実践的な能力の習得をめざして演習を行う。							
到達目標 A3424d ・自己理解を深める。 ・基本的な対人援助技術を習得する。 ・記録の技術を習得する。 ・課題の発見、分析、解決の技術を習得する。 ・集団援助技術を習得する。			成績評価方法 各回の内容理解度やグループワークへの参加度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション及び自己理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
2) 自己理解と自己開示 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
3) 利用者理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
4) 援助関係の形成 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
5) 援助関係の形成 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
6) コミュニケーション技術 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
7) 記録の必要性とその方法 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
8) 記録の必要性とその方法 【予習】プロセス・レコードを作成する（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
9) 個人に対する相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
10) 個人に対する相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
11) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
12) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
13) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
14) 集団援助技術の実際 - 生活技能訓練 【予習】S S Tについて調べる（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク
15) 集団援助技術の実際 - 生活技能訓練 【予習】指示する課題について準備する（30分） 【復習】15回の授業内容を振り返る（60分）	グループワーク
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 ・ 精神保健福祉援助実習 ・ ・

課題に対するフィードバック

復習の課題については、翌週授業の冒頭に確認し担当教員が口頭でコメントする。また、必要に応じて受講者全員で共有する。

備考

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	4年	前期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 演習 では、配属実習（障害福祉サービス事業所等）での体験を振り返り、精神障害者の生活や生活のしづらさについて理解を深め、精神保健福祉援助活動に必要となる個別援助技術、集団援助技術を実践的に習得する。また、次の配属（病院）実習に向けて具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ）や事例研究を行う。さらには、そうした技術を専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を身につける。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士の実務経験をもとに、実践的な能力の習得をめざし演習を行う。							
到達目標 A4403d ・配属実習先での体験を振り返り、援助関係の形成過程や個別支援計画の作成過程について自らの課題を説明できる。 ・精神障害者の生活のしづらさを具体的に説明できる。 ・事例研究を通して相談援助の過程を理解する。 ・次回実習にむけて必要となる個別援助技術、集団援助技術を習得する。			成績評価方法 各回の内容理解度やグループワークへの参加度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習 の振り返り - 援助関係の形成過程・当事者の生活のしづらさなど 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	グループワーク
2) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
3) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
4) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
5) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
6) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
7) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（60分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
8) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
9) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
10) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
11) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
12) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
13) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
14) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
15) チームアプローチの理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分）	プレゼンテーション グループワーク
授業外学習	
予習は、教員が指示するテキストの該当ページあるいは資料を呼んでおくこと。 復習は、教員が示した課題について翌週の授業で発表できるよう準備をしておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規 大谷京子・田中和彦著『失敗ポイントから学ぶ P S W のソーシャルワークアセスメントスキル』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 ・ 精神保健福祉援助実習 ・

課題に対するフィードバック

授業で示した課題については、翌週の授業で発表することとし、それに対し担当教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	4年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 この演習では、配属実習（障害福祉サービス事業所等および精神科病院）での体験を振り返り、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得を図るとともに、様々な支援課題をもつ事例の研究を通じ、専門的かつ実践的な援助技術の習得を図る。さらには、実習での体験や事例研究での学びを専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていく能力を身につける。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士としての実務経験をもとに、実践的な能力の向上をめざした演習を行う。							
到達目標 A4406d ・実習での個別的な体験を専門的な知識・技術と関連づけて説明できる。 ・事例研究を通じてさまざまな支援課題を理解するとともに、相談援助技術について実践できる。			成績評価方法 各回の内容理解度やグループワークへの参加度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							30
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	プレゼンテーション グループワーク
2) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	プレゼンテーション グループワーク
3) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	プレゼンテーション グループワーク
4) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	プレゼンテーション グループワーク
5) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
6) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
7) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
8) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
9) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
10) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
11) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
12) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
13) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
14) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
15) まとめ - 精神保健福祉士としてのアイデンティティ	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
事例研究の内容を整理するというレポートでは、グループワークの中で話題となったことを列挙するとともに、気づきや疑問点を記述すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習

課題に対するフィードバック

レポートについては、翌週授業の冒頭で確認し、担当教員がコメントを加え、受講生全員で共有する。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	3年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本科目は、配属実習の「事前指導」として実施するものであり、精神保健福祉援助実習の意義や目的、実習生としての姿勢などについて理解する。また、精神科病院および障害福祉サービス事業所等の機能と所属する精神保健福祉士の役割を確認するとともに、これまでに学んだ基礎的な知識や技術と実習内容を関連づける。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習の事前指導を行う。

到達目標

A3425d

- ・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- ・自らにとっての精神保健福祉援助実習の目的、課題を明確にする。
- ・実習先となる障害福祉サービス事業所等の事業類型や当該事業所の概要について説明できる。

成績評価方法

授業参加度および内容理解度の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							50
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1) 実習の意義と目的</p> <p>2) 4年生の実習経験談</p> <p>2) 実習における学習課題</p> <p>3) 実習における基本姿勢</p> <p>4) 実習施設・機関の理解（精神科医療機関）</p> <p>5) 実習機関・機関の理解（障害者福祉サービス事業所）</p> <p>6) 精神科病院見学</p> <p>7) 障害福祉サービス事業所等見学</p> <p>8) 社会資源の理解</p> <p>9) 記録の作成</p> <p>10) 実習計画書の作成（実習目的・課題の設定）</p> <p>11) 実習計画書の作成（実習目的・課題の設定）</p> <p>12) 事前訪問の目的・方法・内容</p> <p>13) 職業倫理の遵守と法的責任</p> <p>14) 事故や問題発生時の対応</p> <p>15) 実習のミニ報告会</p> <p>【予習】テキストの該当ページや担当教員が配付した資料を読んでおく。（各回20分）</p> <p>【復習】教員の指示した課題に取り組む。（各回30分）</p>	<p>グループワーク</p>
授業外学習	
<p>次回学習内容について、教員が指示したテキストの該当ページや配付資料を読んでおくこと。授業内容や参考資料をもとに、実習計画書を作成していくことになるが、計画書の作成にあたっては適宜個別に指導を受けること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規</p> <p>精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・</p> <p>精神保健福祉援助実習 ・ ・</p>

課題に対するフィードバック

課題に取り組んだ成果物については、翌週の授業において、受講者全員で共有したのち、担当教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	4年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本科目は、配属実習の「事後指導」として実施するものであり、実習内容を振り返り、達成できたこと、課題として残ったことを明らかにしていく。その過程で、自らが実習で体験したことを精神保健福祉士に求められる基礎的な知識と技術と関連づけながら、実践的な技術として習得する。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習の事後指導を行う。

到達目標

A4405d

- ・精神障害者の生活上の困難や多職種連携について説明できる。
- ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理などについて気づくことができる。
- ・精神保健福祉援助に係る知識・技術について配属実習での体験と関連づけ、具体的に説明できる。

成績評価方法

授業参加度と内容理解度の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							40
プレゼンテーション							30
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
1) 実習の振り返り（援助関係の形成過程についての自己評価） 2) 実習の振り返り（相談援助の実践についての自己評価） 3) 実習の振り返り（相談援助の実践についての自己評価） 4) 実習の振り返り（精神保健福祉士の職務理解についての自己評価） 5) 実習の振り返り（チームアプローチ、他機関連携の理解についての自己評価） 6) 実習の振り返り（実習課題達成度についての自己評価） 7) 実習の振り返り（課題として残ったことの確認） 8) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 9) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 10) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 11) 報告会準備（報告会リハーサル） 12) 実習報告会 13) 実習報告書の作成 14) 実習報告書の作成 15) 実習報告書の作成 【予習】次回授業の課題についてレポートを作成する（60分） 【復習】授業中指摘されたことを踏まえレポートを修正する（30分）	グループワーク プレゼンテーション レポート
授業外学習	
実習中に作成した実習日誌や実習指導者の助言をレポートに反映させるべく読み込んでおくこと。 その一方で、精神保健福祉士としての基礎的な知識や技術を復習すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること	精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習 ・ ・

課題に対するフィードバック

授業の中で、適宜口頭によりフィードバックする。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	3年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神保健福祉援助実習では、講義科目や演習科目と関連づけながら、精神科病院および障害福祉サービス事業所等において210時間以上の実習を行う。

実習では、障害福祉サービス事業所等で「6日間概ね45時間程度」の実習を行う。実習中は、実習先の実習指導者（精神保健福祉士）による指導を受け、専門職としての自覚や職業倫理を身につけるとともに、精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術等を体得する。

精神科ソーシャルワーカーとしての実経験をもとに、実習指導者と連携をとりながら実習を進める。

到達目標

A3426d

- ・利用者や実習先スタッフ、ボランティア等とコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を形成できる。
- ・利用者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。
- ・利用者や実習先スタッフとの関係の中で、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を習得し、自己に求められる課題に気づく。

成績評価方法

実習中（達成度、理解度等）及び巡回時の状況の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>指定する障害福祉サービス事業所等において、6日間概ね45時間程度の実習を行い、次に掲げる項目をできる限り経験する。</p> <p>利用者や実習先スタッフ、ボランティア等とのコミュニケーションを通じて、円滑な人間関係を築くとともに、自らの傾向や課題に気づく。</p> <p>利用者との援助関係を形成していくために、利用者の生活史や生活環境（人間関係を含む）に目を向け、障害からくる生活のしづらさに気づくとともに、ストレングスの視点から利用者理解ができるようになる。</p> <p>実習先においてスタッフの役割や支援のあり方を学び、精神保健福祉士としての業務と職業倫理を身につける。</p> <p>実習での日々の体験を実習日誌に記し、疑問点を積極的に実習指導者（精神保健福祉士）にたずね、大学での学習内容を実践力へと高める。</p> <p>【予習】実習開始までに、実習先の事業形態や事業内容等について調べておく（120分）</p> <p>【復習】実習指導者の指導内容（日誌へのコメント、口頭での助言など）を踏まえ、一日の振り返りをする（毎日60分）</p>	<p>フィールドワーク</p>
授業外学習	
<p>実習開始までに講義科目、演習科目、実習指導などで学んだ内容を復習しておく。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（本学精神保健福祉士養成課程担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること。</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・</p>

課題に対するフィードバック

毎日、実習終了後、実習日誌を記入し、配属実習先の実習指導者の指導を受けることになる。

担当教員による巡回指導の際に、実習状況（課題達成度、理解度等）の振り返りを行う。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	3年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉援助実習は、講義科目や演習科目と関連づけながら、精神科病院および障害福祉サービス事業所等において210時間以上の実習を行う。 実習では、障害福祉サービス事業所で「12日間概ね90時間程度」の実習を行う。実習中は、実習指導者（精神保健福祉士）による指導を受け、専門職としての自覚や職業倫理を身につけるとともに、精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を習得する。							
到達目標 A3427d ・利用者や実習先スタッフ、ボランティア等とコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を形成できる。 ・利用者の生活実態や生活上の課題を把握し、支援計画が作成できる。 ・チームアプローチの実際や、関連分野の専門職や他機関、団体等との連携について説明できる。 ・利用者や実習先スタッフとの関係の中で、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を習得し、自身の課題に気づく。			成績評価方法 実習（達成度、理解度等）及び帰校指導・巡回時の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>本学が指定する障害福祉サービス事業所等において、12日間概ね90時間程度の実習を行い、次に掲げる事項をできる限り経験し、指導を受けるものとする。</p> <p>利用者やその関係者、実習先スタッフ、ボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>利用者理解とその生活ニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメント含む。）とその評価</p> <p>精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>【予習】実習先の事業形態や事業内容、その地域の社会資源などについて調べておく。実習 における自らの課題を確認する（120分）</p> <p>【復習】実習指導者の指導内容（日誌へのコメント、口頭での助言）を踏まえ、一日の振り返りをする（毎日60分）</p>	<p>フィールドワーク</p>
授業外学習	
<p>講義科目、演習科目などで学んだ内容を復習しておく。また、実習 での経験から浮き彫りになった課題を明確にして実習に臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（養成課程担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・ ・</p>

課題に対するフィードバック

毎日、実習終了後、実習日誌を記入し、配属実習先の実習指導者の指導を受けることになる。

担当教員による巡回指導（週1回）や帰校指導の際に、実習状況（課題達成度、理解度等）の振り返りを行う。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神保健福祉援助実習は、精神保健福祉士養成課程における実習科目であり、講義科目や演習科目と関連づけなが、精神科病院および障害福祉サービス事業所において210時間以上の実習を行う。

実習では、本学が指定する精神科病院で「12日間90時間以上」の実習を行う。実習中は、実習指導者（精神保健福祉士）による指導を受け専門職としての自覚や職業倫理を身につけるとともに、精神保健福祉援助に係る具体的かつ実践的な専門的知識・技術を体得する。

到達目標

A4406d

- ・精神科病院における精神障害者やその家族に対する精神科医療やリハビリテーション等の実際について見聞を深め、精神保健福祉士の役割について理解する。
- ・精神科病院における精神保健福祉士として必要な資質、能力、技術（援助関係形成力、アセスメント力、支援計画作成力など）を習得する。

成績評価方法

実習（達成度、理解度等）及び帰校指導・巡回時の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>本学が指定する精神科病院において12日間90時間以上の実習を行う。</p> <p>学生は次に掲げる事項をできるだけ経験し、指導を受けるものとする。</p> <p>入院患者、外来患者およびその家族、実習先病院内の各職種との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>入院時または急性期の患者およびその家族への相談援助</p> <p>退院または地域移行・地域支援に向けた、患者およびその家族への相談援助（個別支援計画の作成を含む）</p> <p>当該病院内の他職種の業務の理解と連携の実際</p> <p>病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>実習指導者からのスーパーバイズ</p> <p>【予習】実習先の事業内容や周囲の社会資源について調べておく。実習における自らの課題について確認する。（120分）</p> <p>【復習】実習指導者の指導内容（日誌へのコメント、口頭での助言）を踏まえ、一日の振り返りを行う。（毎日60分）</p>	<p>フィールドワーク</p>
授業外学習	
<p>これまでに学んだソーシャルワーカーとしての倫理や、精神障害者の相談援助活動に資するサービスや社会資源について復習しておき、また、実習での経験から浮き彫りになった自らの課題を明確にして、実習に役立てること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（養成課程担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること。</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・ ・</p>

課題に対するフィードバック

毎日、実習終了後、実習日誌を記入し、配属実習先の実習指導者の指導を受けることになる。

担当教員による巡回指導（週1回）や帰校指導の際に、実習状況（達成度、理解度等）の振り返りを行う。

備考

科目名	心身機能の理解と生活支援						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	溝田 順子、木元 卓也		関連する資格	高等学校教諭（福祉）一種免許状			
授業概要 様々な生活行動（移動、食事、排泄、清潔、身支度等）と関連する人体構造と機能を理解しながら、根拠に基づいた生活支援を具体的に概説する。 障害の特性に関する基礎的知識や技術を概説する。 高齢者や障害者の心身の状況に対応するための症状別ケアの知識と技術、さらにこれらに関連する専門機関や職種とのあり方を演習する。							
到達目標 ナンバリング(A3428) 人間の身体構造、機能に関連付けて様々な生活行動を理解し説明できる。 。 疾患から引き起こされる障害の基礎的知識、生活の特性を理解し支援方法が説明できる。 健康の維持・増進、予防に関する法制度、障害の状況に対応する連携について系統立てる。			成績評価方法 小レポート、小テスト及び定期試験による総合評価				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 生活支援技術に関連する心身機能と役割と影響(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート(30分)	小レポート 宿題
2) 移動に関連する身体構造と機能(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
3) 移動の機能低下と障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト 宿題
4) 食事に関連する身体構造と機能(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
5) 食事の機能低下と障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
6) 排泄に関連する身体構造と機能(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
7) 排泄の機能低下、障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
8) 入浴・清潔に関連する身体構造と機能、障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
9) 内部障害(心肺・呼吸機能障害)に関連する身体構造と機能、障害が及ぼす影響(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小レポート
10) 内部障害(心肺・呼吸機能障害)に関連する身体構造と機能、障害が及ぼす影響(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テスト
11) 睡眠に関する身体構造と機能、障害に及ぼす影響(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(60分)	小テスト
12) 精神の成長と発達(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(60分)	小レポート
13) 死に対する理解と支援(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(60分)	小レポート
14) 障害の概要-知的障害、発達障害、精神障害-(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート(30分)	小レポート
15) 健康の維持・増進に関する法制度、ICFの概念(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(30分)	小レポート
授業外学習	
2)3)4)5)6)7)8)10)11) 小テストでは、授業中に講義した内容をキーワード中心とした範囲で出題する。 9)12)13)14)15)では、授業内容をもとにレポートにまとめ後日提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
配付資料 <参考書> 社会福祉士養成講座編集委員会、社会福祉士養成講座第1、人体の構造と機能及び疾病、中央法規	人体の構造と機能及び疾病

課題に対するフィードバック

小テストは毎回解答と説明を行う。レポートは翌週にコメントを記して返却する。

備考

科目名	心理学研究法			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

人間の心の働きは直接捉えることができないため、科学的に研究することが非常に難しいが、さまざまな工夫によって巧みに研究されてきた。どのようにして心を研究するのかといった研究法の理解は、心理学の知識の理解を深める上で極めて重要である。本授業では主に講義を通して、心の働きを科学的に研究するための基本的考え方やさまざまな方法について学ぶ。特に心理学研究法では従来の心理学研究に慣れ、科学的な考え方を身につける。また、それぞれの研究法について特徴や他の方法との違いを説明できるようにする。

到達目標

ナンバリング(A2412ab)

心理学の論文を理解し、引用できるようになる。
質的研究と量的研究の方法を理解する。
グループで質的研究を演習で行う。
グループで質問紙調査を演習で行う。

成績評価方法

- ・レポート(40%)
- ・授業態度(15%)
- ・演習他(45%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							15
グループワーク							10
演習							10
実習							10

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) オリエンテーション(研究倫理) 研究への興味の啓発	
2) 研究を始めるにあたって 必要な思考方法を身につける(ブレインストーミング・KJ法)	ブレインストーミング グループワーク
3) 参考文献・資料の収集、読解、活用 復習:自分が興味のある文献を収集し、読み慣れておく(30分)	体験学習
4) 先行研究の活用方法:批判的思考と統合的思考 復習:自分が興味のある文献を収集し、読み慣れておく(30分)	体験学習
5) 研究計画の立て方 復習:実際に自分が興味のある文献を収集し、研究計画を立てる(30分)	体験学習
6) 批判的思考(クリティカルシンキング)を学ぶ 復習:実際に自分が興味のある文献を収集し、読み慣れておく(30分)	体験学習
7) 研究計画の立て方 復習:自分が興味のある文献を収集し、読み慣れておく(30分)	体験学習
8) 文献研究の方法 復習:実際に自分が興味のある文献を収集し、読み慣れておく(30分)	体験学習
9) 質問紙法・面接法・観察法・実験法・質的研究法などの研究方法を理解する 復習:これらの方法が使用された文献を収集し、読み慣れておく(30分)	体験学習
10) 心理統計に関する基礎・活用方法・記述方法を、事例を通して学ぶ 復習:実際にPCでやり方を復習しておく(30分)	
11) 面接法を実際にグループで実施する 復習:授業で終わらなかった作業を済ませて置く(30分)	実習グループワーク
12) 面接法を実施し、質的分析を行う 復習:実施した内容を確認しておく(20分)	グループワーク
13) 面接法による研究のレポートの書き方を学ぶ 復習:レポート課題を仕上げる(30分)	グループワーク
14) 研究計画を実施するためのグループワーク 復習:研究計画を自分で立てる(20分)	グループワーク
15) 総括 予習:授業でわからなかったところ、より学びたい内容をまとめておく(30分)	
授業外学習	
レポートのコメントに関しては次週で学生の提出物から見本を示すと共に、レポートの内容を踏まえて応用課題を実施する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 必要に応じて用意する 【参考書】 村井潤一郎(編) (2012). Progress & Application 心理学研究法 サイエンス社	「心理学研究法」、「心理学実験」 「心理統計学基礎」

課題に対するフィードバック

課題を用いて授業を進めるため、課題の内容が自然にフィードバックされるようにします。

備考

科目名	心理学研究法			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

心理学の研究において、実験法や調査法などいずれの方法を用いる場合でも、得られたデータを適切な方法で統計分析することが不可欠である。本授業では、統計ソフトなどを用いて実際にデータを扱い、心理統計の方法を身につけることを目指す。2,3人でグループを作り、お互いに学び合いながら理解を深める。また、実際に研究倫理を学び、倫理的配慮に基づいた研究を計画する方法を学ぶ。

到達目標

ナンバリング(A3429ab)

データ収集や分析の適切な方法がわかる。
統計ソフトを利用し、実際に心理統計を使えるようになる。
分析の結果を解釈し、記述できる。
倫理的配慮に基づいた研究計画が立てられる。

成績評価方法

- ・レポート(40%)
- ・授業態度(15%)
- ・演習他(45%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							5
グループワーク							20
演習							10
実習							10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	
2) 文献の収集の仕方・まとめ方 復習：実際に文献を追加して要約し、論文に慣れる（30分）	ブレーンストーミング グループワーク
3) 仮説的検定法の考え方 復習：課題を通して考え方を身につける（30分）	実習グループワーク
4) 相関関係の出し方と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
5) カイ二乗検定の方法と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
6) t検定（対応あり）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
7) t検定（対応なし）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
8) 一要因の分散分析（対応あり）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
9) 一要因の分散分析（対応なし）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
10) 二要因の分散分析と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
11) 二要因の分散分析と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
12) 文献における統計的記述の理解 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
13) 統計による心理学研究の拡張 復習：研究計画を完成させる（30分）	実習グループワーク
14) プレゼンテーションについて 復習：プレゼンの内容を修正する（30分）	実習グループワーク
15) まとめ 予習：不明の内容をまとめておき、質問できるようにしておく	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】SPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第2版） 因子分析・共分散構造分析まで 小塩 真司 著 東京図書</p> <p>研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 小塩 真司 著 東京図書</p> <p>【参考書】山田剛史・村井潤一郎（2004）. よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房</p>	<p>「心理学研究法」, 「心理統計学基礎」, 「心理学実験」</p>

課題に対するフィードバック

レポートに関して次週以降にお互いに書いた内容を紹介し合い、全員で理解を深める。

備考

科目名	心理学統計法			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

心理学でよく利用される t 検定および分散分析について具体的な事例を用いながら説明。はじめに、実験、調査を行った後に論文にまとめるための具体的流れおよびデータの尺度と処理方法について説明。その後、データ分析および検定方法全般にわたる共通項について説明、t 検定および分散分析の具体的な事例を説明。また、相関・予測の分析についても言及。最後に、因子分析、重回帰式および名義尺度データの処理を概説。グループ討議を設定。自分の意見を主張し、積極的に参加する。

到達目標

A3203ab
種々の検定法の特徴をつかみ、実際に検定を行う。また、相関・予測の分析手法を理解する。

成績評価方法

毎回配布する質問・感想カードの内容、レポート、グループ討議の態度、定期試験から総合評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実験、調査の方法、尺度の判定 予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；統計学で学んだ部分をもう一度、読み込む（30分）。	
2) t 検定のフローチャート 予習；統計学で学んだ該当部分を読み込む（30分）。復習；該当部分をもう一度、読み込む（30分）。	
3) 通常の t 検定・ウェルチの法による t 検定 予習；t 検定の新たな部分について読み込む（30分）。復習；t 検定の全体をまとめておく（30分）。	
4) グループ討議 予習、復習はここまでの単元について、グループで確認して各自で疑問点を解決するための時間として活用する。（1時間）。	グループ討議と要点の確認
5) 分散分析の概要・数値変換 予習；分散分析の全体を概観する（30分）。復習；t 検定と分散分析の違う点を整理しておく（30分）。	
6) 実験計画法と分散分析 予習；実験計画と分散分析の関係について概観する（30分）。復習；分散分析の手順を確認する（30分）。	
7) 被験者間計画・被験者内計画・混合計画 予習；被験者間・被験者内の違いを概観する（30分）。復習；手順を確認する（30分）。	
8) 一要因の分散分析 予習；分散分析の基本を確認する（30分）。復習；手順を確認する（30分）。	
9) 二要因の分散分析 予習；二要因の分散分析の概要を確認する（30分）。復習、手順を確認する（30分）。	
10) 三要因の分散分析と演習（パソコン室） 予習；三要因の複雑さを確認する（30分）。復習；ソフトの使い方をもう一度、読み込む（30分）。	
11) グループ討議とレポートの作成準備 予習、復習は、グループ討議を通じてここまでの疑問点を解決して、レポートを作成するための時間として有効に使う（1時間）。	グループ討議と要点の確認、レポートの作成
12) 相関・予測の分析の概要 予習；統計学の該当部分をもう一度、読み込む（30分）。復習；該当部分をもう一度、読み込む（30分）。	レポートの提出
13) 三変数以上の相関・予測の分析、因子分析 予習；統計学の該当部分をもう一度、読み込む（30分）。復習；該当部分をもう一度、読み込む（30分）。	
14) 重相関係数、重回帰式、名義尺度データの処理 予習；統計学の該当部分読み込む（30分）。復習；該当部分をもう一度、読み込む（30分）。	
15) まとめと グループ討議 予習、復習は全体を通じてグループで討議して、疑問点を解決する時間に当てる（1時間）。	グループ討議と要点の確認
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読。 講義資料を復習する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しません。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。	統計学、心理学実験、心理学研究法

課題に対するフィードバック

毎回の授業後に提出する質問・感想カードの解答などを、次回の講義の始めに説明する。レポート提出後に、誤り、問題点を指摘したのちに、返却する。総評する。

備考

科目名	心理検査法						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	3年	後期			
担当者名	榎本 俊哉		関連する資格	認定心理士			
授業概要 臨床心理にかかわる者にとって、心理的アセスメントは重要な臨床活動の一つである。特に検査道具を用い構造化された心理検査は、客観的・科学的な人間理解のための有効な手段となりうる。また臨床の場において心理検査は、心理的アセスメントのための手段としてだけでなく、支援への動機付け、問題の明確化、支援目標の設定、支援を進めていくうえで必要なラポール形成など、支援的な関わりの手段としても活用できる。 このためには心理的アセスメントの目的及び倫理、観点及び展開について理解したうえで、観察、面接及び心理検査等の心理的アセスメント方法について理解することが必要となる。また、心理的アセスメントの結果について適切な記録及び報告ができることも求められる。 そこでこの授業では、まず心理検査（質問紙法）の作成を試み、心理検査の構成について体験的に理解する。また、代表的な心理検査の実習を行い、これらの心理的アセスメントの結果について記録と報告を作成する実習を行う。 なお、この実習授業を担当する榎本俊哉は公認心理師・臨床心理士であり、心理検査に関する実務経験がある。この経験をもとに、履修生が各自を被験者として実施する各種心理検査について、履修生の希望があれば、自己理解を深める目的で心理検査結果を個別にフィードバックする機会を設けることとする。							
到達目標 A3430b * 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。 * 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。 * 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。 * 心理的アセスメントの結果について適切な記録及び報告ができる。			成績評価方法 ・ 出席および実習の実施（30%） ・ 実習レポート（70%）				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1～2) 心理的アセスメントについて 【復習】質問紙作成についての計画（60分）</p> <p>3～4) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問項目の見直し（60分）</p> <p>5～6) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問紙作成のための統計的手続きの検討（60分）</p> <p>7～8) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問紙の構成の再検討（60分）</p> <p>9～10) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問紙作成の振り返り（60分）</p> <p>11～12) 質問紙法 T E G 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>13～14) 質問紙法 Y G 性格検査・M M P I 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>15～16) 描画法 バウムテスト・H T P・風景構成法 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>17～18) 投影法 S C T 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>19～20) 投影法 P - F スタディ 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>21～22) 投影法 ロールシャッハテスト 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>23～24) 知能検査法 W I S C・W A I S 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>25～26) 発達検査法 D A M・H D S - R 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>27～28) 作業検査法 内田クレペリン精神検査 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>29～30) 心理的アセスメントの実際 【復習】これまでの復習（60分）</p>	<p>実習・グループワーク</p>
授業外学習	
<p>実習で体験したいいくつかの心理検査について、実習レポート（心理検査結果の記録及び報告）の提出を必須とする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 適宜プリントを配布する。</p> <p>参考書 ・上里一郎 監修（2001） 心理アセスメントハンドブック第2版 西村書店</p>	<p>心理的アセスメント 感情・人格心理学 心理演習 ・ 心理学実験 ・</p>

課題に対するフィードバック

実習レポートにはコメントをつけて返却する。
また、希望者には個別に相談の機会を設け、実施した心理検査のフィードバックについてコメントする。
自分自身を被験者としての心理検査の実施と検討、および希望者への個別のフィードバックによって自己理解を深めることで、自分らしい進路選択・キャリアイメージ形成につながる機会となることが期待される。

備考

- ・実習のため、原則として遅刻・欠席は認められません。
- ・出席および実習レポートの提出がなければ単位認定されません。

科目名	心理学実験			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	3年	前期
担当者名	榎本 俊哉、森本 裕子		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士

授業概要

この授業では実際に代表的な心理学実験を実験者・被験者・実験参加者の立場で体験します。この体験の中で、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を活用してのデータ処理や結果の解釈および考察の方法、実験レポートの書き方を学びます。これらにより、卒業研究に取り組むために必要な技能を習得していきます。

到達目標

A3431ab

- * 実験の計画立案ができる。
- * 統計に関する基礎的な知識を活用できる。
- * 実験レポートを適切に作成できる。

成績評価方法

- ・ 実験への参加と実施 (50%)
- ・ 実験レポート (50%)
- * すべての実験レポート提出を必須とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							10
実習							20

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)(実習)		アクティブラーニング
1) 2) 心理学実験の諸注意 【復習】講義内容の復習(60分) 3) 4) ミュラー・リヤーの錯視 ~ 実験の計画立案 【復習】講義内容の復習(60分) 5) 6) ミュラー・リヤーの錯視 ~ 実験の実施 【復習】講義内容の復習(60分) 7) 8) ミュラー・リヤーの錯視 ~ レポートの書き方 【復習】講義内容の復習(60分) 9) 10) ミュラー・リヤーの錯視 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 11) 12) 大きさの恒常性 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 13) 14) 大きさの恒常性 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 15) 16) 鏡像描写 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 17) 18) 鏡像描写 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 19) 20) 語の記銘 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 21) 22) 語の記銘 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 23) 24) 心理尺度の構成 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 25) 26) 心理尺度の構成 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 27) 28) レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 29) 30) レポート指導 【復習】実験の振り返り(60分)	実験(グループ・個人) 実習 演習	
授業外学習		
実施したすべての心理学実験についてのレポート提出を義務とします。また、実験レポートについては記載方法や記載内容についての個別指導を受けることとします。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
【テキスト】 木下富雄(代表編集, 1990) 教材心理学, 第4版, ナカニシヤ出版	心理学実験 知覚・認知心理学 心理学統計法 心理学研究法 卒業研究	

課題に対するフィードバック

実験レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

- ・ 実習のため、原則として遅刻・欠席は認められません。
- ・ 出席および実験レポートの提出がなければ単位認定されません。

科目名	心理学実験			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実験	選択	1	3年	後期
担当者名	梶本 俊哉、森本 裕子	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

この授業では、心理学実験 に引き続き、実際に代表的な心理学実験を実験者・被験者・実験参加者の立場で体験します。この体験の中で、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を活用してのデータ処理や結果の解釈および考察の方法、実験レポートの書き方を学びます。これらにより、卒業研究に取り組むために必要な技能を習得していきます。なお、この授業の履修には心理学実験 を履修済みであることが望ましいですが、必須ではありません。

到達目標

A3432ab

- * 実験の計画立案ができる。
- * 統計に関する基礎的な知識を活用できる。
- * 実験レポートを適切に作成できる。

成績評価方法

- ・ 実験への参加と実施（50%）
- ・ 実験レポート（50%）
- * すべての実験レポート提出を必須とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							10
実習							20

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理学実験の諸注意 【復習】講義内容の復習（60分）	
2) 2点関 ~ 実験の計画立案 【復習】講義内容の復習（60分）	演習
3) 2点関 ~ 実験の実施 【復習】講義内容の復習（60分）	実習
4) 2点関 ~ 実験方法の見直し 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
5) 2点関 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
6) ストループ効果の検討 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
7) ストループ効果の検討 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
8) 性格の認知 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
9) 性格の認知 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
10) 奥行知覚の手がかり ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
11) 奥行知覚の手がかり ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
12) 遠近法錯視 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
13) 遠近法錯視 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
14) レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
15) レポート指導 【復習】実験の振り返り（60分）	演習
授業外学習	
実施したすべての心理学実験についてのレポート提出を義務とします。また、実験レポートについては記載方法や記載内容についての個別指導を受けることとします。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 木下富雄（代表編集，1990） 教材心理学，第4版，ナカニシヤ出版 （＊心理学実験 のテキストと同じ） 他，適宜プリントを配布する。	心理学実験 知覚・認知心理学 心理学統計法 心理学研究法 卒業研究

課題に対するフィードバック

実験レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

- ・ 実習のため、原則として遅刻・欠席は認められません。
- ・ 出席および実験レポートの提出がなければ単位認定されません。

科目名	知覚・認知心理学(知覚心理学)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格		

授業概要

私たちは外界をあるがままに受け容れているのではなく、状況に応じて適切に捉えている。このような心の働きが感覚、知覚であり、心理学のたくさんの分野の中でも比較的古くから研究され、数多くの知見が蓄積されてきた。本授業では特に、視覚を中心とした五感のしくみとその発達、注意や意識とのかわり、顔や時間の知覚といったより特異的な知覚の機能に関して学び、人間の心の働きの基礎に当たる部分を理解することを目指す。授業は講義を中心に行い、適宜デモンストレーションや簡単な実験を実施する

実務経験

臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

A2414ab

人間の知覚のしくみを説明できる。
日常生活の中で知覚のしくみを応用した例を挙げられる。

成績評価方法

- ・ 期末試験 (50%)
- ・ レポート (30%)
- ・ 授業コメント (20%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 知覚心理学とは・感覚について 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
2) 知覚の測定 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
3) 錯視 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
4) 色の知覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
5) 形・奥行きの知覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
6) 運動の知覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
7) 聴知覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
8) 触覚・嗅覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	1)～8) レポート
9) 中間試験 レポートを作成し提出する。（60分）	
10) 多感覚相互作用 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
11) 注意と意識 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
12) 顔の知覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
13) 時間の知覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
14) 知覚の発達 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	10)～14) レポート
15) 知覚心理学の展望 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
授業外学習	
講義後、資料を復習すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 特に定めない。 【参考書】 北岡明佳(編) (2011). 知覚心理学 心の入り口を科学する ミネルヴァ書房	「神経心理学」, 「認知心理学」, 「心理学実験」

課題に対するフィードバック

課題については、コメントをつけて返却する。

備考

科目名	知覚・認知心理学(認知心理学)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	酒木 保	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

認知心理学とは、記憶、学習、問題解決、思考といった、私たちの認知機能のしくみを研究する分野である。この授業では、認知機能に関わる心の働きを科学的な視点から概観する。

実務経験

臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

A3433ab

認知心理学の基礎的な知識と共に、日常生活における様々な心理学的営みに対して科学的な観点から考察する能力を修得する。

人の認知・思考等の機序及びその障害について理解できる。

認知心理学のさまざまな実験パラダイムについて説明できる。

成績評価方法

- ・定期試験(50%)
- ・レポート(30%)
- ・コメント等(20%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 認知心理学の歴史と特徴 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
2) 効果の確かさ 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
3) 感覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
4) 脳のしくみ 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	1)~4) レポート
5) 認知・思考の機序(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
6) 認知・思考の機序(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
7) 学習の基礎(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
8) 学習の基礎(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	5)~8) レポート
9) 認知と発達(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
10) 認知と発達(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
11) 記憶の仕組み(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
12) 記憶の仕組み(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
13) 認知・思考の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
14) 認知・思考の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	9)~14) レポート
15) 認知と思考及び感情 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	総括発表
授業外学習	
講義後、資料を復習すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 テキストは特に用いず、講義資料に基づいて授業を行う。 【参考書】 参考書は授業中に示す。	「知覚心理学」, 「学習心理学」, 「神経心理学」, 「教育心理学」

課題に対するフィードバック

課題については、コメントをつけて返却する。

備考

科目名	学習・言語心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	前期			
担当者名	三島 瑞穂		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 この授業では、人の行動や態度を理論的に説明できるようになること、また言語の性質と習得のプロセスを理解することを中心に学ぶ。人間が成長する過程で、学習（経験）が意義深いこと、学習者への援助者としての周囲（応答的環境など）の配慮が大切であることへの理解を深める。日常生活への応用として、学習の原理を活用できるように具体例を考えるといった課題を出す。具体的には以下の内容が予定されている。 人の行動が変化する過程 基本的な学習理論や実験に加えて随時新しい知見や研究成果を紹介し、行動の習得と変化の機序を理解する。その上で日常や学校、社会における様々な行動について学習理論を元に理解し、説明できるように取り組む。 言語の習得における機序 胎児期から乳児期、幼児期と、言語がどのように修得されるのか、その過程を理解すると共に、応答性や感受性を豊かにすることが言語習得においてどのような影響を持つのかを理解する。また、読字障害、書字障害などの学習障害とその支援の在り方について学ぶ。							
到達目標 ナンバリング(A2415ab) 学習の領域の構成を理解する。 人の行動が変化し学習が成立するプロセスを学ぶ。 人が言語を修得するプロセスを学ぶ。 学習や言語を効果的に習熟する方法について、実験的研究結果から実証的に判断する。 身近な実験から帰納する。 心理学のモデルと日々の言動を対応づけ、普段から心理学的な思考ができるようにする。 言語発達の過程を学び、効果的な習熟過程を考察する中で、人の発達における感受性を豊かにすることや、応答的な学習を促進することの重要性を理解する。 学習障害について学び、学習困難の背景を理解する。			成績評価方法 授業中の課題への取組みと発表、レポートにより総合的に判断する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							0
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							15
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション「学習って何だろう？」 復習では、日常生活すべてに関わる「学習」を確認してみましょう（10分程度）	グループディスカッション
2) 乳児の言葉の発達のプロセスを学ぶ。復習では、家族に自分の言葉の発達について尋ねてみましょう（30分程度）。	グループディスカッション
3) 言葉の発達を促す条件を学び、子どもの言語能力や必要な環境について考える。「環境の影響」「言葉に興味を持つ働きかけ」といった課題について検討する。復習では、課題の検討の続きをしてみましょう（20分程度）。	小レポート
4) 言葉の使い方の違いによって、与える影響がどのように変わるのか、体験する。カウンセリングや子育てにおいて、どのような言葉が適切であるのかを検討する。復習では、自分に合うやり方を検討しましょう（10分程度）。	グループワーク
5) 読字障害や書字障害、自閉症スペクトラム障害等、言語に関わる学習障害について学ぶ。復習では、関連する情報をインターネットや文献で探し、読んでおきましょう（20分程度）。	小レポート
6) 学習理論（古典的条件づけ）と関連する実験について学ぶ。復習では、自分がこれまで体験した古典的条件づけを振り返っておきましょう（10分程度）。	小レポート
7) 古典的条件づけを用いた心理療法を体験し、日常生活への活用を考える。復習でも、日常生活に古典的条件づけを良い意味で活かす方法を考えましょう（10分程度）。	ワーク・小レポート
8) 学習理論（操作的条件づけ）と関連する実験について学ぶ。復習では、自分がこれまで日常の中で体験してきた操作的条件づけを確認しましょう（10分程度）。	小レポート
9) 行動分析について学ぶ。日常の行動を行動分析学の立場から分析し、ましい行動を身につける方法を考える。復習では、日常生活への応用を試みましょう（20分程度）。	ワーク・小レポート
10) 認知行動療法について学ぶ。大学生生活のストレスや心理的なつまづきに対して簡単な認知行動療法を試みる。軽いものにすること。復習でも、どうそれを役立てるのか検討しましょう（10分程度）。	ワーク・小レポート
11) 社会的学習（観察学習と模倣学習、代理性強化）について学ぶ。復習では、日常生活において成立している社会的学習を探し、検討をしてみましょう（10分程度）。	小レポート
12) 問題解決や推論過程について学ぶ。様々な推論のモデルについて学び、普段の論理的思考がどのようなモデルで表現できるのか考える。復習でも、自分の思考のパターンを振り返りましょう（15分程度）。	小レポート
13) 記憶のメカニズムと学習について学ぶ。記憶の様々な性質が学習とどのような関連をしているのか、学ぶ。復習では、自分の記憶の仕方を振り返り、得意な記憶方法を検討しましょう（10分程度）。	小レポート
14) 技能学習とその熟達化の過程について学ぶ。技能を身につけるプロセスに、何が効果的なのか、何が阻害するのかを考えます。予習では、学習内容や家事、アルバイト、趣味など、熟達の経験を振り返りましょう（10分程度）。	小レポート
15) 全体を振り返るとともに、学習の種類および学習・記憶・思考の神経学的基盤について総括する。	
授業外学習	
なるべく実生活でも学んだことを使ってみる。単純な理論で説明できる現象と、そうでない現象があり、自分自身で洞察して楽しむ。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
《テキスト》 山内光哉ほか（1985）. グラフィック 学習心理学-行動と認知-サイエンス社	「心理学概論 ・ 」、「認知心理学」、 「心理学実験 ・ 」

課題に対するフィードバック

課題に関しては次週に例を示し、理解を深める。
また、質問に関しても次週にまとめて受け、全員の理解を促す。

備考

科目名	感情・人格心理学(感情心理学)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	梶本 知子		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 感情の生起には、主観的経験だけでなく生理反応も伴い、感情は心理面や身体面にさまざまな影響を及ぼす。本講義では、感情の機能と発達を知り、感情喚起のメカニズムについて理解を深める。また、感情の測定方法を理解したうえで、感情と「認知」「行動」「健康」「病理」がどのように関連するかについて、知見を得ることを目的とする。							
到達目標 A3434ab 感情が喚起するメカニズムを説明できる。 感情の諸理論を説明できる。 感情が認知、行動、健康、病理に及ぼす影響について理解できる。 感情を測定する方法を理解し、各方法のメリットと限界を知る。			成績評価方法 定期試験 55%、授業内ミニレポート（ミニツツペーパー） 15%、宿題（小課題） 30%で評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							55
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 感情とは：感情・情動・気分，感情反応の3成分，感情の古典的理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
2) 感情喚起のメカニズム：生理・認知説，認知的評価理論，相反過程理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
3) 感情の生理的基盤：脳の構造と機能，感情の神経ネットワークモデル，脳の損傷と感情の問題 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（各々90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
4) 感情の機能と進化：感情の種類と機能，進化的視点から見た感情の機能 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
5) 感情と認知：感情が認知に及ぼす影響と理論，思考抑制が対人感情に及ぼす影響 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
6) 感情と発達：感情の発達，感情と愛着，青年期の愛着スタイルと感情 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
7) 感情と言語：感情経験の言語表現，他者の感情理解と心の理論，SNSで発生する感情語ネットワーク 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（各々90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
8) 感情と病理：抑うつとうつ病，ベックの抑うつ認知理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
9) 感情と健康：ポジティブ感情の機能，拡張・形成理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
10) 笑いとユーモア：笑いとユーモア，笑いと健康 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
11) 幸せの心理学：幸福度と幸福感，収入と幸福，文化と幸福，幸福への動機づけ 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
12) 社会不安：不安と恐怖，社会不安に関する研究，社会不安の説明モデルと心理療法 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
13) 対人感情：対人感情の自動性，対人嫌悪，対人感情の適応機能 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
14) 感情制御：感情制御のプロセス，感情制御方略，感情制御の個人差 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
15) 感情の測定：特性/状態としての感情研究，感情の測定 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
授業外学習	
<p>【予習】各回の授業の最後に、次回授業で扱う概念や専門用語、理論名を提示するので、心理学事典等を用いてあらかじめ調べておくこと。</p> <p>【復習】毎回出される小課題（宿題）を行い、その回の授業内容を復習すること。また、疑問に思ったことや興味・関心を惹かれたことについて、心理学事典や参考書、インターネット等を用いて調べる。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>参考文献は授業内で紹介する。</p>	<p>神経心理学、認知心理学、人格心理学、健康心理学、社会心理学、臨床心理学、脳科学、生理学関連の講義</p>

課題に対するフィードバック

- ・ミニツツペーパー（授業内ミニレポート）に書かれた質問について，次回の授業始めに口頭で解答し説明する。
- ・小課題は，次回の授業で答え合わせを行い，次々回の授業で各自に返却する。
- ・期末試験の結果については，平均点と標準偏差を掲示する。

備考

科目名	教育・学校心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	三島 瑞穂、高田 晃		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 人が個性や能力を伸ばし、望ましい人生を手に入れるためには教育が欠かせない。乳幼児から成人期まで「効果の高い教育とは何か」について、歴史、脳科学、教育学等、様々な視点から考える。さまざまな知識を獲得する他、グループワークやレポートによって、学ぶことや教育について主体的に考える。 また、学校を始めとする教育現場では、いじめや学習の遅れ、教育格差、不登校、発達障害、家庭や地域的な背景の困難さなど、様々な問題が生じている。さらには学校教員のメンタルヘルスも危機的な状況にある。このように現代の学校は深刻な課題が複雑に絡み合い、その対処には、深い見識と柔軟性が必要である。そのため、様々な問題とその背景を理解すると共に、課題に対してどのような支援の仕方があるのかについて、問題や解決の事例を通して学ぶ。さらに学校教育において教員がどのような創意工夫をしているか、問題にぶつかっているかなどを映像を交えて、より実践的な理解を促す。発達障害とその支援の在り方（インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン教育）を理解し、人の多様性に対する感受性や受容性を身につける。							
到達目標 ナンバリング(A2416ab) より効果の高い教育の在り方について、心理学的な知見から考察する。 教育現場において生じる問題及びその背景を理解する。 教育現場における心理社会的課題を把握し、それに必要な支援の在り方を学ぶ。 インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン教育について理解し、学びの困難さを解消するための教育の在り方を考察する。			成績評価方法 ・レポート(40%) ・授業態度(15%) ・演習他(45%)				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							0
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							15
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 日本の歴史と文化から教育を考える 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
2) 日本の歴史と文化から教育を考える 議論のテーマ：「ゆとり教育」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
3) 現代社会で求められる幼児教育 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	事例を通して学ぶ
4) 望ましい早期教育を脳の発達から考える 議論のテーマ：「自分が子育てするなら？」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
5) 教育の基盤を作ることのできる幼児教育とは 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	小レポートの作成
6) 教育効果を支える認知心理学 議論のテーマ：「自分をどうやって育てる？」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	小レポートの作成
7) 応答的教育と身体を使った教育で効果を高める 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	小レポートの作成
8) 人の心を動かす：モチベーション 議論のテーマ：「自分を動かす一番は何？」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	小レポートの作成
9) 自己認知と目標設定 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	小レポートの作成
10) 価値・信念・目標達成 議論のテーマ：「価値と目標の振り返り」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	
11) 自己効力感と自己コントロールを育む 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	
12) 教育の現場で生じる問題：不登校・いじめ等 議論のテーマ：「幸せな教育とは」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
13) 教育の現場に影響する問題：家族と社会 議論のテーマ：「教育ができること」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
14) 教育の可能性 事例によって多様な教育を考える。 議論のテーマ：「どんな学校で学びたい？」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
15) 教育の可能性 事例によって教育の問題を考える。 議論のテーマ：「どんな教育が必要？」 復習：概念の習熟と関連する文献の読解（30分）	グループディスカッション
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜授業で配布する。	学習心理学，生涯発達心理学， 障害発達心理学，臨床心理学

課題に対するフィードバック

レポートに関して次週以降にお互いに書いた内容を紹介し合い、全員で理解を深める。

備考

科目名	発達心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

人間の発達とは、生涯にわたり、質的・量的に変化していく「連続した過程」として捉えられる。また、各発達段階には、達成すべき課題があり、それらを遂行していく過程とも捉えられる。本講では、こうした視点をふまえ、出生から死に至るまで、人生で生じる心の変化を概観する。

到達目標

ナンバリング(A2417ab)

出生から死に至るまで、人間の様々な時期に生じる心の変化・あり様が理解できる。

人生の中で生じる変化を支え、より豊かな人生をおくるための支援が理解できる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							0
小テスト、授業内レポート	○	○	○				40
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度		○	○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○				20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、発達心理学とは 【復習】自らの発達過程を振り返ってみる（20分）	授業内レポート
2) 発達に関する理論 【復習】発達に関する理論の内容を再度確認すると共に、授業内で紹介する文献を用いて、思考を深めておく（20分）	小テスト
3) 発達心理学の基本的視点 【復習】発達のいくつかのモデルを参考にして、自分なりの発達モデルを作成してみる（20分）	小テスト
4) 乳児期の心理発達 【予習】乳児期に関する文献を調べておき、授業内でグループで話す準備をする（30分）【復習】発達に関する理論の内容を再度確認すると共に、授業内で紹介する文献を用いて、思考を深めておく（20分）	小テスト、グループワーク
5) 幼児前期の心理発達 【予習】幼児期に関する文献を調べ、授業内でグループで話す準備をする（30分）【復習】関連する概念を再度確認すると共に、授業内で紹介する文献を用いて、思考を深めておく（20分）	小テスト、グループワーク
6) 幼児後期・児童期の移行期の心理発達 【復習】幼児期と児童期にどのような変化が起こるのか、またそこに影響する環境について考察を深める（30分）	小テスト
7) 児童期（学童期）の心理発達 【予習】自分自身や周りの子どもの児童期の心理的特徴を振り返っておく（20分） 【復習】児童期における心理的特徴や概念を再確認し、理解を深める（20分）	小テスト
8) 思春期 【予習】自分自身や周りの子どもの思春期について振り返っておく（20分） 【復習】思春期における心理的特徴を再確認し、理解を深める（20分）	小テスト
9) 思春期 【復習】思春期特有の心理的な問題、発達課題について再度、理解を深める（20分）	小テスト
10) 青年期 【予習】青年期における心理的特徴とはどのようなものか、自分自身や周りを振り返って考えておく（20分）【予習】青年期における心理的特徴や課題を再確認し、理解を深める（20分）	小テスト
11) 成人期 【予習】成人期における発達課題とはどのようなものか、考えておく（20分）【復習】参考文献の読解を通して成人期の発達課題と成熟について、考察を深める（60分）	小テスト、グループワーク
12) 成人中期 【予習】自分が読んだ参考文献をまとめ、グループ内で発表できるようにしておく（30分）	小テスト、グループワーク
13) 老年期 【予習】老年期における発達課題と成熟について考察しておく（20分）	小テスト
14) 死 【復習】参考文献の読解を通して、死生学の知見について理解を深める（40分）	小テスト
15) まとめ 【予習】これまでの授業の中で、不明な点やあいまいな点などをまとめておき、授業内で共有できるようにする（20分）	小テスト、グループワーク
授業外学習	
講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 レジメを配布する。 【参考書】 ガイドライン生涯発達心理学 ナカニシヤ出版 よく分かる発達心理学 ミネルヴァ書房	障害発達心理学 心理学関連科目

課題に対するフィードバック

課題の内容を次週のグループワークで互いに発表し、理解を深め合う。
次週以降に課題に関連する文献を紹介し、展開を促す。

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	障害発達心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	4年	後期			
担当者名	木元 卓也		関連する資格				
授業概要 発達心理学の基礎理解をベースにして、発達障害を理解し、将来の心理支援に役立てられるようにする。 発達障害を単なる知識だけでなく、個別の事例、治療実践を知ること、より具体的な支援のイメージを掴む。 障害の理解と考察を深めるため、現実の問題や支援方法について各自で調べ、発表してもらう。随時、各々の最も興味のある領域を選び、交代で発表する。							
到達目標 ナンバリング (A30) 発達障害の基本的な症状を理解する 発達障害の具体的な支援方法を知る 自力で発達障害の支援方法を調べ、考察し、提案できるようになる。			成績評価方法 発表とレポートとで総合的判断して評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							30
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							40
プレゼンテーション							30
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、障害発達心理学とは 予習) 発達段階についてまとめる(60分) 復習) 子どもの健診について調べる(60分)	グループワーク
2) 発達障害の基礎理解 予習) 発達障害についてまとめる(60分) 復習) 発達障害の診断について調べる(60分)	グループワーク
3) 発達障害の基礎理解 予習) 発達障害を抱えた乳幼児期の特徴についてまとめる(60分) 復習) 発達障害を抱えた保護者の気持ちについて考察する(60分)	グループワーク
4) 発達障害の診断について 予習) 発達障害を抱えた児童期の特徴についてまとめる(60分) 復習) SSTについて調べる(60分)	グループワーク
5) 発達障害の診断について 予習) DSM- を熟読する(60分) 復習) ICD-10を熟読する(60分)	グループワーク
6) 知能テストから見た発達障害 予習) WISC- についてまとめる(60分) 復習) Wais- についてまとめる(60分)	グループワーク
7) 発達障害を抱えた子どもへの養育支援について 予習) 当事者の書籍を読む(60分) 復習) DVD視聴後の感想をまとめる(60分)	グループワーク
8) 発達障害と就労 予習) 社会資源について調べる(60分) 復習) 当事者が望む支援についてまとめる(60分)	グループワーク
9) 発達障害への支援方法 予習) 発達障害の治療に使用される薬について調べる(60分) 復習) 薬の副作用についてまとめる(60分)	グループワーク
10) 発達障害を抱えた子どもを持つ家族の想い～講師の経験より 予習) 事例プリントを熟読する(60分) 復習) 事例を通しての感想をまとめる(60分)	グループワーク
11) 発達障害の研究 予習) 発表内容をまとめる(60分) 復習) 発表後の意見交換を終えての感想をまとめる(60分)	グループワーク
12) 発達障害の研究 予習) 発表内容をまとめる(60分) 復習) 発表後の意見交換を終えての感想をまとめる(60分)	グループワーク
13) 発達障害の研究 予習) 発表内容をまとめる(60分) 復習) 発表後の意見交換を終えての感想をまとめる(60分)	グループワーク
14) 発達障害の研究 予習) 発表内容をまとめる(60分) 復習) 発表後の意見交換を終えての感想をまとめる(60分)	グループワーク
15) 発達障害の研究 予習) 発表内容をまとめる(60分) 復習) 発表後の意見交換を終えての感想をまとめる(60分)	グループワーク
授業外学習	
11), 12), 13), 14), 15)は、各自で発達障害に関する論文を読み、そこから通して学んだことや要約を発表してもらう。1人15分程度。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
随時、こちらで用意し紹介する。	心理学関連の科目

課題に対するフィードバック

毎週、コメントをつけてフィードバックする予定です。

備考

科目名	障害者・障害児心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	甘 麻乃、吉久 浩之	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

障害のある人たちを取り巻く環境は、21世紀を迎えてから大きく変動してきている。そこで、本講義では身体障害、知的障害及び精神障害について概説する。また、最近では発達障害をはじめさまざまな障害のある児童生徒と関わる機会も多くなっているため、発達障害を取り巻く心理社会的課題及び必要な支援について触れる。

到達目標

A3435ab

身体障害、知的障害及び精神障害の概要を理解する。
障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について知る。

成績評価方法

定期試験、授業内レポート、授業参加度、グループワークによる評価

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 障害者・障害児心理学とは（廿） 【予習】障がいや発達についての授業を振り返っておく（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
2) 身体障害・知的障害の概要（吉久） 【予習】身体障害・知的障害について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
3) 視覚障害・聴覚障害の概要（廿） 【予習】視覚障害・聴覚障害について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
4) 精神障害の概要（廿） 【予習】精神障害について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
5) 発達障害の概要（廿） 【予習】発達障害について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
6) 肢体不自由及び病弱者の概要（吉久） 【予習】肢体不自由及び病弱者について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
7) 情緒障害児の理解と心理的援助（廿） 【予習】情緒障害児について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
8) 身体障害者を取り巻く心理社会的課題（吉久） 【予習】身体障害者を取り巻く課題について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
9) 知的障害者を取り巻く心理社会的課題（吉久） 【予習】知的障害者を取り巻く課題について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
10) 精神障害者を取り巻く心理社会的課題（廿） 【予習】精神障害者を取り巻く課題について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
11) 発達障害者を取り巻く心理社会的課題（廿） 【予習】発達障害者を取り巻く課題について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
12) 身体障害者への必要な支援（吉久） 【予習】身体障害者の必要としている支援について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
13) 知的障害者への必要な支援（吉久） 【予習】知的障害者の必要としている支援について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
14) 精神障害者への必要な支援（吉久） 【予習】精神障害者の必要としている支援について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
15) 発達障害者への必要な支援（廿） 【予習】発達障害者の必要としている支援について調べる（60分） 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる（30分）	グループワーク
授業外学習	
メディアで取り上げられるニュースなど注意して見てみてください。また、障がいのある方々と触れ合う機会を作ってください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じてレジメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

グループワークの際、適宜コメントを行う。

備考

【オフィスアワー】 廿：掲示を確認のこと。 吉久：授業の前後に対応します。

科目名	神経・生理心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 脳に損傷を受けた場合には多様な心の変化が起こる。これは、心の働きは脳がつかさどっているからである。本授業では、脳のしくみや働き、それらを実験的に調べる研究、脳損傷によって現れるさまざまな心の活動の変化について、主に講義を通じて学び、脳の働きから心の働きを理解することを目指す。							
実務経験 臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 A3436ab 神経心理学の考え方や方法について理解し、説明できる。 記憶、感情の生理学的反応の機序について理解し、説明できる。 脳神経の構造及び機能について学習することによって、脳の働きから心の働きを理解することができる。 高次脳機能障害をはじめさまざまな脳損傷の事例について多面的に考え、その援助について討議できる。			成績評価方法 ・ 期末試験 (50%) ・ 課題レポート (30%) ・ 授業コメント (20%)				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 神経心理学とは 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
2) 脳のしくみ 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
3) 神経心理学の方法 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	1)~3) レポート
4) 視覚の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
5) 視覚の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	4)~5) レポート
6) 認知と注意の障害 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
7) 言語の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
8) 言語の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	6)及び、7)~8) レポート
9) 半球差について 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
10) 記憶の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
11) 記憶の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	10)~11) レポート
12) 情動の障害 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
13) 精神疾患と脳 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
14) 睡眠と脳 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
15) 神経心理学的リハビリテーション 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	総合レポート
授業外学習	
授業に際し、あらかじめテーマとなる神経・生理心理学上の問題について事前学習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 特に定めない。 【参考書】 利島保(編)(2006). 脳神経心理学 朝倉書店	「知覚心理学」, 「学習心理学」, 「生涯発達心理学」, 「認知心理学」

課題に対するフィードバック

課題については、コメントをつけて返却する。

備考

科目名	感情・人格心理学(人格心理学)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	小山 典子	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士				
授業概要 講義を通して人格心理学のさまざまな理論を学び、グループでの討議によって人格とは何であるか、どのように捉えることができるのかを考える。さらに、人格がどのように行動や健康に影響を及ぼすのかを学び、他者理解、自己理解に役立てる。また、人格に関する研究を通して、心理学の基本的な考え方を身につけることも目指す。 実務経験 公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどの臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 A2418ab 人格という構成概念を多様な視点から捉え、分類できる。 人格の諸理論とその背景にある考え方を説明できる。 人格に関する研究を理解し、それについて討議できる。			成績評価方法 期末試験・出席・グループワーク及び授業コメント				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 人格とは？ 【復習】授業内容について復習する(60分)	
2) 人格の捉え方 個人差と構成概念 【予習】人格統合、個人差についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
3) 人格の測定 人格はどうやって測る？ 【予習】人格(性格)検査についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	グループワーク
4) 人格の一貫性論争 行動を決めるのは状況？人格？ 【予習】自己の決定行動について振り返りをおこなう(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	グループワーク
5) さまざまな類型論 人格のタイプ分け 【予習】類型論についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
6) 類型論の問題点 なぜ血液型診断を信じてしまうか？ 【予習】血液診断を信じてしまう理由について調べる(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	グループワーク
7) 精神分析理論からみた人格 フロイトの考え 【予習】精神分析と人格についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
8) 特性論とは 人格の得点化 【予習】特性論についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
9) ビッグ・ファイブ 性格を表す5つの因子 【予習】ビッグ・ファイブについての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	個人ワーク グループワーク
10) 知能と知能検査 知能は人格の一部？ 【予習】知的機能の個人差についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
11) 人格の発達と環境 遺伝か環境か？ 【予習】遺伝的要因、環境的要因についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	グループワーク
12) 人格と社会行動 人格と行動の関係 【予習】人格形成についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
13) 人格による心理社会的問題 病前性格・性格と健康の関係 【予習】社会・対人関係における人格についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
14) 人格による心理社会的問題 パーソナリティ障害 【予習】パーソナリティ障害についての資料を読む(30分)【復習】授業内容について復習する(60分)	
15) 総括 改めて、人格とは何だろうか？	
授業外学習	
地域社会の情報から人格に関わる事例について、関心を持ち各グループワークに役立てる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配付する。 参考書： はじめて学ぶパーソナリティ心理学 小塩真司(著) ミネルヴァ書房 2010 性格の心理 丹野義彦(著) サイエンス社 2003	社会・集団・家族心理学 臨床心理学概論 健康・医療心理学 心理的アセスメント

課題に対するフィードバック

レポートはコメントをつけて返却する

備考

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 臨床心理学実習について（高田晃） 【復習】授業中わからなかった専門用語を調べる（60分）	
2) ラポールの取り方、自分の認知的な特性の理解（高田晃） 【予習】事前配布した資料を読んでくる（30分） 【復習】授業中わからなかった専門用語を調べる（60分）	
3) スキグル（小山典子） プレイセラピーを応用した自己理解と非言語コミュニケーション 【復習】自己理解とコミュニケーションについて調べる（60分）	体験 グループワーク
4) フォーカシング（小山典子） フォーカシングの基礎を学びゲシュタルト療法を応用したワークを行う 【復習】授業内容の振り返り（60分）	体験 グループワーク
5) デカルコマニー（小山典子） 投映法とフォーカシングを応用したアートセラピーを行う 【復習】授業内容の振り返り（60分）	体験 グループワーク
6) 精神科クリニックで行っているインテーク面接の紹介と体験（小山典子） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
7) 精神科クリニックでの初診までの流れ（酒木保） バウムテストの模擬体験及び所見 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
8) 精神科クリニックでの初診までの流れ（酒木保） SDSの模擬体験及び所見 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
9) 精神科クリニックでの初診までの流れ（酒木保） CMIの模擬体験及び所見 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
10) 精神科クリニックでの初診までの流れ（酒木保） インテーク面接及び心理検査を整理して総合所見を書く 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
11) 認知行動療法 相談スキルの基礎（榎本俊哉） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	演習
12) 認知行動療法 日常生活の問題について考える（榎本俊哉） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	演習
13) 認知行動療法 日常生活の問題に取り組んでみる（榎本俊哉） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	演習
14) 認知行動療法 日常生活の問題について振り返る（榎本俊哉） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	演習
15) 認知行動療法 思考・感情・行動の関連について考える（榎本俊哉） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	演習
授業外学習	
<p>第1回～5回では、自己理解や他者理解を深め、心理に関する支援を要する者等とのラポールの取り方について、演習で学んだ内容を活かしながらレポートを作成する。</p> <p>第6回～10回では、心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得のために精神科クリニックでのインテーク面接や心理検査について、演習で学んだ内容を活かしながらレポートを作成する。</p> <p>第11～15回ではそれぞれが生活上の問題解決に取り組むことを課題とし、この経過をレポートにまとめて提出する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>*テキスト 適宜プリントを配布する。</p> <p>*参考書 大野裕・田島美幸（2011）. こころのスキルアップ・プログラム 認知療法・認知行動療法の視点から.（独）国立精神・神経医療研究センター/認知行動療法センター</p>	<p>心理演習、心理的アセスメント、臨床心理学概論、心理学的支援法、カウンセリング論</p>

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	心理演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	前期
担当者名	高田 晃、榎本 俊哉、小山 典子、木元 卓也	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

認知行動療法について、実際の生活場面で生じる怒りをテーマにしたトラブルを中心に、その認知の問題、解決方法の問題等、自己の傾向を振り返り理解を深めていく。
 自己の傾向を振り返り、グループでのディスカッションを通して、自らが気づいていない自己への理解を深めると同時に、他者の気づきへの支援も行う。
 表現療法としての箱庭両方を体験的に理解する。
 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチや多職種連携及び地域連携について学ぶ。
 これらの体験を通して心理的支援について理解を深めていく。

実務経験

全員が公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

A3474ab
 * 自己の認知の傾向を理解する。
 自己の問題対処方略について理解する。
 他者の自己理解を支援する。

成績評価方法

授業態度、授業の出席率、
 毎回の授業内レポート
 全授業終了後提示するテーマへのレポート

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							10
グループワーク							15
演習							15
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（榎本）	
2) 認知療法 心の仕組みについて知ろう（榎本） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	グループワーク
3) 認知療法 自動思考を見つけよう（榎本） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	グループワーク
4) 怒りの対処法1 怒りとは何か、怒りの問題点（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
5) 怒りの対処法1 怒りのしずめ方、より良く生きるために（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
6) 怒りの対処法2 怒りの役目、怒れないわけ（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
7) 怒りの対処法2 良い関係を作る怒りの出し方、より良く生きるために（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
8) チームアプローチ 多職種連携とは（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習 レポート
9) 問題の解決法を知る1 問題の種類を知る、問題解決の種類を知る（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
10) 問題の解決法を知る2 行動を変える、考え方を変える（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
11) 自分の気付いていない問題を知る1 自分のタイプを知る べき探し決法（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
12) 自分の気付いていない問題を知る2 友だち探し解決法 ちか道解決法（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	演習
13) 箱庭療法1 （箱庭療法の体験）（小山） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	体験
14) 箱庭療法2 （解釈の実際）（小山） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	体験
15) 総論（小山） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	
授業外学習	
<p>各授業担当が提示した資料や課題を実施して授業に参加する。 1～3回の授業については、まとめとしてレポートを課す。 4～7回の授業は「心のトレーニング」について、各授業で指示した個所を事前に実施して授業に参加する。 8～12回の授業はグループワークを行うので適宜、レポートを提出してもらう。 13～15回の授業は、体験した内容についてレポートにまとめ提出してもらう。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、資料を配付する。 「心のトレーニング」（小学館集英社プロダクション）を使用。	心理学関連科目全て 心理演習

課題に対するフィードバック

各教員が課題に応じて行う。

備考

オフィスアワー：各教員の指定する曜日に行う

科目名	カウンセリング論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	榎本 俊哉	関連する資格	高等学校教諭(福祉)、認定心理士	

授業概要

カウンセリングは理論と実践から成る、こころの支援のための方法です。本講義では主として来談者中心療法の立場から、実際の相談場面を想定した演習形式でカウンセリングとカウンセリングの基本技法について考えていきます。

なお、本講義を担当する榎本俊哉は公認心理師・臨床心理士であり、主に教育・医療・産業領域での心理カウンセリングの実務経験がある。このため、心理カウンセリングの現場における実際問題についても講義する。

到達目標

A2420b

- * カウンセリングの理論的背景と基本技法を理解する。
- * 相談において、カウンセリング技法を用いた配慮をすることができる。

成績評価方法

定期試験50%、授業内レポート・受講態度および演習50%で評価する。ただし、欠席が所定回数を超えた場合、評価の対象とはならない。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) カウンセリングとは 【復習】講義の振り返り（60分）	
2) 来談者中心療法について 【復習】講義の振り返り（60分）	
3) クライアントの心理 感情と行動 【復習】テキストの3～15ページを復習する（60分）	演習
4) 基本技法 クライアント理解 【復習】テキストの16～44ページを復習する（60分）	演習
5) 基本技法 カウンセラーからの質問 【復習】テキストの45～62ページを復習する（60分）	演習
6) 基本技法 クライアントからの質問 【復習】テキストの63～74ページを復習する（60分）	演習
7) 基本技法 応答の要素 【復習】テキストの75～88ページを復習する（60分）	演習
8) 基本技法 応答のレベル 【復習】テキストの89～104ページを復習する（60分）	演習
9) 基本技法 プロセスを受容する応答 【復習】テキストの105～116ページを復習する（60分）	演習
10) 基本技法 プロセスに働きかける応答 【復習】テキストの117～130ページを復習する（60分）	演習
11) 基本技法 カウンセリングの全体像の理解1 主訴の理解 【復習】テキストの131～133ページを復習する（30分）	演習
12) 基本技法 カウンセリングの全体像の理解2 主訴に対する見立てと方針 【復習】テキストの134～137ページを復習する（30分）	演習
13) 基本技法 カウンセリングの全体像の理解3 カウンセリングの見通し 【復習】テキストの137～141ページを復習する（30分）	演習
14) カウンセリングの実際問題 【復習】テキストの161～197ページを復習する（120分）	演習
15) まとめ 【復習】講義の振り返り（60分）	
授業外学習	
ワークブック（テキスト）で毎回の演習内容を各自で振り返り、カウンセリングでの応答や配慮についての疑問を新たに して、次回の講義・演習に取り組むこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 日精研心理臨床センター 編（1992）. 新装版 [独習] 実践カ ウンセリング・ワークブック、金子書房 【参考書】 佐治守夫 飯長喜一郎 編（2011）. ロジャーズ クライエン ト中心療法 [新版] 有斐閣	心理学的支援法

課題に対するフィードバック

授業内で実施した小レポートについては次回授業中にコメントする。
各自で実施したテキストの課題に関する質問については個別にコメントする。

備考

科目名	健康・医療心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	小山 典子		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 健康・医療心理学は人間の病的な側面だけではなく、心身両面での健康の保持・増進、疾患の予防を取り扱う比較的新しい分野の心理学である。 本講義では、健康心理学の基盤となっている心理学理論を概観し、ストレス、運動、リラクゼーション法などが健康にどのように影響を与えるのかを学ぶ。また、医療・保健分野、被災時における心理についてその課題・支援方法にも言及する。 実務経験 公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどの臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 A3438ab 健康心理学を支える基礎理論を理解する。 ストレスとパーソナリティ、コーピング、サポートなどの機能を理解し自分自身の健康を考える機会を持つ。 医療・保健分野における心理学的な側面、支援方法を理解する。 災害時など被害者支援における知識・支援方法を理解する。 リラクゼーション法を体験し、リラックス時の生理的变化を確認する。 フェルトセンスという、すぐには言葉にならない、あいまいな感じを実感する機会を持つ。			成績評価方法 定期試験（レポート提出）、出席日数、授業参加度により評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							20

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 健康・医療心理学とは 【復習】授業内容について復習する（60分）	
2) 喫煙と健康/たばこの害、禁煙プログラム 【予習】健康行動と生活習慣の資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
3) 補完代替医療/民間医療と西洋医学 【予習】補完代替医療についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	実習 レポート
4) 睡眠と健康/睡眠障害と生体リズム 【予習】睡眠についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
5) 心理学的ストレスモデルとは ストレスと心身の疾病との関係 【予習】ストレスについての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
6) セルフエフィカシーと健康 【予習】セルフエフィカシーについての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
7) 医療現場における心理社会的課題 うつ病と健康 【予習】うつ病についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
8) 医療現場における心理社会的支援 【予習】心理支援法についての資料を読む（30分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
9) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題 【予習】地域保健活動についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
10) 保健活動が行われている現場における心理社会的支援 【予習】地域保健活動の実際についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
11) リラクゼーション技法1/自律訓練法 【予習】リラクゼーションについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	レポート
12) リラクゼーション技法2/温感練習 【予習】リラクゼーションについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	実習 レポート
13) フォーカシング技法1/フェルトセンス 【予習】フォーカシングについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について復習する（60分）	実習 レポート
14) フォーカシング技法2/フォーカシングの実際 【予習】フォーカシングについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	実習 レポート
15) 災害時等に必要となる心理に関する支援 タッピング・タッチ 【予習】タッピングタッチについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	実習 レポート
授業外学習	
日常で行っているストレス解消法がこころと身体にどのように影響があるのか、第一次予防として講義で学んだ理論・技法を実践してみる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書： 健康・医療心理学 宮脇稔他編 医歯薬出版株式会社 健康心理学概論，日本健康心理学学会編，実務教育出版 健康の心理学 心と身体の健康のために，春木豊他共著，サイエンス社	産業・組織心理学 感情・人格心理学

課題に対するフィードバック

レポートにコメントをつけて返却する

備考

科目名	深層心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	高田 晃	関連する資格	認定心理士	

授業概要

無意識を発見し精神分析を開花させたのはフロイトである。精神分析の創始者であるフロイトについて基本的なことを学習する。さらにフロイト以後発展してきた心のメカニズムを理解するための理論である自我心理学、対象関係論、自己心理学、ユング心理学、日本の理論等について紹介していくとともに、担当者の関わってきた症例を提示することで具体的に深層心理を学習する。

到達目標

ナンバリング (A3439b)
基礎であるフロイトの理論について理解する。
それぞれの理論について理解を深める。

成績評価方法

授業内レポート
筆記試験

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 意識と無意識 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
2) エディプス・コンプレックス 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
3) 夢判断 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
4) 心の構造 局所論と構造論：自我、イド、超自我 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
5) フロイトの症例 ドラノ少年ハンス/ねずみ男 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
6) フロイトの症例 シュレーパー/狼男 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
7) 自我心理学 A・フロイト 防衛機制 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
8) 自我心理学 エリクソン 自我同一性/生活周期 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
9) 対象関係論 クライン 分裂機制/投影同一性/抑うつ態勢/妄想分裂態勢 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
10) 対象関係論 ウイニコット 移行対象/錯覚と脱錯覚/ホールディング 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
11) 自己心理学 コフート 自己愛パーソナリティ障害/共感/誇大自己 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
12) 自己心理学 コフート 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
13) ユング心理学 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
14) 日本の理論 阿蘭世コンプレックス/甘え理論 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
15) 「千と千尋の神隠し」に対する精神分析的な理解 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	授業内レポート グループディスカッション
授業外学習	
事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度プリントを配布する。 参考文献 『精神分析理論と臨床』北山修、2001年、誠信書房、3,000円 『図説 臨床精神分析学』前田重治、1985年、誠信書房、3,000円	臨床心理学実習

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	犯罪心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	小川 昭	関連する資格		

授業概要

犯罪の発生メカニズム、犯罪の影響と解決のための手法、加害者の処遇などについて最近の動向をふまえつつ概観し、加害者と被害者の支援のあり方について理解する。
 刑事施設における処遇経験をもとに犯罪の加害者に対する理解と改善更生への処遇について、犯罪被害者支援センターでの経験をもちに犯罪被害者への支援について、スクールカウンセラーの相談と民間のDV被害者支援センターとの関りから虐待・家事事件への対応について授業を行う。

到達目標

ナンバリング(A4407b)

1. 犯罪に係る基礎的知識が理解できる。
2. 加害者や被害者への制度と支援が理解できる。
3. 習得した知識をふまえて、具体的な犯罪事例について、自分なりの理解をすることができる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 犯罪心理学とは 【予習】犯罪心理学について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	授業内レポート
2) 犯罪・非行のメカニズム（1） 【予習】犯罪に至る原因について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
3) 犯罪・非行のメカニズム（2） 【予習】犯罪に至る原因について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
4) 犯罪・非行に関わる被害体験 【予習】被害体験が犯罪に至る要因について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
5) 犯罪・非行に関わるアディクション 【予習】様々な嗜癖（依存症）について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
6) 自傷行為・自殺行為への理解と対応 【予習】自傷行為・自殺について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
7) 非行少年の加害と被害 【予習】非行少年について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
8) 刑事事件と少年事件の処遇 【予習】成人と少年事件の司法手続きについて調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
9) 司法制度について（裁判員裁判・医療観察制度） 【予習】裁判員制度・医療観察法について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
10) 犯罪者への更生支援（1） 【予習】犯罪者の更生について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
11) 犯罪者への更生支援（2） 【予習】犯罪者の更生に利用できる心理療法について調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
12) 犯罪被害者支援の実態（1） 【予習】犯罪者の心情について調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
13) 犯罪被害者支援の実態（2） 【予習】犯罪被害者支援について調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
14) 家事事件への対応（1） 【予習】虐待・DVについて考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
15) 家事事件への対応（2） 【予習】面会交流の在り方について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
講義内容をもとに、他の心理学の理論との共通性やその応用を考察する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】レジメを配布する。 【参考書】 わかりやすい犯罪心理学 文化書房博文社 犯罪心理学への招待 サイエンス社 公認心理師の基礎と実践 19 司法・犯罪心理学 遠見書房 公認心理師分野別テキスト 4 司法・犯罪分野 創元社	

課題に対するフィードバック

授業の初めに、前回の授業のフィードバックを行う。

備考

オフィスアワー；講義終了後、質問を受け付ける。

科目名	心理学的支援法						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	榎本 俊哉		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 心理学的な支援方法の主要分野には、心理療法・カウンセリング・対人関係を良好に保つコミュニケーション法が含まれる。これらの支援方法は、クライアントのニーズや目的に合わせて行われるものである。従って、相談業務を遂行するにあたって習得すべき知識と技術が必要となる。本授業では、心理学的支援がどのように構築されてきたか歴史・概念などを概観し、相談ニーズに応じた支援の方法について実践を通じた具体的な講義にしていく予定である。 なお、この実習授業を担当する榎本俊哉は公認心理師・臨床心理士であり、主として教育・医療・産業領域における心理支援の実務経験がある。この経験をもとに、心理支援の実際問題についても講義する。							
到達目標 A3440ab 心理学的支援に関わるカウンセリング、心理療法、心の健康教育についての歴史、概念を学び、その意義や適応を理解できる。 地域（保健福祉分野、教育分野など）への心理学的支援について理解できる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション方法を修得する。 プライバシー、倫理的な配慮について理解できる。 心理学的支援を必要とする人の家族・関係者に対する支援について理解できる。			成績評価方法 定期試験、受講態度（ロールプレイ含む）、総合レポートにより評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							20

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション カウンセリング、心理療法の歴史、概念、意義、適応及び限界について【復習】授業内容の振り返り（60分）	
2) 相談援助におけるプライバシー・倫理的な配慮について 【復習】授業内容の振り返り（60分）	
3) 地域（保健福祉分野、教育分野など）への心理学的支援について 【復習】授業内容の振り返り（60分）	
4) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
5) 心理学的支援について 効果的な質問 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
6) 心理学的支援について 感情の反映 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
7) 心理学的支援について 内容の反映 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
8) 心理学的支援について 面接スタイルの形式 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
9) 心理学的支援について 情報の構造化 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
10) 心理学的支援について 感情伝達と即時性 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
11) 心理学的支援について 対決 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
12) 心理学的支援について 自己開示 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
13) 心理学的支援について 情報の行動と構造化 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
14) 心理学的支援について 面接技法の統合 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
15) 心理学的支援を必要とする人の家族・関係者に対する支援について （心の健康教育を含む） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	
授業外学習	
講義で学んだ心理学的支援の復習 適宜、レポートを課す。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：面接のプログラム学習 D.エバンス、M.ハーン、M.ウルマン、A.アイビー著 杉本照子監訳	感情・人格心理学、社会・集団・家族心理学、健康・医療心理学 学 カウンセリング論

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	社会・集団・家族心理学(家族心理学)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	木元 卓也		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 個人の人格を形成する上で、家族の果たす役割は大きい。家族関係から個人が受ける心理学的な影響を理解した上で、精神疾患・神経症等の不適応に対する家族療法について学ぶ。理論的な面では、システム論を重視する。家族療法では、精神分析的療法・行動理論的療法・認知行動療法的療法・システム論的療法、及び可能ならば、最近、注目されているDV(ドメスティックバイオレンス)被害を受けた母子への影響及び支援について、担当教員の実務経験でのフィールドについて触れたい。							
到達目標 ナンバリング (A3441ab) 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解する。 人の態度及び行動を理解する。 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解する。			成績評価方法 定期試験、受講態度・意欲で評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会・集団・家族心理学について 【予習】家族について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	授業内レポート
2) 対人認知について 【予習】対人認知について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
3) 態度と行動 【予習】人間と行動について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
4) ステレオタイプと偏見 【予習】ステレオタイプについて調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
5) 向社会的行動と反社会的行動 【予習】向社会的行動について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
6) 社会的促進と社会的抑制 【予習】社会的促進について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
7) 同調と服従 【予習】同調と服従について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
8) 集団過程 【予習】集団について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
9) 社会的相互作用 【予習】社会的相互作用について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
10) 対人関係の形成と発展 【予習】対人関係について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
11) 家族の人間関係 【予習】家族の発達について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
12) ソーシャルサポート 【予習】ソーシャルサポートについて調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
13) 文化と社会心理 【予習】海外の文化について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
14) 集合行動とマスコミュニケーション 【予習】集合行動について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
15) まとめ 【予習】ドメスティック・バイオレンスについて調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
授業外学習	
なし。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要によりレジュメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

グループワークでの気付きやレポートを適宜、授業内でフィードバックする。

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 産業・組織心理学について	
2) ストレスとメンタルヘルス セルフケア 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
3) ストレスとメンタルヘルス ラインケア1 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
4) ストレスとメンタルヘルス ラインケア2 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
5) ハラスメントについて 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
6) アサーションについて 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
7) リラクゼーションについて 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
8) 職場環境の改善について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
9) 長期休業後の復職支援について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
10) 労働者の人権について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
11) 産業・組織心理学の歴史 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
12) キャリア形成とワークライフバランス 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
13) 作業能率とヒューマンエラー 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
14) 商品イメージ・マーケティングと宣伝や広告・消費者心理 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
15) 組織における人の行動とリーダーシップ・仕事への動機付け 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
授業外学習	
<p>受講生は各自が興味あるテーマに沿って文献をまとめ、発表する。発表はパワーポイントなどを用いて他の受講生に分かりやすくすること。プレゼンテーションも評価の対象となる。なお、講義での発表および発表に必要なレポートの提出は必須とする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【参考書】 適宜プリントを配付する。</p>	<p>社会・集団・家族心理学 感情・人格心理学 健康・医療心理学</p>

課題に対するフィードバック

履修生のプレゼンテーションについては授業内でコメントする。
プレゼンテーション資料についてはA～Dの4段階で評価し、心理学的視点からコメントする。
なお、D評価となったプレゼンテーション資料については再提出を課す。

備考

科目名	関係行政論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	西村 秀明	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

心理臨床に携わる専門家として周知しておかなければならない各種制度について講義する。具体的には、1)保健医療分野に関する各制度、2)福祉分野に関する各制度、3)教育分野に関する各制度、4)司法・犯罪分野に関する各制度、5)産業・労働分野に関する各制度、などである。また、それぞれの制度にかかわる事例を通し、グループワークにおいて検討していく。

到達目標

ナンバリングA3442a

心理臨床に従事する専門家として、クライアント支援に際して必要不可欠である基本的な各領域における法的制度の修得。

成績評価方法

各制度について、その習得度を定期試験において評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 保健医療分野に係る各制度(1).....(予習)「精神保健福祉法」を読んでおくこと(90分)。(復習)「精神保健福祉法」についての成り立ちについて理解し、精神障害者の置かれている状況を認識する(30分)。	
2) 保健医療分野に係る各制度(2).....(予習)再度「精神保健福祉法」の条項を読んでおくこと(60分)。(復習)精神障害者の医療と保護について各条項の意味するところを理解する(30分)。	
3) 保健医療分野に係る各制度(3).....(予習)医療と保護に係る精神障害者の権利について学習しておくこと(60分)。(復習)精神障害者の権利保障を充分理解する(30分)。	
4) 保健医療分野に係る各制度(4).....(予習)「医療観察法」、「障害者総合支援法」を読んでおくこと(60分)。(復習)「医療観察法」、「障害者総合支援法」に照らして精神障害者の処遇、地域支援について習得する(60分)。	
5) 保健医療分野に係る各制度(5).....(予習)精神障害者に係る各法律について周知しておく(90分)。(復習)精神障害者の支援について法律に基づいて計画を策定できるようにする(60分)。	グループワーク
6) 福祉分野に係る各制度(1).....(予習)「児童福祉法」を読んでおくこと(90分)。(復習)児童の福祉についてその全体を理解する(30分)。	
7) 福祉分野に係る各制度(2).....(予習)「児童虐待の防止等に関する法律」、「子どもの権利条約」について学習しておくこと(90分)。(復習)子育て支援含め、子どもの生育を保障する社会の役割を認識する(30分)。	
8) 福祉分野に係る各制度(3).....(予習)子どもの育成に係る各事業について調べておく(90分)。(復習)事例を通して学んだ援助について、再度法律等と照らし合わせて制度の意味するところを認識する(60分)。	グループワーク
9) 教育分野に係る各制度(1).....(予習)「学校教育法」、「いじめ防止対策推進法」を読んでおく(60分)。(復習)支援者として「学校教育」、「いじめ対応」に係る役割を認識する(60分)。	
10) 教育分野に係る各制度(2).....(予習)「教育の確保法」及びこれに付随する文科省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」を読む(120分)。(復習)今後の不登校支援について視野を広げて理解する(30分)。	
11) 教育分野に係る各制度(3).....(予習)これまで学習した法律について再学習しておくこと(90分)。(復習)事例検討を踏まえ、学校や地域で生起する子どもたちの問題について、法律を念頭に支援の構築ができるようにする(60分)。	グループワーク
12) 司法・犯罪分野に係る各制度(1).....(予習)刑法犯罪・少年犯罪における心理的処遇について学習する(90分)。(復習)犯罪への一次予防、二次予防(更生プログラム)、三次予防(更生支援)について考える(60分)。	
13) 司法・犯罪分野に係る各制度(2).....(予習)「犯罪被害者等基本法」、「犯罪被害給付制度」を学習しておく(60分)。(復習)修復的司法を通し、加害者・被害者の心理的状態の推移(和解)を学ぶ(60分)。	グループワーク
14) 産業・労働分野に係る各制度(1).....(予習)「労働安全衛生法」について学習しておく(90分)。(復習)「労働安全衛生法」がどのように機能しているが理解する(30分)。	
15) 産業・労働分野に係る各制度(2).....(予習)過労死、過労自殺について調べておく(90分)。(復習)労働者支援に対し、「労働安全衛生法」はもとより、今後どのような施策が考えられるが検討する(90分)。	グループワーク
授業外学習	
それぞれの領域における法律について、事前に学習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各法律や制度については担当教員より指示するので用意しておくこと。また事例については担当教員が配布、または口頭で説明する。	心理実習、心理演習 ・ 、産業・組織心理学、社会・集団・家族心理学、教育・学校心理学、心理学的支援法

課題に対するフィードバック

事例検討においては、その都度コメントを提示して理解を深める。また、課題レポートに関してはこれを評価するとともに、的確な助言等を書き込んで返却する。

備考

科目名	行動療法			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

行動療法の基礎を学び、心理臨床場面でその補法をいかに使用するかを考え、実際に使えるようになる基礎の考え方、方法を学ぶ。行動療法派のみで無く、他の学派の心理臨床を中心とする立場の臨床心理家も「方法としての行動療法」は十分使用可能であることを理解でき、実践に応用できることを授業の目標にする。

到達目標

ナンバリング(A3443)

行動療法の基礎、特に方法についての基礎的理論と方法について理解し、心理臨床実践において応用することが可能になること

成績評価方法

- 1 出席状況
- 2 簡単な試験
- 3 授業中の熱心さ（発言、質問等）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 行動療法の概要 1	
2) 行動療法の概要 2	
3) 行動療法の事例 1	
4) 行動療法の技法 1	
5) 行動療法の技法 2	
6) 行動療法の技法 3	
7) 行動療法のすすめ方 1	
8) 行動療法のすすめ方 2	
9) 行動療法のすすめ方 3	
10) 行動療法のすすめ方 4	
11) 行動療法の事例 2	
12) 行動療法の事例 3	
13) 認知行動療法 1	
14) 認知行動療法 2	
15) 総括	
授業外学習	
教科書を事前に読んで授業にのぞんでください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書 山上敏子著 「方法としての行動療法」 金剛出版 ¥2,500+税	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	心理的アセスメント			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

心理検査は、投影法、質問紙法、精神作業検査法からなる。これらの主だった検査を受講者自身が実施し、それについての所見を書き提出する。

検査を知るには、自らが検査を受検しその検査を通して自分自身の所見を記載する。それにより、検査への理解がより深まる。

。実際体験した検査内容を整理し、検査それ自体の特性を理解する。また、クライアントへのフィードバックについてもペアを組んで実体験的に行う。

心理検査の結果の適切な記録と報告は、アセスメントには欠くことのできないものである。それらについては各検査を体験し報告書として提出されたものをすべてチェックしフィードバックする。

実務経験

臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

A3444ab

それぞれの検査を用いてバッテリーを組み、適正な所見が書けるようになることを目的とする。

成績評価方法

全ての検査を受検して、それぞれの検査を通して自分自身の所見を書く。いずれも重要な検査を実施する故、欠席は許されない。やむなく欠席する事態が生じた場合には、個別に実施する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							10
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							10
実習							10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) C M I と S D S を体験する 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それらを統合してレポートを書く
2) M A S と S T A I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それらを統合してレポートを書く
3) M M P I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	M M P I と S D S とをまとめてレポートを書く
4) Y G を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	Y G と M P I とをまとめてレポートを書く
5) T E G と P F スタディを体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	T E G と Y G とをまとめてレポートを書く
6) S C T を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	S C T と P F とをまとめてレポートを書く
7) 内田クレペリンを体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	内田クレペリンと M P I とをまとめてレポートを書く
8) ベンダーゲシュタルトとベントン記銘検査を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	ベンダーゲシュタルトと弁トンをまとめてレポートを書く
9) バウム2枚法を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	バウム2枚法と Y G をまとめてレポートを書く
10) 風景構成法を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	風景構成法と M M P I をまとめてレポートを書く
11) グッドイナフと M M P I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	グッドイナフと M M P I をまとめてレポートを書く
12) K - A B C 2、W I P P S I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	実際のデータをもとに内容を報告する
13) W I S C と W I S C - を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それぞれの検査の特性を報告する
14) W I S C と 田中ビネーを体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それぞれの検査の特性を報告する
15) 新K式と D N - C A S を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それぞれの検査の特性を報告する
授業外学習	
個人検査の場合はそれぞれペアになってお互いに取りあう。また、査定についても検証しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度資料を配布する。	

課題に対するフィードバック

課題についてはコメントして返却する。

備考

科目名	総合演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	2年	前期
担当者名	福祉心理学科教員	関連する資格		

授業概要

各モデルの教員が担当する。内容は各モデル担当教員の専門分野に関する詳しい内容である。また、資格取得のためのノウハウを身に付ける。

到達目標

A2303
モデル内での学習あるいは研究可能な領域を察知する。

成績評価方法

出席率と提出されたレポートにより評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 総合演習の位置づけ 専攻紹介・資格説明	
2) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
3) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
4) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
5) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
6) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
7) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
8) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
9) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
10) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
11) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
12) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
13) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
14) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
15) 各教員の計画によりすすめられる	レポート作成
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書については教員の指示による。	モデル内の専門科目全般。

課題に対するフィードバック

備考

科目名	総合演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	2年	後期
担当者名	福祉心理学科教員	関連する資格		

授業概要

総合演習 に引き続いて、各モデルの教員が担当する。授業計画は担当教員ごとに異なる。内容は専門分野に関する詳しい内容ものになる。

到達目標

A2304
各専門分野の内容を理解し、自分の将来の姿が描けるようにする

成績評価方法

出席率と提出されたレポートより評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	
2) インターンシップ報告会	プレゼンテーション
3) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
4) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
5) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
6) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
7) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
8) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
9) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
10) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
11) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
12) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
13) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
14) 各教員の計画により進められる	グループワーク レポート
15) 卒業研究報告会参加	
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書については教員の指示による。	モデル内の専門科目全般。

課題に対するフィードバック

備考

科目名	総合演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	前期			
担当者名	福祉心理学科教員		関連する資格				
授業概要 モデル内で選んだ教員の研究にふれることにより、専門性を高める。卒業研究の準備として取り組む。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取り組み、専門性を深めていく。							
到達目標 A3301 報告・発表、議論等の能力を養う。 主題に関する専門性を高める。 卒業研究に向けてレポートの質を高める。			成績評価方法 出席率、提出レポートによって総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
2) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
3) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
4) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
5) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
6) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
7) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
8) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
9) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
10) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
11) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
12) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
13) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
14) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
15) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
担当教員ごとに指示する。	選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

備考

科目名	総合演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	後期			
担当者名	福祉心理学科教員		関連する資格				
授業概要 モデル内で選んだ教員の研究にふれることにより、専門性を高める。卒業研究の準備として取り組む。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。なお、卒論研究は、総合演習を選択した教員にこだわる必要は無い。							
到達目標 A3302 報告・発表、議論の能力を高める。 主題に関する専門性を高める。 卒業研究へのレディネスの形成。			成績評価方法 出席率および提出レポートより総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
2) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
3) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
4) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
5) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
6) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
7) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
8) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
9) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
10) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
11) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
12) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
13) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
14) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
15) 各教員の計画によりすすめられる 卒業研究報告会参加	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
担当教員ごとに指示する。	選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

備考

科目名	キャリア支援						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	2年	前期			
担当者名	角光 通子		関連する資格				
授業概要 大学卒業後の職業選択に関する基礎的な事項について理解を深める。また、社会人・職業インタビューの実施、発表を通して、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力に磨きをかける。							
到達目標 A2502 ○社会人として必要な能力の向上 ○社会で働くことの意義を考えることができる ○広い範囲から職業選択、進路選択ができる			成績評価方法 授業への積極的な参加、授業外レポートなどによる総合評価				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】 【復習】小レポートを作成する（90分）	小レポート
2) 大学生活の計画&振り返り～これまでの大学生活を振り返り今後の活動を考える～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
3) コミュニケーション（伝える） 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
4) コミュニケーション（聞く） 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
5) 世の中の仕組みを知る～職業を知る～ハピキャリを通して、職業を知る 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
6) 世の中の仕組みを知る 働き方の多様性を知る職種や働き方（雇用形態等）とは 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
7) Web情報・書籍の活用 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
8) 労働法について 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
9) コミュニケーション（書く）書くことを通して、コミュニケーションをはかる 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
10) ワールドカフェ～習得したコミュニケーションを活用する～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
11) インタビュー発表 各自で実施したインタビューの発表 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
12) インタビュー発表 各自で実施したインタビューの発表 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
13) インタビューまとめ インタビューの振り返り 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
14) キャリア理論～キャリア理論の概要～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
15) 総括 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
授業外学習	
<p>毎授業後、作成するレポートを通して、自身の課題を明確にし、次回の授業への関わりに活かす。 社会人へのインタビューを実施し、レポート作成及び、プレゼンテーションの準備をする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>適時資料を配布する。 キャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にして、自分に合った教材を見つける。</p>	<p>インタ-ンシップ キャリア支援、</p>

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

科目名	キャリア支援						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	前期			
担当者名	角光 通子		関連する資格				
授業概要 将来の進路を見据え、不足している能力や知識を認識し、主体的にその能力や知識の習得に取り組む。グループワークを通して、自己理解を深めると同時に、スピーチ、プレゼンテーションなどを通して、社会人基礎力を育成する。							
到達目標 A3501 ○自己の価値観を確立する ○自己を客観的に分析できる能力の習得 ○仕事を取り巻く社会環境について、理解することができる			成績評価方法 授業への積極的な参加、授業外レポートなどによる総合評価				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】 【復習】小レポートを作成する（30分）	小レポート
2) 就職活動の全体像を知ろう ～就職活動の現状の理解～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
3) PROGの実施 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
4) コミュニケーション 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
5) 自己を知ろう 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
6) 自己を知ろう 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
7) コミュニケーション（相手に伝わる文章） 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
8) PROGの解説 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
9) ワールドカフェ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
10) 応募書類を作成しよう 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
11) 労働市場を知る ～各業界、地域等の労働市場について～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
12) マナー講座 ～マナー全般～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
13) マナー講座 ～就職活動や実習での電話対応～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
14) マナー講座 ～就職活動等での身だしなみ～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
15) 総括 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
授業外学習	
毎授業後、作成するレポートを通して、自己の思いに向き合い、自身の課題を明確にする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適時資料を配布する。 キャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にして、自分に合った教材を見つける。	インターンシップ キャリア支援

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

科目名	キャリア支援						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	後期			
担当者名	角光 通子		関連する資格				
授業概要 キャリア支援 ~ の総仕上げとして、自身の目指す進路に進めるように努力する。							
到達目標 A3502 ○希望の進路を決定し、主体的に取り組むことができる ○一般常識やマナーなど社会で必要とされる力を身に付けることができる 具体的な就職活動、進路選択活動の行動を起こすことができる			成績評価方法 授業への積極的な参加、授業外レポートなどによる総合評価				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	オリエンテーション ガイダンス 【予習】 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
2)	就職・進学における活動の進め方 ～就職・進学における今後の活動概要～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
3)	応募書類を作成しよう ～履歴書等の応募方法の作成～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
4)	応募書類を作成しよう ～履歴書等の応募方法の作成～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
5)	働く者の権利と保障の理解 ～労働者としての権利と保障を学ぶ～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
6)	働く者の権利と保障の理解 ～労働者としての権利と保障を学ぶ～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
7)	お金の話 ～税金・社会保険の理解～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
8)	集団面接体験講座 ～集団面接の概要を知り、体験～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
9)	集団面接体験講座 ～集団面接の概要を知り、体験～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
10)	グループディスカッション体験講座 ～概要を知り、体験～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
11)	グループディスカッション体験講座 ～概要を知り、体験～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
12)	Webエントリー講座 ～就職・進学における活動に対してWebの活用方法～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
13)	社会人としての自覚 ～各分野で活躍されている社会人の方の講演～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
14)	先輩からのメッセージ ～各分野で活躍されている本学の卒業生の講演～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
15)	総括 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
授業外学習		
毎授業後、作成するレポートを通して、自己の思いに向き合い、自身の課題を明確にする。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
適時資料を配布する。 キャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にして、自分に合った教材を見つける。		インターンシップ キャリア支援

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

科目名	卒業研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	4年	通年(前期)
担当者名	福祉心理学科教員	関連する資格		

授業概要

大学4年間の総まとめとして各モデル別に学んだ専門分野の中から、自分が本当にやりたいものは何かを見つけ、テーマを決めて取り組む。2年～3年次で習得した「総合演習」の経験を生かすことが望ましい。担当教員のもとで資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。

到達目標

A4301b
自分の納得のいく論文を作成する。

成績評価方法

出席状況と研究内容との総合評価。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							70
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
2) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
3) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
4) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
5) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
6) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
7) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
8) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
9) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
10) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
11) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
12) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
13) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
14) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
15) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

備考

科目名	卒業研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	4年	通年(後期)
担当者名	福祉心理学科教員	関連する資格		

授業概要

大学4年間の総まとめとして各モデル別に学んだ専門分野の中から、自分が本当にやりたいものは何かを見つけ、テーマを決めて取り組む。2年～3年次で習得した「総合演習」の経験を生かすことが望ましい。担当教員のもとで資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。

到達目標

A4301b
自分の納得のいく論文を作成する。

成績評価方法

出席状況と研究内容との総合評価。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							70
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
2) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
3) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
4) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
5) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
6) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
7) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
8) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
9) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
10) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
11) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
12) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
13) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
14) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
15) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

備考

科目名	子どもの発達と学習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	2	2年	前期			
担当者名	三島 瑞穂		関連する資格				
授業概要 保健師や養護教諭，教師が児童期・思春期の子どもと関わる際に必要な知識の習得を目的とする。幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程と学習の過程を、学習心理学や教育心理学の知見を取り入れながら学ぶ。現場で学習の援助や発達の理解をその発達の背景や環境を踏まえて対処する力を身につける。発達障害、学習障害へ支援の工夫を考えることができるよう、その特徴と対処について学ぶ。							
到達目標 ナンバリング(C1407sr) 1. 幼児児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 3. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 4. 主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて理解している。 5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 6. 加えて発達障害、学習障害の幼児、及び生徒の発達の特徴を理解し、学校における支援の在り方を考えることができる。			成績評価方法 毎回の授業の最後に提出するレポート（100％） 。1回目は授業に対する意欲、2回目～15回目は授業内容の理解と自分なりの考察が求められる。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							20
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							5
グループワーク							20
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 発達メカニズムの理解 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
2) 知性と認知の発達、知能の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
3) 社会性の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
4) 児童期の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	映像を用いた学習
5) 思春期・青年期の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
6) 認知と学習 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
7) 学習の理論 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
8) 教育における学習理論の応用 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
9) 動機づけ 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
10) 教育評価 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
11) 学校現場で学習障害を背景とした学習の困難さの理解と教育支援 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
12) 学校現場で発達障害（自閉症スペクトラム）を背景とした学習の困難さの理解と教育支援 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
13) 学校現場で発達障害（ADHD）を背景とした学習に対する理解と教育支援 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
14) 学校の集団生活が子どもの心的発達に与える影響 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
15) 教員との関わりが子どもの心的発達に与える影響 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
授業外学習	
小児看護学、障害発達心理学等、他の科目との関連を検討しておく。子どもを対象にしたボランティア活動等、子どもと積極的に触れ、子どもと学習支援への関心を高めておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書・参考資料の内容を元に、独自のテキストを作成する。 発達と学習（Next教科書シリーズ）内藤 佳津雄（編集）、北村世都（編集）、市川 優一郎（編集） 弘文堂 発達と学習（教職教養講座）子安 増生（著）、明和 政子（著）、稲垣恭子（監修）、高見茂・田中耕治 協同出版	生涯発達心理学 小児看護学

課題に対するフィードバック

小レポートは翌週、授業の中でコメントをする。授業外レポートについては、最後の授業で資料配布とコメントを行う。

備考

科目名	教育社会学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	2	2年	後期
担当者名	白石 義孝	関連する資格		

授業概要

教育社会学の理論および方法、また具体的な研究成果の現状について、受講者によるテキスト概要に関連したトピックの報告と質疑応答により知識の定着をはかる。
 様々な教育活動は社会全体の動きと無関係ではない。本講義では、教育社会学という学問領域の特徴を学ぶことにより、教育と社会の関わりについて考えることのできる素養を養う。受講者が各人の学校体験を無責任に「熱く」語るのではなく、報告の分担を通じて、冷静な事実認識ができるように、社会学的な「目」を培うことを目的とする。

到達目標

C1408

1. 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる問題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解できる。
2. 学校と地域の連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解できる。
3. 学校の管理下で起きる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解できる。

成績評価方法

定期試験（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○		○			40
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		
演習		○	○		○		
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) 学校と社会をめぐる様々な状況の変化 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 高学歴社会における教育機会と費用負担 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 子どもの貧困について考える 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 新学習指導要領にみる学校教育の変化 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 国際化と小学校英語必修化について考える 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) 諸外国の教育制度（我が国との違い） 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 少子高齢社会における学校の変化 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 教育から職業への移行と就職活動 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) 少年犯罪といじめ問題について考える 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 学校と地域との連携の意義と協働の仕方 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) 開かれた学校づくりへの取り組み 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 学校における事件・事故の現状と課題 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) 学校における安全管理と安全教育の取り組み 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 予習：テキストの指定したページを読む（30分） 復習：最終課題を作成する（180分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 半径5メートルからの教育社会学（片山悠樹ほか編、大月書店） 参考書・参考資料等 ・最新の学習指導要領（小学校・中学校・高等学校） その他講義中において適宜紹介する。</p>	<p>現代社会の教育、教職概論、教育課程論、教育原理、教育相談・カウンセリング、教育方法・技術論、特別活動論（道徳及び総合的な学習を含む）、特別支援教育論、生徒指導論、学校体験活動、ボランティアと社会</p>

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

科目名	特別活動論（道徳及び総合的な学習を含む）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	2	2年	前期
担当者名	吉岡 一志	関連する資格		

授業概要

自身の過去の経験を踏まえながら、特別活動と総合的な学習の時間、また道徳教育の意義と内容及びこれらと教科等との関連を理論的に理解し、そのうえで実践に向けた方法的視点を深める。特別活動、総合的な学習の時間、道徳教育を教科との関連を踏まえながら、統合的に理解していくことを目指す。

到達目標

ナンバリング(C1410)

特別活動と総合的な学習の時間の意義と内容及びこれらと教科等との関連を理論的に理解するとともに、実践化のための方法的視点や具体的手立てを深める。合わせて、道徳教育について概観し、現代の子どもをめぐる諸課題との関係性について理解する。

成績評価方法

授業態度、レポート、プレゼンテーション等の成績を総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							40
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方 ガイダンス、特活の概説 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
2) 現代社会の今日的課題と特別活動（道徳及び総合的な学習を含む） 現代社会の課題から特活の意義を考える 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
3) 特別活動の内容と方法 学習指導要領から特活の内容と方法を整理する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
4) いじめから考える現代の子どもたち いじめを事例に子ども集団の課題について考える 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
5) 小括（現代の子どもに求められる力、レポート作成） 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	レポート作成
6) 道徳教育の歴史と現在 道徳教育の歴史を振り返り、道徳教育の意義を考える 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
7) 総合的な学習の時間の意義と原理 学習指導要領から総合学習の意義と原理を整理する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
8) 主体的な学びの意義とその実践 映画を見ながら、主体性に関する理論を整理する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
9) 自己と他者の理解を通じた将来設計 個性形成の理論を踏まえたキャリア教育の方法を検討する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
10) 小括（考えることの意味、レポート作成） 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	レポート作成
11) 特別活動（道徳及び総合的な学習を含む）における子どもと教師の関係性 教師が登場する漫画を分析し、あるべき教師像を模索する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
12) 子どもの心と学校生活 漫画題材として、子どもの心に向き合う教師像を模索する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
13) 総合的な学習の時間の事例と学習指導計画の作成（ワーク） 学習指導要領から教育目標を定めて、指導案を作成する 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク
14) 学習指導計画の発表（プレゼンテーション） 学習の成果を発表し、評価する視点を養う 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする 【予習】指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をまとめる(60分)	レポート作成
授業外学習	
特別活動に関する様々な理論を講義中に紹介する予定です。難解な理論も多いので、必ず復習すること。また、適宜参考文献を紹介するので、興味がある理論については文献を読むこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：小学校学習指導要領（最新版）、中学校学習指導要領（最新版） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説・特別活動編（最新版）、中学校学習指導要領解説・特別活動編（最新版） 必要に応じて資料を配布予定	

課題に対するフィードバック

授業内に個別にコメントを行う。

備考

科目名	教育方法・技術論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	2	2年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格		

授業概要

子どもや学校を取巻く環境の大きな変化にともない、学校教育の内容・方法も問われている。これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるために、学校教育における教える・学ぶ活動を中心に据え、そこで展開されるさまざまな形態や方法・技術・手法について事例紹介とワークを踏まえて学んでいく。さらに、今日における教育目的・内容と教育方法を考察し、アクティブラーニング、学習環境のデザイン、ICTの活用、教育の質的評価などといった小中学校から大学まで、今日の教育者に必要とされる最新の教育技術を理解する。

到達目標

C1411

1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。
2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けることができる。
3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けることができる。

成績評価方法

定期試験（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）

評価項目	評価基準							評価割合（％）
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							40	
小テスト、授業内レポート							10	
宿題、授業外レポート							30	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション							20	
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：これからの子どもたちに育みたい資質・能力 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) 教師に求められる授業力とは 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 授業をつくるということ 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 評価をデザインする 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 学習環境をデザインする 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 授業を支える指導技術（教師編） 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) 学びを引き出す指導技術（児童・生徒編） 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 学習目標の設定 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 深い学びを導く教材研究 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) 主体的・対話的な学習過程 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 学びが見える評価方法 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) 授業の魅力・効果・効率を高めるICT 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 情報活用能力を育てる 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) これからの学習環境とテクノロジーの役割 予習：テキストの指定したページを読む（15分） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 総括（模擬授業・研究授業の実施と改善、レポート作成） 予習：テキストの指定したページを読む（30分） 復習：最終課題を作成する（180分）	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト： ・稲垣忠 編著『教育の方法と技術』北大路書房、2019年 参考書・参考資料等 ・稲垣忠ほか著『授業設計マニュアルVer.2』北大路書房 ・最新の学習指導要領（小学校・中学校・高等学校） その他講義中において適宜紹介する。	現代社会の教育、教職概論、教育課程論、教育原理、教育相談 ・カウンセリング、特別活動論（道徳及び総合的な学習を含む） ・特別支援教育論、生徒指導論、教育社会学、学校体験活動 ・ボランティアと社会

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

科目名	生徒指導論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	2	2年	前期
担当者名	脇 貴典	関連する資格		

授業概要

学校においていじめ、不登校など多くの問題が起こっており、学校教育において生徒指導の果たす役割の重要性が増している。生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。生徒指導の意義、原理、方法についての理解を深め、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目的とする。

実務経験

東京都教育委員会 公立学校スクールカウンセラー
 埼玉県教育委員会 特別支援教育巡回相談員
 所沢市教育委員会 就学支援相談員
 埼玉県戸田市教育委員会 スーパーバイザー

到達目標

ナンバリング(C1412)

生徒指導の意義や原理を理解する。
 すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

成績評価方法

小テスト、授業内レポート(20%)、定期試験(60%)、授業態度・授業参加度(10%)、グループワーク(10%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 生徒指導とは 【予習】「生徒指導」について知りたいことをまとめる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
2) 生徒指導の原理・基本的な考え方 【予習】「生徒指導の原理」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
3) 児童生徒の問題行動の理解 【予習】生徒指導の対象となる「問題行動」について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
4) 児童生徒の問題行動への対応 【予習】生徒指導の対象となる「問題行動」について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
5) 児童生徒理解の考え方と生徒指導の方法 【予習】問題行動を示す児童生徒の背景について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
6) 「いじめ」問題の理解 【予習】「いじめ」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
7) 「いじめ」問題への取り組み 【予習】「いじめ」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
8) 「いじめ」への対応 【予習】「いじめ」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
9) 児童生徒の示す様々な問題行動の理解と対応 【予習】生徒指導の対象となる「問題行動」について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
10) 「不登校」問題の理解 【予習】「不登校」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
11) 「不登校」問題への取り組み 【予習】「不登校」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
12) 「不登校」への対応 【予習】「不登校」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
13) 生徒指導体制の確立と運営 Positive Behavior Supportの紹介 【予習】学校の生徒指導体制について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
14) 生徒指導体制の確立と運営 校内連携による支援の実際 【予習】学校の生徒指導体制について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
15) 総括 【復習】これまでの授業内容についてまとめ統括する（90分）	授業内レポート
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> ・配布する資料について、熟読しておく。 ・毎授業終了時にキーワードを提示し授業内容について各自まとめる。 	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 必要に応じて資料を配布する。 参考書・参考資料等 石黒康夫・三田地真実 参画型マネジメントで生徒指導が変わる 図書文化 2015年 文部科学省 生徒指導提要 2010年	

課題に対するフィードバック

授業内レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	教育実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

事前指導では、教育実習の意義・目標についての概要を把握し、合わせて、実習に臨む姿勢・態度・心構え、実習生を迎える生徒の態度、実習生として生徒に対する態度、学習指導上の留意点について学ぶ。また、実際の高等学校の教育現場を知り、授業の方法を考える。事後指導では、教育実習を振り返り、指導教諭の指導・助言を踏まえて、自己を見つめ、教育実践を深める。

到達目標

C4401

- ・教育実習の意義と目標を理解する。
- ・教育実習の全体像について、理解する。
- ・生徒から見た教師像について考える。

成績評価方法

模擬授業、学習指導案、授業内、授業外レポートの内容で評価する(理由なく欠席した場合は単位を認めない)。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							40
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1) 教育実習指導とは：教育実習指導の目標、授業計画などについて講義、教育実習の意義と目標</p> <p>2) 教育実習の展開：事前研究（実習前の心構え、大学における事前指導、実習校における事前指導）、教育実習の心得、教育実習の形態、事後研究（研究の継続、自己評価と反省）</p> <p>3) 実習指導 実習の準備 1：教材研究、授業の構成</p> <p>4) 学習指導の実際と学習指導案の作成 実習の準備 2：学習指導の過程、指導形態</p> <p>5) 授業研究 実習の準備 3：授業研究の実際、教育実習の記録</p> <p>6) 道徳・特別活動・総合的な学習 実習の準備 4：道徳の目標、内容、指導計画の立案、指導法、総合的な学習の時間における目標、指導、情報収集、特別活動</p> <p>7) 生活指導と学級経営 実習の準備 5：生活指導の性格、学級づくり、問題行動の指導、学級経営案、学級経営上の留意点、学級事務、学校保健、学校安全</p> <p>8) 教師としての勤務 実習の準備 6：勤務時間の設定、研究の活動など</p> <p>9) 模擬授業 1：模擬授業の実践(1)</p> <p>10) 模擬授業 2：模擬授業の実践(2)</p> <p>11) 模擬授業 3：模擬授業の実践(3)</p> <p>12) 実習直前指導 実習の準備 7：実習日誌の書き方など</p> <p>13) 教育実習の振り返り：自己評価と実習の意義</p> <p>14) 教育実習のまとめ：教育実習の評価</p> <p>15) 教育実習指導のまとめ：総括</p> <p>各回の予習として、テキストの指定箇所を読んでおく（60分） 各回の復習として、指定された課題のレポートを作成する（60分）</p>	<p>授業内レポート</p>
授業外学習	
<p>授業計画に示されている内容について、教育実習関連の参考書を読んで予習をしてください。授業計画の進行に応じて、学習指導案を作成してください。模擬授業の展開を練習しておいてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>参考書 「教育実習 教職実践演習 フィールドワーク」協同出版 「早稲田大学 教育実習マニュアル」東信堂</p>	<p>社会福祉士国家試験受験資格に関する科目、教職に関する科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

【履修条件】

- ・3年次までの福祉分野の専門科目および教職科目をすべて履修済みであること。
- ・成績優良であること(GPA2.5以上)

科目名	教育実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

教育実習では、大学で社会福祉の科目や、教職関連科目を履修していくうえで理解した知識、技能を、教育現場で実践的に学習することを目的とする。具体的には、学校経営、学校の組織、児童生徒の理解、教育課程、学習指導、道徳・特別活動・総合学習、生徒指導と学級経営などを実際の学校教育のなかで、指導教諭の指導を受けながら、生徒と教育的関係を通して理解する。特に学習指導における教材研究と学習指導案の作成、そして、これに基づく授業展開について学習する。

到達目標

C4402

- ・教育課程や学習指導について研究を深め、実践する。
- ・教材研究を習得し、学習指導案の作成ができる。
- ・教材研究と学習指導案に基づいた、授業展開ができる。
- ・特別活動や生徒指導について理解する。
- ・学校・学級運営に参画し、教師の勤務を理解する。
- ・自らの教師としての適性について検討する。
- ・生徒の発達、学校生活への理解を深める。
- ・生徒とのコミュニケーションを図る。

成績評価方法

実習巡回指導、実習評価表、実習ノートの内容などを勘案して、総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							90

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～15) 6月から9月に、各教育機関で、教育実習を行なう。</p> <p>実習中の予習・復習については、実習先の指導教員の指示に従うこと</p>	<p>実習中のすべての活動</p>
授業外学習	
<p>実習事前の学習として、学習指導案を作成し、教材研究などに取り組んでください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>参考書 「教育実習 教職実践演習 フィールドワーク」協同出版 「早稲田大学 教育実習マニュアル」東信堂</p>	<p>社会福祉士国家試験受験資格に関する科目、教職に関する科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

実習先では、学生という立場ではなく、教育実習生であるという自覚を常に持つこと。
不明な点があれば、一人で勝手に判断せず、必ず指導担当教員の判断を求めること。
特別活動や学級の行事、清掃活動等に参加し、実習生として積極的に生徒に語りかけることを心がける。また自分の進路選択の経験についても機会があれば述べること。

科目名	教職実践演習（高）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	2	4年	後期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	高等学校教諭（福祉）一種免許状	

授業概要

本科目では、社会福祉関連の「教科に関する科目」や「教職に関する科目」で学習した専門的知識と、教育実習指導や教育実習で学んだ教科指導力や生徒指導力の実践的知識の統合を図り、教員としての実践的指導力を伴った、教員としての資質の到達点を総合的に判断し、指導する。主な授業形態は、講義、今日的な教育課題に関する役割演技（ロールプレイング）、事例研究、グループ討論等の演習や現地調査（フィールドワーク）などの方法を適宜適用する。

- 【講義・グループワーク】看護学科養護教諭一種課程と合同で実施する。（3回程度）
- 【フィールドワーク】山口大学主催のYFLプログラムなどに参加する。（3日間×2回程度）
- 【事例研究】児童養護施設や特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う。（必要に応じ追加する）

到達目標

C4403

本科目は、学生が教養教育科目、教職関連科目、社会福祉に関する教科関連科目を学んだことによって、使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力など教員としての資質能力が、有機的に統合され、形成されたかについて確認する。

成績評価方法

すべての演習の授業が終わった後の課題レポート、各授業ごとの評価レポート、授業の参加状況と態度などで総合的に評価をする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（合同） ・授業の目的・すすめ方・履修カルテの確認 ・自己の振り返り評価～用紙への記入	
2) 教職課程をふり返る（合同） 本学での学習や教育実習を振り返り、各人の自己評価一覧を開示し、他者との比較も合わせて、自他の課題を明らかにする。	授業内レポート
3) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
4) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
5) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
6) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
7) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
8) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	参加レポート
9) ケースマネジメント（合同） ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	授業内レポート
10) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
11) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
12) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
13) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
14) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	参加レポート
15) まとめ・振り返り ・この授業を通して学んだことを整理し、それをもとに、今後の教育職あるいは社会福祉援助職としての自身のキャリアを構想する。	期末レポート
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書 「教育実習 教職実践演習 フィールドワーク」協同出版 「早稲田大学 教育実習マニュアル」東信堂	社会福祉関係の科目、教職関連科目

課題に対するフィードバック

備考

【履修条件】

- ・教育実習および福祉分野の専門科目および教職科目をすべて履修済みであること。
- ・成績優良であること(GPA2.5以上)

フィールドワークは夏休み中に実施される場合もある。

科目名	特別支援教育論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	2	2年	後期			
担当者名	脇 貴典		関連する資格				
授業概要 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が学校生活に適応して参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。							
実務経験 東京都教育委員会 公立学校スクールカウンセラー 埼玉県教育委員会 特別支援教育巡回相談員 所沢市教育委員会 就学支援相談員 埼玉県戸田市教育委員会 スーパーバイザー							
到達目標 ナンバリング(C1413) 1. 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解できる。 2. 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解できる。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解できる。			成績評価方法 小テスト、授業内レポート(20%)、定期試験(60%)、授業態度・授業参加度(10%)、グループワーク(10%)				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方 【予習】「特別支援教育」について知りたいことをまとめる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
2) 特別支援教育の制度の理念や仕組み（インクルーシブ教育システムを含む） 【予習】「特別支援教育の理念や仕組み」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
3) 特別支援教育と学校づくり（体制整備と地域資源） 【予習】「特別支援教育の体制整備」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
4) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性、学習の過程【予習】「特別な支援」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
5) ASDの理解と指導・支援 【予習】「ASD」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
6) ADHDの理解と指導・支援 【予習】「ADHD」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
7) LDの理解と指導・支援 【予習】「LD」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
8) 知的障害の理解と指導・支援 【予習】「知的障害」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
9) 視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援 【予習】「視覚・聴覚障害」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
10) 肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援 【予習】「肢体不自由等」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
11) 個別の指導計画と教育支援計画 指導・支援計画作成の意義と方法 【予習】「個別の指導計画」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
12) 個別の指導計画と教育支援計画 作成・活用の実際と配慮 【予習】「支援計画の活用」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
13) 「通級による指導」及び「自立活動」の内容 【予習】「通級による指導等」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
14) 特別な教育的ニーズに対する保護者・家庭との連携 【予習】「保護者のニーズ」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（90分）	授業内レポート
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布する資料について、熟読しておく。 ・ 毎授業終了時にキーワードを提示し授業内容について各自まとめる。 	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト： 必要に応じて資料を配布する 参考書・参考資料等 柘植雅義 はじめての特別支援教育 有斐閣アルマ 2014年 特別支援学校学習指導要領（最新版）小学校学習指導要領（最新版）中学校学習指導要領（最新版）	

課題に対するフィードバック

授業内レポートはコメントをつけて返す。

備考